

令和 7 年 度

事業報告書



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

岩手県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

令和7年度の各施設の主要事業及び行事について	1
1 災害救護	2
(1) 救護活動	2
(2) 救護員育成	3
(3) 救護員の登録・編成状況	4
(4) 救護資材の整備状況	5
(5) 救援物資の整備状況	7
(6) 個人ボランティア（防災ボランティア・地域の絆ボランティア）養成状況	9
(7) 災害義援金の受付状況	11
(8) 防災・減災の取組	12
(9) 復興支援活動	15
(10) 臨時救護	15
2 救急法等の講習	16
(1) 各講習の活動概要	16
3 赤十字奉仕団・ボランティア活動	26
(1) 地域包括ケア推進事業	26
(2) 赤十字奉仕団、ボランティア活動概要	27
(3) 会議・研修・訓練	30
4 青少年赤十字	32
(1) 本社主催事業	32
(2) ブロック主催事業	32
(3) 支部主催事業	33
(4) 研究推進指定校	33
5 国際活動	37
(1) 全社の活動概要	37
(2) 海外救援金等受付状況	39
6 医療事業、血液事業、社会福祉事業	40
(1) 医療事業	40
(2) 血液事業	44
(3) 社会福祉事業	56
7 赤十字思想の普及・広報	61
(1) 赤十字思想の普及啓発	61
8 会員・活動資金	64
(1) 会員・活動資金概要	64
(2) 社業の振興	66
(3) 表彰概要	68
9 有功会の活動	70
10 評議員会の開催	72
11 決算概要	74

付 録

○ 日本赤十字社岩手県支部現勢	76
○ 日本赤十字社岩手県支部組織図	77
○ 各施設等の職員数	77
○ 各施設の幹部職員	78
○ 岩手県支部のあゆみ	79
○ 日本赤十字社現勢	101
○ 用語解説	102
○ 赤十字標語一覧	

は じ め に

赤十字事業の推進につきましては、平素から県民の皆様並びに地区・分区をはじめとする関係者の皆様から深い御理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本赤十字社は、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ことを使命としています。

私たちは赤十字運動の担い手として、人道の実現のために利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動することを目指しております。

そのような中で岩手県支部の各施設は、様々な工夫を凝らしながら、各種事業を着実に実施して参りました。

支部事業につきましては、県内外に救護班を派遣するような災害は発生しませんでした。12月に青森県東方沖で震度6強の地震が発生し、岩手県沿岸に津波警報が発令されたことから、第一次救護体制及び支部災害対策警戒本部を設置し情報収集に努めました。

医療事業につきましては、信頼される医療を提供し、地域医療支援病院として医療・介護・福祉の連携に努めるとともに、救急医療および災害救護に貢献できる体制の整備を進めて参りました。

血液事業につきましては、広域事業運営体制の下、医療機関の需要動向を把握し、より安全な血液製剤を安定的に供給するよう努めております。令和7年7月30日から血小板製剤の新たな安全対策として、すべての血小板製剤に細菌スクリーニングを開始しました。

乳児院につきましては、心身ともに健やかに成長できる養育の提供に努めるとともに、社会的養護の推進のため、家庭支援専門相談員と里親支援専門相談員が中心となり、早期の家庭引取や円滑な里親委託に重点を置いて取り組みました。また、地域の子育て支援への取り組みとして「もぐもぐ食育体験」や「赤ちゃん食堂」を開催、子育て短期支援事業については継続して取り組んでおります。

鶯鳴荘につきましては、利用者本位のサービス提供を中心とし、増加する医療ニーズへの対応や看取り介護について積極的に取り組みました。そのために必要な医療と介護の連携をさらに推進することや高齢者虐待の防止の推進、認知症への対応力向上等に努めました。今後も地域住民との連携、交流を図りながら地域福祉の向上に努めて参ります。

今後とも、関係各位の一層の御支援、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和8年5月15日

日本赤十字社岩手県支部
支部長 達 増 拓 也

令和7年度の各施設の主要事業及び行事について

月	日	内 容
4月	1日	管内施設幹部職員及び合同採用新規採用職員支部長辞令交付式（県庁第一応接室）
	2～13日	春の献血キャンペーン（献血バス）
	8日	管内新規採用職員研修（支部会議室）
	14～30日	メルシー献血推進キャンペーン（献血ルーム）
5月	1日	赤十字創立記念日・岩手日報に赤十字運動月間に関する全面広告掲載
	10日	赤十字ふれあいフェスティバル（イオンモール盛岡）
	10～31日	献血予約推進キャンペーン（献血ルーム）
	28日	岩手県支部監査委員監査（支部会議室）
6月	7～29日	献血予約推進キャンペーン第2弾（献血ルーム）
	9日	第1回評議員会（いわて県民情報交流センターアイーナ）
	22日	合同採用会社説明会（会議室）
7月	3日	医療連携機関の集い（ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING）
	4日	七夕交流会（御所小学校児童）
	16日	献血推進運動全国大会（仙台市）
	20日	合同採用会社説明会（会議室）
	25日	献血推進協力団体等表彰状伝達式（サンセール盛岡）
	30～31日	青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター（国立岩手山青少年交流の家）
8月	1～31日	SUMMER献血キャンペーン（献血ルーム）
	2日	さんさ踊り参加（管内全施設）
	9～10日	日赤第1ブロック支部赤十字救護班研修（石巻市）
	11日	いわて就職マッチングフェア（いわて県民情報交流センターアイーナ）
	16～17日	キッズお仕事フェスタ（イオンモール盛岡南）
9月	8～10日	大阪・関西万博視察研修（支部職員・赤十字奉仕団員等）
10月	10～11日	日赤第1ブロック支部合同災害救護訓練（男鹿市）
	16日	JRC委員会高校生大会（病院記念講堂）
	21日	岩手県赤十字有功会の集い（サンセール盛岡）
	下旬	翌年度合同採用内定者決定
11月	1～2日	赤十字青年奉仕団統一キャンペーン（会議室に宿泊）
	15～30日	献血アプリ予約・献血推進キャンペーン（献血ルーム）
	17日	岩手県JRC活動事例発表研究会（サンセール盛岡）
12月	1日	グループ支援病院経営改善事例共有会（本社）
	6～25日	クリスマス献血キャンペーン
	7日	司法書士による相続・終活セミナー（いわて県民情報交流センターアイーナ）
	12日	職場体験学習（御所小学校）
	18日	クリスマス会（乳児院）
	22日	合同採用内定者事前説明会（会議室）
1月	1～2月末	はたちの献血キャンペーン
	29日	岩手県献血推進協議会（盛岡市勤労福祉会館）
2月	1～14日	バレンタイン献血キャンペーン
	2日	第2回評議員会（エスポワールいわて）
	20日	合同採用内定者研修会（会議室）
3月	1～14日	いわて春の献血2026キャンペーン
	9日	災害救援センターをワックス清掃（支部）
	15日	いわて就職マッチングフェア（いわて県民情報交流センターアイーナ）

1 災害救護

災害救護は、赤十字の重要な使命であり不測の災害に迅速に対応するため、盛岡赤十字病院に医師、看護師、主事等からなる常備救護班 8 班を置くとともに、発災直後の超急性期に活動する災害派遣医療チーム (DMAT) を育成し更なる救護体制の強化に努めた。また、支部主催研修・訓練、日赤第1ブロック (北海道・東北) 支部合同災害救護訓練、岩手県総合防災訓練、盛岡市総合防災訓練への参加により救護員の育成に努めた。

日赤第 1 ブロック支部合同災害救護訓練は、毎年開催地を持ち回りとしており、7 年度は、10 月に日赤秋田県支部主催 (日本赤十字東北看護大学、男鹿市総合体育館) で実施された。事前訓練として、8 月の管内施設災害救護訓練で、災害救護時の基礎である知識と技術を確認し、救護班1班が参加した。

また、日赤第1ブロック赤十字救護班研修 (旧 全国赤十字救護班研修) は、石巻赤十字病院災害医療研修センターで実施され、救護班 1 班が参加した。

東北ブロック DMAT 参集訓練は、岩手県で開催され、DMAT1 チームが参加したほか、岩手県支部と盛岡赤十字病院の DMAT 隊員が運営スタッフとして参加した。

例年参加している岩手県総合防災訓練では、救護班1班が参加し、釜石東中学校にて避難所巡回診療等の訓練を実施し、関係団体との連携を確認した。盛岡市総合防災訓練は、盛岡市立高等学校にて応急救護所設置・運営訓練を実施し、関係団体・医療チームとの連携を確認した。

その他、災害発生時に迅速に対応するための救護資機材等の整備に努め、防災減災の知識の普及と災害時における自助・共助の意識向上のため、地域住民を対象とした赤十字防災セミナーを開催した。

(1) 救護活動

青森県東方沖地震対応

第 1 次救護体制及び支部災害対策警戒本部設置

12月8日 (月) 23時15分 青森県東方沖で、マグニチュード 7.5 の地震が発生、岩手県内北部で震度 5 強を観測し、岩手県沿岸に津波警報が発令された。第 1 次救護体制及び支部災害対策警戒本部設置し、情報収集に努めた。



災害対策警戒本部設置



情報収集 クロノロジー記載

青森県東方沖地震対応

(2)救護員育成

① 研修

(単位:人)

主催		訓練の名称	実施日	会場	参加者数
赤十字	支部	救護員としての赤十字 看護師研修 概論	5月27日	支部会議室	13名
	支部・病院	第1回災害救護基礎 研修(基礎)	6月20日	支部会議室・救援 センター	8名
	支部・病院	第1回災害救護基礎 研修(診療応用)	7月4日	支部会議室・救援 センター	8名
	1ブロック	日赤第1ブロック 赤十字救護班研修会	8月9日～10日	宮城県 石巻赤十字病院	スタッフ 7名
	本社	日赤災害医療 コーディネート研修	8月30日	本社	1名
	本社	日赤災害医療 コーディネート研修	9月26日	本社	1名
	本社	こころのケア指導者 養成研修会	10月22日～23日	本社	1名
	支部・病院	第2回災害救護 基礎研修(基礎)	10月24日	支部会議室・救援 センター	11名
	1ブロック	日本赤十字社原子力 災害時の救護研修	11月6日	北海道支部	1名
	支部・病院	第2回災害救護基礎 研修(診療応用)	11月21日	支部会議室・救援 センター	9名
	支部	こころのケア要員研修	12月1日	支部会議室	11名
	支部	災害対策本部要員 研修	令和8年2月18日	支部会議室	14名
	本社	こころのケア指導者 フォローアップ研修	令和8年3月1日	支部会議室 WEB	6名
行政・ 外部	DMAT事 務局	第1回東北ブロック DMAT 技能維持研修	8月7日	仙台国際センター	1名
	DMAT事 務局	日本 DMAT 隊員 養成研修	11月4日～6日	岩手県産業会館	3名
	岩手医大 (県委託)	岩手 DMAT 隊員 養成研修	11月17日～18日	岩手医大災害時地域 医療支援教育センター	5名
	DMAT事 務局	第2回東北ブロック DMAT 技能維持研修	12月16日	仙台国際センター	4名
	DMAT事 務局	第3回東北ブロック DMAT 技能維持研修	12月17日	仙台国際センター	2名
	DMAT事 務局	日本 DMAT 隊員 養成研修	令和8年1月17日 ～19日	岩手県産業会館	3名

② 訓練

(単位:人)

主催		訓練の名称	実施日	会場	参加者数
赤十字	支部	救護員としての赤十字 看護師研修 災害Ⅳ	9月8日・9日	支部会議室・救援 センター	15名
	支部	病院主事災害救護 訓練	9月9日	支部会議室・救援 センター	15名
	支部・病院	支部管内施設合同 災害救護訓練	8月26日	支部会議室・救援 センター	8名
	1ブロック	第1ブロック支部合同 災害救護訓練	10月10日～11日	日赤東北看護大学 男鹿市総合体育館	11名
行政・外部	盛岡市	盛岡市総合防災訓練	8月30日	盛岡市立高等学校	12名
	厚労省	大規模地震時医療活 動訓練・東北ブロック DMAT 参集訓練	9月6日	県立宮古病院参集 花巻交流会館 岩手県庁	プレイヤー 4名 コントローラ 4名
	岩手県	岩手県総合防災訓練	11月8日	釜石東中学校	8名

(3) 救護員の登録・編成状況(令和8年3月31日現在)

① 救護員登録状況

(単位:人)

支部・施設	班 数	救護班要員(人)						血液 供給 要員	本部 要員	計
		医師	看護 師長	看護師	助産師	主事	薬剤師			
支部	－	－	－	－	－	－	－	－	11	11
盛岡赤十字病院	8	30	33	134	17	35	19	－	－	268
血液センター	－	－	－	－	－	－	－	5	2	7
日赤鶯鳴荘	－	－	－	－	－	－	－	－	17	17
日赤岩手乳児院	－								2	2
計	8	30	33	134	17	35	19	5	32	305

① こころのケア指導者登録状況(令和8年3月31日現在)

(単位:人)

支部・施設名	指導者登録者数	要員登録者 (指導者除く)
支部	3	7
盛岡赤十字病院	5	145
血液センター	0	1
日赤岩手乳児院	1	0
日赤鶯鳴荘	0	0
計	9	153

(4) 救護資機材の整備状況

近い将来、高い確率で発生が予想されている南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、首都直下地震等の地震災害や、近年相次ぐ局地的な豪雨災害等に備え、救護資材等の強化を行った。

① 令和7年度新たに整備・更新

品名	数量	用途
地区分区災害救援車設置補助	二戸市1台 滝沢市1台	地区分区の事務担当者の業務遂行
救護用備蓄物資(安眠セット)	210セット	避難所にて被災者が使用
救護員用非常食	ポークカレー 100袋 アルファ米 100袋 水2ℓ 30本	救護員の被災地での食事
救護員用作業衣(ベルト)	50本	救護員着用
AED 実機用パッド	2	支部設置 AED の備品
AED トレーナー	5	救急法講習(一次救命処置)で使用
自動ラップ式トイレ(ラップポン 本社財源)	3	救護班災害派遣時 災害時用トイレ
衛星携帯ワイドスターⅢ(更新 本社財源)	病院1 支部1	災害時の通信確保



滝沢市災害救援車配備



二戸市災害救援車配備



衛星携帯電話ワイドスターⅢ可搬型端末



安眠セット

② 救護装備及び資機材の整備状況

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

品 名	数 量	品 名	数 量
災害救援車	支部 9 台	災害用移動炊飯器	支部 4 台
	地区区分 50 台		地区区分 79 台
アマチュア無線局	固定局 1 局	救護服 夏用	105 着
	移動局 3 局	救護服 冬用	120 着
業務用無線局 150MHZ	基地局 1 局	救護服 メッシュタイプ	35 着
	陸上移動局 35 局	救護員用ベスト	90 着
業務用無線局 400MHZ	基地局 1 局	ヘルメット	65 個
	陸上移動局 15 局	雨具	59 着
天幕(組み立て式テント)	8 張	防寒具	68 着
エアーテント(大)	5 張	編上靴	106 足
エアーテント(中)	1 張	救護員用赤 T シャツ	134 着
大型テント(ドラッシュ)	2 張(大・小)	救護員用 T シャツ	140 着
クイックテント	4 張	ノート型パソコン	病院1支部2
自動体外式除細動器 AED	3 台	プロジェクター	1 台
浄水機	2 台	床置スクリーン	1 台
医療セット置台	3 セット	救護員用バッグ	50 個
スクープストレッチャー	2 台	ワンショルダーバッグ	30 個
担架	35 台	ヒップバッグ	30 個
ワンタッチパーティション	283 台	臨場バインダー	15 個
発電機	21 機	医療用テレメーター	1 台
ドラムコードリール	16 巻	トリアージシート	1 セット
投光機(ライトボーイ)	1 機	自吸式エアー担架	20 個
投光機(dERU 資材)	2 機	医療セット	3 セット
ノーパンク折畳自転車	2 台	携帯型医療セット	1 セット
大型扇風機	5 台	折りたたみ寝台(木製)	78 台
ジェットヒーター	6 台	簡易ベッド(ステンレス製)	25 台
二段式簡易ベッド	6 台	防災ボランティアユニフォーム	20 着
除雪機	3 台	防災ボランティアビブス(黄)	300 枚
パルスオキシメーター	5 台	トイレ用テント	3 張
折り畳み式ホワイトボード	3 台	携帯トイレ	3,000 個
記録用カメラ	1 台	トイレキット	3,000 枚
衛星携帯電話	支部 4	本部用マイクセット	1 台
	病院 3	救護班用血圧計	6 台
	血液センター1	屋内用テント(ひなんルーム)	300 張
災害用 Wi-Fi ルーター	2 台	救護所用パーティション	6 台
災害用スマートフォン	2 台	タブレット・プロジェクター	各 1 台
現地災害対策本部用プリンタ	2 台	dERU 国内型緊急対応ユニット	1 台
蓄電池Jackery	4 台 パネル 8 枚	救護班用拡声器	1 台
救護班車載用プリンタ	1 台	災害用携帯電話	2 台

自動ラップ式トイレ(ラップポン)	13 台	災害救護(臨時救護)用バッグ	2 個
応急救護所用石油ストーブ	7台	移動型リチウムイオン蓄電池(大)	2 台
モバイルバッテリー	4機	移動型リチウムイオン蓄電池(小)	3 台

(5) 救援物資の整備状況

支部及び地区分区配備の災害救援車の更新、救援物資の整備を行い、水害、火災、雪害等により被災された方々に救援物資等の配布を行った。

① 救援物資の備蓄

(令和8年3月31日現在)

救援物資の種類	備蓄数	
	支部	地区分区
毛布	984	1,988
緊急セット	472	778
バスタオル	832	1,781
タオルケット	1,365	300
安眠セット	946	520
ワンタッチパーティション	283	－
多目的テント	59	－
屋内用テント	300	－
ダンボールベッド(楽天イーグルス提供)	45	－
簡易トイレ	100	－



毛布



バスタオル



緊急セット



安眠セット



ダンボールベッド

② 救援物資の被災者への配布状況と在庫状況(地区区分毎) (令和8年3月31日現在)

区分区	毛布		緊急セット		バスタオル		タオル ケット	安眠セ ット	救援車	弔慰金 支払金 額
	配布数	在庫数	配布数	在庫数	配布数	在庫数				
盛岡市	0	41	0	28	0	65	0	0	2	30,000
釜石市	0	52	0	43	0	52	0	0	1	0
宮古市	5	123	5	23	10	192	0	0	3	10,000
一関市	9	180	3	87	9	188	0	0	3	20,000
大船渡市	0	150	0	90	0	130	0	72	2	0
奥州市	2	333	1	33	2	62	0	0	5	10,000
花巻市	10	28	3	41	10	31	0	0	2	30,000
北上市	2	14	1	7	2	12	0	6	1	0
久慈市	122	460	0	98	9	361	300	300	1	0
遠野市	2	12	1	12	2	14	0	0	2	0
陸前高田市	0	84	1	11	3	96	0	0	1	0
二戸市	0	149	0	34	0	110	0	0	2	10,000
八幡平市	0	16	0	18	0	49	0	0	3	0
滝沢市	0	10	0	4	0	14	0	0	0	0
雫石町	7	12	4	7	7	15	0	0	0	0
葛巻町	5	6	1	5	5	5	0	0	1	0
岩手町	1	19	2	9	2	18	0	0	1	20,000
紫波町	3	12	1	7	3	10	0	27	1	0
矢巾町	0	20	0	12	0	20	0	0	1	0
西和賀町	0	20	0	12	0	21	0	0	2	0
金ヶ崎町	0	3	0	8	3	9	0	0	1	0
平泉町	3	12	3	9	4	22	0	0	1	0
住田町	0	8	0	11	4	15	0	60	2	0
大槌町	0	10	0	12	0	19	0	0	1	0
山田町	0	8	0	46	0	49	0	53	2	0
岩泉町	7	9	3	8	4	22	0	0	1	0
田野畑村	0	0	0	24	0	0	0	0	1	0
洋野町	0	10	1	3	2	15	0	0	2	0
野田村	0	36	0	5	0	16	0	2	1	0
普代村	0	100	0	60	0	100	0	0	1	0
一戸町	0	20	0	4	10	15	0	0	1	0
軽米町	0	13	0	6	9	13	0	0	1	0
九戸村	0	18	0	1	0	21	0	0	1	0
小計	178	1,988	30	778	100	1,781	300	520	50	130,000
岩手県支部		984		472		832	1,365	946	9	
合計	178	2,972	30	1,250	100	2,613	1,665	1,466	59	130,000

※劣化や破損により廃棄、転用したものは含まない。

(6) 個人ボランティア(防災ボランティア・地域の絆ボランティア)養成状況

防災ボランティアは、災害時に救援物資の輸送・配布、炊出し、避難所運営の支援など赤十字の災害時の支援活動に協力いただける方にボランティアとして登録をいただき、研修や訓練等を実施している。

また、地域の絆ボランティアは、赤十字事業への協力の他、地域での活動を実施していただける方々に登録をいただいている。

7年度の防災ボランティア研修と地域の絆ボランティアの集いを合同開催し、個人ボランティア相互の交流、災害救護等で使用するドラッシュテントの展開や炊き出し訓練を実施した。また、気象変動に関する研修を行った。

その他、防災ボランティアは、管内合同災害救護訓練、救護員としての赤十字看護師訓練、盛岡市総合防災訓練等に参加いただき、テント設置や傷病者搬送等の研修を実施した。防災ボランティア支援班については、防災ボランティアの中でも支部の協力依頼に即動いただける方に登録いただいている。

地域の絆ボランティアは、赤十字フェスティバルやキッズお仕事フェスティバルなど、支部事業にご協力いただいた。

各々の新規登録者対象に養成研修を実施し、赤十字事業の理解を深めたほか、LINE登録による情報共有に理解をいただき、赤十字事業の情報発信と協力依頼に対応いただいている。



防災ボランティア研修・絆ボランティアの集い

① 研修・訓練

(単位:人)

主催	訓練の名称	実施日	会場	参加者数
支部	防災ボランティア研修	7月19日	支部	20
支部	防災ボランティア養成研修	7月19日	支部	8
支部	地域の絆ボランティアの集い	7月19日	支部	7
支部	管内合同災害救護訓練 1B 事前研修	8月26日	支部	6
盛岡市	盛岡市総合防災訓練	8月30日	市立高等学校	4
支部	救護員赤十字看護師研修	9月9日	支部	6
合計	-	-	-	51

② 防災ボランティア登録者数(地域別)

(令和8年3月31日現在) (単位:人)

地域別	リーダー	地区リーダー	ボランティア	合計
盛岡市	3	1	25	29
花巻市	1	0	2	3
矢巾町	0	0	1	1
奥州市	1	0	5	6
一関市	1	0	0	1
大船渡市	0	1	0	1
北上市	0	0	2	2
釜石市	1	1	0	2
八幡平市	1	0	2	3
二戸市	0	0	3	3
宮古市	0	0	4	4
滝沢市	0	0	1	1
大槌町	1	0	2	3
雫石町	0	0	2	2
平泉町	0	0	1	1
陸前高田市	0	0	1	1
合 計	9	3	51	63

③ 地域の絆ボランティア登録者数(地域別) (単位:人)

地 域 別	個人ボランティア
盛岡市	10
紫波町	2
奥州市	1
花巻市	3
平泉町	1
一関市	3
北上市	1
矢巾町	1
合 計	22

(7)災害義援金の受付状況（令和7年度実績 岩手県支部扱い分のみ掲載）

岩手県が被災地となった大船渡市林野火災をはじめ、全国各地で発生した自然災害により被害を受けた被災地の方々に対する義援金が寄せられた。

（令和8年3月 31 日時点）

救援金名	金 額
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	26,273,777円
令和6年能登半島地震災害義援金	788,399円
令和7年8月6日から的大雨災害義援金	47,000円
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災害義援金	5,000円
合 計	27,114,176円



盛岡シティプラス、県立南昌みらい高校



盛岡市立高校

令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金贈呈式

(8) 防災・減災の取組

東日本大震災などの過去の災害から学んだ知識や教訓を今後の備えとして、多くの県民に広めるため、地域住民や学校を対象に「赤十字防災セミナー」を開催した。

赤十字防災セミナーの実施場所と参加者数

(単位:人)

期日	場 所	対象	内 容	参加者
4/22	第一生命盛岡支社会議室	職員	災害への備え	74
5/14	盛岡市立北松園小ホール	児童	赤十字の活動、災害救護活動についてのQ&A	43
6/14	日赤岩手県支部	高校生	災害エスノグラフィー	6
6/21	日赤岩手県支部	高校生	災害エスノグラフィー	17
6/25	中央附属中学校	生徒	ダンボールベッド組立等	28
7/3	盛岡赤十字病院（JRC 高校生大会）	一般	ひなんじょたいけん	38
7/7	盛岡市立北松園小学校	児童	ダンボールベッド組立等	43
7/20	岩手県立図書館	一般	大船渡林野火災における日赤の活動について	30
8/9	紫波町古館地区古館公民館	一般	"防災グッズ展示 救急法	200
8/19	花泉小学校（一関市地区）	児童	赤十字の災害対応"	120
8/21	鶴住居生活応援センター（釜石市地区）	一般	ダンボールベッド組立等	18
8/30	遠野道の駅風の丘	一般	災害への備え、包装食の作り方	120
8/31	天理教岩手教務支庁	一般	防災グッズ展示 救急法 災害救助犬	30
9/1	盛岡青松支援学校	生徒	ダンボールベッド組立等	61
9/3	タカヤアリーナ（久慈市立久慈中学校）	生徒	ダンボールベッド組立等	110
9/4	日赤岩手県支部	生徒	ひなんじょたいけん	6
9/7	久慈市大川目市民センター	一般	ひなんじょたいけん	40
9/24	向定内集会所（釜石市地区保育園）	職員/一般	ダンボールベッド組立等	18
10/3	住田町保健福祉センター	一般	ダンボールベッド組立等	20
10/8	盛岡市立本宮小学校	児童	災害への備え、包装食の作り方	100
10/23	二戸市民文化会館（自衛隊岩手地方協力本部二戸地域事務所）	一般	おうちのキケン、ダンボールベッド組立等	50
10/26	二戸市立仁左平小学校（二戸市防災安全課）	一般	避難所の環境について（講話）、防災展示	50
10/27	シートピアなあと（八幡平市・宮古市赤十字奉仕団）	奉仕団	防災展示	28
10/31	日本現代詩歌文学館（北上市地区（民生児童委員））	一般	災害への備え、ダンボールベッド組立等	160

11/2	久慈市寺里公民館（自主防災会）	一般	災害への備え	20
11/15	大迫高校グラウンド	一般・高校生	災害への備え／ひなんじょたいけん	100
11/17	八幡平市立西根中学校	中学生	防災展示	81
11/19	住田町立有住小学校（住田町分区）	一般・小学生	ひなんじょたいけん	70
11/20	日赤岩手県支部会議室（日赤秋田市地区役員）	一般	ダンボールベッド組立等	8
11/21	北上済生会病院	職員	岩手県支部における防災減災への取り組み（講話）	30
11/26	八幡平市立西根中学校	中学生	ダンボールベッド組立等	65
12/4	東和コミュセン（東和地区赤十字奉仕団）	奉仕団	ダンボールベッド組立等	20
12/4	MC L盛岡医療大学校看護学科	学生	ダンボールベッド 屋内テント設置等	30
12/6	雫石町5区公民館（日赤雫石町分区）	一般	災害看護 赤十字の災害対応 避難所体験	20
12/11	やませデザイン会議（久慈市地区）	一般	災害への備え（オンライン）	5
12/15	金ヶ崎町認定こども園たいよう保育園	園児	避難所の状況・運営 地域の備え	64
12/26	花巻市立桜台小学校（花巻市社協）	児童	JRC きけんはっけん	12
1/6	花巻市社協サテライトスペース（花巻市社協）	児童	包装食/おうちのキケン	14
1/7	花巻市立南城小学校（花巻市社協）	児童	包装食/おうちのキケン	7
1/7	花巻保健センター（花巻市社協）	児童	包装食/おうちのキケン	4
1/13	石鳥谷八幡交流センター（花巻市社協石鳥谷支所）	児童	包装食/おうちのキケン	36
1/14	石鳥谷八重畑定住促進センター（花巻市社協石鳥谷支所）	児童	ダンボールベッド組立等	31
1/14	花巻市立新堀小学校体育館（花巻市社協石鳥谷支所）	児童	ダンボールベッド組立等	21
1/15	石鳥谷学童クラブ（花巻市社協石鳥谷支所）	児童	ダンボールベッド組立等	31
1/17	紫波町役場（日赤紫波町分区）	一般	おうちのキケン、ダンボールベッド組立等	83

1/19	久慈市総合福祉センター (日赤久慈市地区)	一般	災害への備え	36
1/24	川井生涯学習センター第 1 会議室	一般	ひなんじょたいけん	13
1/28	川崎市民センター (一関市 社協)	一般	災害への備え/KAG	41
2/10	宮古市立重茂中学校	生徒	災害への備え	14
2/14	田頭コミュニティセンター (日赤八幡平市地区)	一般	災害への備え/ひなんじょたいけん	28
2/19	長部地区コミュニティセン ター (陸前高田市赤十字奉 仕団)	一般・奉 仕団	災害への備え、ダンボールベッド組立等	10
2/27	二戸中央コミュニティセン ターにこランス (二戸市赤 十字奉仕団・有功会)	奉仕団・ 有功会	災害への備え	15
3/8	キャッセン大船渡 (大船渡 市赤十字奉仕団)	奉仕団・ 高校生	災害への備え/非常食試食、救援物資展 示	10
3/11	岩手県立盛岡となん支援学 校	児童・生 徒	大船渡市林野火災における救護活動など	108
開催回数 54 回				2,437



防災セミナーの様子

(9) 復興支援活動

平成 31 年 3 月に海外救援金を活用した復興支援事業「ノルディックウォーキング (NW) とこころのケア」による仮設住宅訪問は終了したが、その後、赤十字奉仕団による「ふれあい交流会」として公営住宅等の訪問を年間 15 回から 20 回継続して実施してきた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一時、「ふれあい交流会」の開催を中止していたが、令和 5 年度から再開し、7 年度も継続して開催した。

赤十字奉仕団ふれあい交流会

実施日	実施場所	内容	参加奉仕団、職員等	住民参加者
10/30	大槌町文化交流センターおしゃっち	ポールを使った体操、ノルディックウォーキング、ラジオ体操、踊り、お楽しみ抽選会・ゲーム、会食	花巻市内 4 奉仕団 21 名、岩手県 NW 奉仕団員 2 名、支部職員 1 名 大槌町分区 2 名	50 名
11/18	金ヶ崎町中央生涯教育センター	さくらの会メンバー（震災後、金ヶ崎に移住した方々）と粘土細工、会食	一関市千厩赤十字奉仕団、40 名、健康生活支援講習指導員 1 名、支部職員 2 名	13 名



赤十字奉仕団ふれあい交流会の様子

(10) 臨時救護

公的機関等から依頼を受けた全県規模の行事への救護要員の派遣を行い、不慮の事故等による傷病者の救護にあたった。

臨時救護派遣場所と派遣人数

(単位:人)

期 日	行事名	場 所	派遣人員	患者数
5/30～6/1	第77回岩手県高校総合体育大会ボート競技	錦秋湖川尻ボート場	3	0
6/7	岩手県障がい者スポーツ大会	岩手県営運動公園	1	3
7/30～31	JRC リーダーシップ トレーニングセンター	国立岩手山 青少年交流の家	2	6
8/29～31	岩手県高等学校新人大会 ローイング競技	花巻市田瀬湖ボート場	3	4
11/15	SOMPO ボールゲームフェスタ	滝沢総合公園体育館	1	2
11/23	第 84 回 一関・盛岡間駅伝競走大会	JR ノ一関駅前～北上市役 前	3	0
臨時救護派遣 6 回			13	15

2 救急法等の講習

地域の方々が健康で安全・安心な暮らしを送れるよう、人命救助の方法と具体的な知識・技術を普及するための救急法、水上安全法、健康生活支援講習、幼児安全法の講習を実施している。

(1)各講習の活動概要

【 救急法 】

日常生活における事故防止の知識と、不慮の事故や急病に対して、医師や救急隊に引き継ぐまでの手当ての方法を指導し、地域での自助共助の意識を高めることを目的とした講習で、令和 7 年度は、指導員養成講習を開催するとともに、基礎講習、救急員養成講習、その一部を短時間でを行う短期講習を実施した。

① 救急法基礎講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
4/18	岩手県立大学看護学部	6
5/1	日本赤十字社岩手県支部	12
5/9	大原学園ビジネス公務員専門学校盛岡校スポーツ学科	21
5/13	岩手県警察学校	31
5/28	日本赤十字社岩手県支部	10
6/7	松原浩一指導員企画(宮古市)	19
6/17	岩手県警察学校	54
6/25	日本赤十字社岩手県支部	14
7/5	松原指導員企画(山田町)	10
7/10	日本赤十字社岩手県支部	13
7/31	一関修紅高等学校	9
8/28	盛岡赤十字病院	7
9/11	日本赤十字社岩手県支部	11
9/16	岩手県赤十字血液センター	11
9/18	岩手県赤十字血液センター	8
10/18	佐々木光義指導員企画(釜石市)	14
11/27	盛岡ヘアメイク専門学校	18
12/1	盛岡ヘアメイク専門学校	20
12/4	盛岡ヘアメイク専門学校	20
12/8	盛岡ヘアメイク専門学校	17
12/11	盛岡ヘアメイク専門学校	15
1/14	北日本医療福祉専門学校	8
2/4	岩手県バス協会	8
2/16	MCL 盛岡医療大学校	24
3/5	日本赤十字社岩手県支部	18
救急法基礎講習 25 回		398



救急法講習の様子



② 救急法救急員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
5/14～16	岩手県警察学校	32
5/29～30	日本赤十字社岩手県支部	9
6/14～15	松原浩一指導員企画(宮古市)	16
6/18～20	岩手県警察学校	54
8/29	盛岡赤十字病院	6
9/12～13	日本赤十字社岩手県支部	20
10/25～26	佐々木光義指導員企画(釜石市)	6
1/28～29	北日本医療福祉専門学校	8
3/6～7	日本赤十字社岩手県支部	9
救急法救急員養成講習 9回		160

③ 救急法短期講習 依頼先と受講人数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
4/4	盛岡市立東松園小学校	18
4/10	盛岡市立中野小学校	28
4/15	滝沢体育協会	23
4/16	滝沢体育協会	17
5/7	松原浩一指導員企画(岩手県警察学校)	20
5/10	日本赤十字社岩手県支部(ふれあいフェスティバル)	500
5/14	岩手労働基準協会	40
5/15	岩手労働基準協会	40
5/16	佐々木志津子指導員企画(ふれあい看護体験)	47
5/21	生内秋子指導員企画(ヘルパーステーションにぎ和い)	7
5/21	吉川未菜指導員企画(紫波町立日詰小学校)	21
5/27	日赤鶯鳴荘	25
5/28	山崎友胤指導員企画(見前交番)	26
5/29	内館優香指導員企画(岩手県立大東高等学校)	26
6/4	岩手県立盛岡青松支援学校	60
6/5	古舘隆司指導員企画(盛岡市社会福祉事業団)	95
6/5	八幡平市立西根第一中学校	16
6/18	岩手県警察本部運転免許課	40
6/21	太田代成子指導員企画(見前ニュータウン町内会)	15

開催日	実施主体	受講数
6/21	太田代成子指導員企画(津志田こども園)	31
6/23	盛岡市立本宮小学校	24
6/26	盛岡市立中野小学校	35
6/27	岩手大学附属特別支援学校	33
6/30	生内秋子指導員企画(盛岡赤十字病院)	10
6/30	滝沢市立滝沢中学校	175
7/1	八幡平市立松野小学校	28
7/2	滝沢市立滝沢中学校	166
7/3	盛岡 YMCA	24
7/7	雫石町社会福祉協議会	10
7/7	木村学指導員企画(手代森小学校 PTA)	47
7/9	岩手労働基準協会	40
7/10	岩手労働基準協会	39
7/10	盛岡市立都南東小学校	30
7/11	水清建設株式会社	80
7/13	盛岡 YMCA	50
7/18	盛岡市立玉山小学校	20
7/23	松原浩一指導員企画(岩泉警察署)	20
7/24	八幡平市立松尾中学校	4
7/25	矢巾町立矢巾北中学校	40
7/25	社会福祉法人いちご会	30
7/27	千葉裕介指導員企画(中野小学校沢田地区子ども会)	50
7/28	岩手県立盛岡となん支援学校	73
7/30	青少年赤十字(リーダーシップトレーニングセンター)	89
8/1	岩手県立花巻清風支援学校	19
8/10	木村博指導員企画(東和町)	27
8/19	岩手県立盛岡聴覚支援学校	42
8/21	岩手労働基準協会	39
8/22	岩手労働基準協会	37
8/25	古舘隆司指導員企画(飯岡児童センター)	10
9/1-9/4	山田拓利指導員企画(遠野警察署)	59
9/1	雫石町社会福祉協議会	8
9/2	成田広一指導員企画(高速道路交通警察隊)	4
9/8-9/9	田山昌恭指導員企画(陸上自衛隊岩手駐屯地)	14
9/9	小黒澤正智指導員企画(岩手県警察学校)	15
9/10	岩手県社会福祉協議会	46
9/17	盛岡赤十字病院	30
10/2	岩手県社会福祉協議会	42
10/7	一関市花泉赤十字奉仕団	34

開催日	実施主体	受講数
10/9	岩手労働基準協会	37
10/9～11	岩手県指定自動車教習所協会(1種)	42
10/10	岩手労働基準協会	37
10/14	盛岡市立仙北中学校	229
10/15	盛岡市立仙北中学校	259
10/16	盛岡市立仙北中学校	196
10/19	矢巾町分区	40
10/22	古舘正輝指導員企画	10
10/26	大船渡市赤十字奉仕団	15
10/27	太田代成子指導員企画	10
10/28	高橋愛海指導員企画(メフレ株式会社)	17
10/31	岩手町立沼宮内小学校	32
11/1	菜園2丁目町内会	37
11/14	盛岡市立下橋中学校	60
11/20	盛岡赤十字病院	35
11/23	木村博指導員企画(東和町)	25
11/24	小黒澤正智指導員企画	16
11/28	小黒澤正智指導員企画(県柔道連盟)	15
12/4	岩手県警察学校	13
12/10	岩手県立一関第二高等学校	190
12/11	岩手労働基準協会	39
12/12	岩手労働基準協会	40
12/14	ボーイスカウト	45
12/21	千葉壽夫指導員企画	19
1/6	おでんせ本宮	14
1/18	NPO 法人いわて森林再生研究会	30
1/21	盛岡赤十字病院	30
1/23	岩手県バス協会	33
1/26-1/30	盛岡赤十字病院	58
1/27-1/29	吉田健指導員企画(大船渡警察署)	21
2/10	吉川未菜指導員企画(紫波町立日詰小学校)	20
2/24	岩手県立北上翔南高等学校	57
2/25	岩手県立北上翔南高等学校	57
3/2	岩手県バス協会	23
3/5	岩手労働基準協会	37
3/6	岩手労働基準協会	33
3/17	岩手県赤十字血液センター	8
3/20	細川牧子指導員企画(紫波町)	11
3/27	岩手県赤十字血液センター	7

開催日	実施主体	受講数
3/28	めんこいテレビ(キッズお仕事フェスタ)	180
3/29	めんこいテレビ(キッズお仕事フェスタ)	124
短期講習 99 回		4,839

④ 救急法 指導員養成講習の実施主体と受講者数 (単位:人)

開催日	実施主体	受講数
事前研修 12/20～21	日本赤十字社岩手県支部	8
本研修 1/30～2/1、 2/7～8		8
事後研修(新任研修)3/20		8
救急法講習 指導員養成講習 1回		合格者数 8

⑤ 講習種別ごと実施回数と受講者数 (単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
基礎	25	398	
救急員養成	9	160	
短期講習	99	4,839	
指導員養成	1	8	
計	134	5,405	

【 水上安全法 】

水を活用して健康の増進を図り、水の事故から生命を守るため、泳ぎの基本と自己保全、水の事故防止、溺れた人の救助、応急手当などの知識と技術を指導するもので、令和7年度は水上安全法救助員Ⅰ養成講習及び短期講習を実施した。

① 救助員Ⅰ養成講習の実施主体と受講者数 (単位:人)

開催日	実施主体	受講数
7/11～13	日本赤十字社岩手県支部 (岩手県営屋内温水プール)	5

② 水上安全法短期講習 (単位:人)

開催日	実施主体	受講数	備考
6/17	岩手県スポーツ振興課(盛岡市立総合プール)	16	
6/24	八幡平市体育協会(松尾コミュニティセンター)	10	
7/17	奥州市立胆沢第一小学校	37	
7/18	遠野市立上郷小学校	55	
8/29	遠野市土淵小学校	25	
9/1	遠野市青笹小学校	61	
9/3	遠野市立遠野小学校	79	
3/17	小原良一指導員企画(盛岡市立総合プール)	8	
3/29	JSS スイミングスクール北上	3	

開催日	実施主体	受講数	備考
3/30	JSS スイミングスクール盛岡	10	
短期講習 10 回		304	

③ 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
救助員 I 養成	1	5	
短期講習	10	304	
計	11	309	



水上安全法講習の様子

【 健康生活支援講習 】

「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができること」を目指した自立した生活の仕方や工夫、地域での支援活動に必要な知識・技術の習得を目的とした講習を実施するもので、令和 7 年度は健康生活支援講習支援員養成講習とその一部を短時間でを行う短期講習を実施した。

① 健康生活支援講習支援員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
7/5～6	日本赤十字社岩手県支部	5
10/25～26	日本赤十字社岩手県支部	9
健康生活支援講習支援員養成講習 2 回		14

② 健康生活支援講習 短期講習 依頼先と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講者数	備考
4/15	日赤岩手県支部	25	フレイル予防
5/16	赤十字賛助奉仕団	19	人生会議
5/23	日赤岩手県支部	13	フレイル予防
5/26	住田町老人クラブ連合会	40	フレイル予防
6/17	太田代成子指導員企画(ふれあいサロン茶愛)	7	高齢者疑似体験
6/21	明治安田生命大船渡支所	18	避難生活支援講習
6/23	滝沢市社会福祉協議会	13	高齢期の健康と安全
7/9	太田代成子指導員企画(ふれあいサロン茶愛)	8	高齢者疑似体験
8/19	日本赤十字社岩手県支部	16	フレイル予防
8/21	ヒソプ工房	22	車いす、起立歩行介助
8/22	盛岡市地区有功会	12	フレイル予防

開催日	実施主体	受講者数	備考
9/7	大船渡市下通部落会	32	高齢期の健康と安全
9/26	日本赤十字社岩手県支部	15	認知症について
9/30	滝沢市牧野林 老人大学	18	高齢期の健康と安全
10/6	滝沢市地区	42	フレイル予防
10/7	一関市花泉赤十字奉仕団	34	フレイル予防
10/19	矢巾町分区	40	暮らしの中の運動習慣
11/12	遠野市赤十字奉仕団	15	暮らしの中の運動習慣
12/8	矢巾町分区	20	暮らしの中の運動習慣
1/26	奥州市地区有功会	13	高齢期の健康と安全
1/30	北上市地区奉仕団	17	避難生活支援講習
3/10	日本赤十字社岩手県支部	48	暮らしの中の運動習慣
短期講習 22 回		487	

③ 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
支援員養成	2	14	
短期講習	22	487	
計	24	501	



健康生活支援講習の様子

【 幼児安全法講習 】

幼児期に起こりやすい事故の予防及び手当ての実際、かかりやすい病気と看病の仕方などの知識と技術指導を目的とした講習を実施するもので、令和7年度は指導員養成講習を開催し、幼児安全法支援員養成講習とその一部を短時間でを行う短期講習を開催した。

① 幼児安全法 支援員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
6/7～8	日本赤十字社岩手県支部	18
6/28～29	佐々木光義指導員企画(大槌町)	6
8/16～17	日本赤十字社岩手県支部	6
9/25～26	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	10
11/22～23	久保純子指導員企画(宮古市)	10
幼児安全法 支援員養成講習 5 回		50

② 幼児安全法短期講習 依頼先と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講者数	備考
4/7、9、10、15、18、22	天昌寺保育園	34	
5/10	フレイル予防(イオンモール前潟)	500	
5/12、13	巣子保育園	26	
5/19	吉田彩恵指導員企画(日赤岩手乳児院)	10	
5/21、22	西山保育園	19	
5/23、30	元村保育園	40	
6/3	とりょう保育園	27	
6/5、6	盛岡市ファミリーサポートセンター	36	
6/6	ぎんがの里保育園	12	
6/9	吉田彩恵指導員企画(日赤岩手乳児院)	1	
6/9	奥州市ファミリーサポートセンター	12	
6/10	本宮保育園	11	
6/10	いわて生協	9	
6/12	Cocoa 保育園	13	
6/12	奥州市田原保育園	15	
6/18、19	聖光こども園	26	
6/20	小原和恵指導員企画(めぐみ保育園)	22	
6/25	いわて生活協同組合	6	
7/3	ふじなでしここども園	18	
7/4	盛南ひまわり保育園	15	
7/5	滝沢市ファミリーサポートセンター	9	
7/8	乙部保育園	17	
7/12、19、26	虹の保育園	40	
7/14	二戸市地区	11	
7/15	見前保育園	27	
7/16	石鳥谷町子育て支援センター	7	
7/17	岩手町子育て支援センター	1	
7/23、25	一本木保育園	13	
7/24	あづま幼稚園	7	
7/26	郷六千賀子指導員企画(国際空手道場連盟盛岡道場)	5	
7/28、29	久保純子指導員企画(いずみ幼稚園)	16	
7/28	水道橋くるみこども園	14	
7/29、30	郷六千賀子指導員企画(口内保育園)	12	
8/2	第二山王保育園	20	
8/20	南巣子保育園	12	
9/12、24	矢巾町ファミリーサポートセンター	10	
9/16、24	社会福祉法人いちご会	40	
9/26、10/2	川前保育園	24	

開催日	実施主体	受講者数	備考
9/27	ふうりん保育園	16	
9/30	ふどうこども園	15	
10/4	鶴飼保育園	20	
10/5	大船渡市赤十字奉仕団	11	
10/5	花巻ファミリーサポートセンター	8	
10/8	久保純子指導員企画(てってランド)	12	
10/27～29、11/19	保健福祉振興財団	164	
10/30	盛岡ファミリーサポートセンター	7	
11/4、5	久保純子指導員企画(泉保育園)	16	
11/10	二戸市地区	6	
12/2	滝沢市ファミリーサポートセンター	5	
12/15、16	きたくり保育園	18	
12/17、18	大沢保育園	15	
12/19	南巣子保育園	11	
1/18	日赤岩手乳児院	11	
1/24	生活クラブ岩手(盛岡)	18	
1/24	久保純子指導員企画(宮古市地域創生センター)	9	
1/31	生活クラブ岩手(花巻)	12	
2/3	滝沢市ファミリーサポートセンター	3	
3/5	いわて子育てネット	6	
3/9	二戸市地区	10	
3/14	宮古市ファミリーサポートセンター	17	
3/17	盛岡市立総合プール	8	
3/20	宮古市社会福祉協議会	80	
3/28、29	めんこいテレビ	304	
短期講習 88 回		1,939	



幼児安全法講習の様子

③ 幼児安全法 指導員養成講習の実施主体と受講者数

(単位:人)

開催日	実施主体	受講数
事前研修 9/27	日本赤十字社岩手県支部	5
本研修 10/18～19、11/8～10		5
事後研修(新任研修)12/12～13		3
幼児安全法 指導員養成講習 1回		合格者数 3

④ 講習種別ごと実施回数と受講者数

(単位:人)

種別	開催回数	受講者数	備考
支援員養成	5	50	
短期講習	88	1,939	
指導員養成	1	5	
計	94	1,994	

【 各種講習の指導員在籍状況 】 (令和8年3月31日現在)

(単位:人)

所 属	救急法	水上安全法	健康生活支援	幼児安全法	雪上安全法
支 部	8	1	5	3	0
赤 十 字 病 院	12	0	5	8	0
血 液 センター	2	1	1	0	0
乳 児 院	2	1	0	2	0
日 赤 鶯 鳴 荘	2	0	2	2	0
ボランティア	67	12	12	18	0
合 計	93	15	25	33	0

【 指導員研修 】

(単位:人)

種別	開催日	参加者
救急法指導員研修	4/29、5/18	77
水上安全法指導員研修	5/24	11
健康生活支援講習指導員研修	4/12	23
幼児安全法指導員研修	4/12	29
合計	5回	140



指導員研修の様子

3 赤十字奉仕団、ボランティア活動

1) 地域包括ケア推進事業

(1) 目的

地域包括ケアシステムの構築を支援するため、宮古市及び陸前高田市と岩手県支部、盛岡赤十字病院が相互に連携し、特定の災害公営住宅等において一定期間事業を展開することによって、居住者等地域住民の健康で安全な生活の確保及び地域コミュニティの活性化等に寄与することを目的に事業を実施した。

(2) 活動内容

【宮古市での活動】

- ・ サロン
奇数月 第4金曜日 13:30～2時間程度
協力:宮古市社会福祉協議会、明治安田生命
- ・ イベント:赤十字フェスタ
令和7年7月26日(土) 11:00～13:00
協力:宮古市社会福祉協議会、日赤宮古市地区、宮古市赤十字奉仕団、明治安田生命、やまぶきの会、岩手県立大学学生ボランティア、赤十字防災ボランティア

【陸前高田市での活動】

- ・ サロン
偶数月 第3火曜日 10:00～1時間程度
協力:陸前高田市地域包括支援センター、陸前高田市地域赤十字奉仕団、明治安田生命
- ・ イベント:赤十字フェスタ
令和7年6月1日(日) 11:00～13:00
協力:陸前高田市地域包括支援センター、日赤陸前高田市地区、陸前高田市赤十字奉仕団、大船渡市赤十字奉仕団、気仙地区広域学生奉仕団、赤十字防災ボランティア

【実施した内容】

- ・ サロン
健康チェック(ベジチェック、血管年齢測定)→明治安田生命提供
赤十字講習(「認知症」「災害が起こったときに」「ロコモ体操でフレイル予防」「リラクゼーション」)
フォトフレーム作り、巾着作り
- ・ イベント
健康チェック(ベジチェック、血管年齢測定)→明治安田生命提供
試着(子ども用救護服、ナース服)、無線、救急法、青少年赤十字防災教育「きけんはっけん」の体験、炊き出し、ぬりえ、防災グッズ展示、スタンプラリー



2) 赤十字奉仕団、ボランティア活動概要

(1) 活動内容(地域・青年赤十字奉仕団)

【会員増強】

活動資金募集のための訪問活動、資材準備の手伝い、広報誌等発送作業などを行った。

【災害救護・防災】

炊き出し指導・訓練・研修、防災セミナー受講、義援金募集などを行った。

【福祉】

・老人・児童等福祉老人施設訪問、子ども食堂参加、障がい者病棟における衣類補修などを行った。

・身近な赤十字推進モデル奉仕団活動

花巻市花巻地区、矢巾町、釜石市、金ケ崎町、八幡平市、陸前高田市

地域住民ともに、陶芸や藍染、手芸の趣味教室、健康生活支援講習や防災セミナーの受講、ノルディックウォーキングの体験を行った。また、保育園児と青少年赤十字の防災学習の体験を行った。

【献血推進運動・講習普及運動】

献血推進ショッピングセンター・スーパーなどの街頭献血における協力呼びかけ、講習普及、各種講習への参加を行った。

【その他】

赤十字奉仕団ふれあい交流会(災害復興支援活動)開催

東日本大震災被災市町村を奉仕団が訪問し、歌や踊り、じゃんけんゲーム等のコミュニケーションツールにより地域住民と交流を深めたほか、震災後、内陸移住した方々と陶芸体験による交流会を行った。



身近な赤十字推進モデル奉仕団活動の様子

(2) 奉仕団等編成、人数等(令和8年3月31日現在)

① 奉仕団種別数及び合計団員数

種 別	団 数	団 員 数(人)		
		男	女	計
地域赤十字奉仕団	30 団	190	757	947
青年赤十字奉仕団	3 団	17	59	76
特殊赤十字奉仕団	12 団	377	96	473
合 計	45 団	584	912	1,496

② 地域赤十字奉仕団

(単位:人)

奉仕団名称	委員長	団員数			活動内容					
		男	女	計	会員増強	災害救護・防災	老人・児童等福祉	献血推進	講習普及	その他
盛岡市赤十字奉仕団	柴 崎 一 恵	6	10	16	○		○			○
宮古市赤十字奉仕団	金 丸 久 子	3	25	28			○			
大船渡市赤十字奉仕団	中 村 和 司	6	14	20	○	○		○		○
花巻市花巻地区赤十字奉仕団	木 村 博	2	15	17	○		○	○		○
花巻市大迫地区赤十字奉仕団	佐 藤 格	7	8	15				○		○
花巻市石鳥谷地区赤十字奉仕団	伊 東 さち子	0	23	23				○		○
花巻市東和地区赤十字奉仕団	赤 坂 勇 夫	5	15	20			○			○
北上市赤十字奉仕団	(欠)	0	13	13		○				○
久慈市赤十字奉仕団	畑 村 由 夫	8	15	23		○		○		
遠野市赤十字奉仕団	松 田 富 子	0	21	21		○		○		○
一関市一関赤十字奉仕団	吉 川 眞理子	8	59	67	○		○	○	○	○
一関市花泉赤十字奉仕団	佐 藤 みさ子	18	35	53	○			○		○
一関市大東赤十字奉仕団	増 沢 純	5	29	34	○	○		○		○
一関市千厩赤十字奉仕団	五 嶋 秋 子	22	66	88	○		○	○		○
一関市東山赤十字奉仕団	佐 藤 千賀子	2	65	67		○	○			○
一関市室根赤十字奉仕団	小 山 友 子	0	24	24	○					○
一関市川崎赤十字奉仕団	三 浦 千代子	5	11	16		○		○		○
陸前高田市赤十字奉仕団	泉 進	3	7	10				○		
釜石市赤十字奉仕団	中 川 カヨ子	0	17	17		○	○	○		○
二戸市赤十字奉仕団	田 口 和 子	8	30	38	○			○		
八幡平市赤十字奉仕団	佐々木 幸 雄	17	23	40				○		○
奥州市水沢赤十字奉仕団	菅 原 宏 幸	1	0	1				○		
雫石町赤十字奉仕団	中 川 眞理子	0	42	42		○		○		○
矢巾町赤十字奉仕団	川 原 久 子	14	55	69						○
西和賀町赤十字奉仕団	高 橋 定 雄	29	45	74		○				
金ヶ崎町赤十字奉仕団	氏 家 富士子	7	36	43		○	○	○		
大槌町赤十字奉仕団	(欠)	0	29	29		○				○
田野畑村赤十字奉仕団	上 村 牧 子	0	8	8		○				○
洋野町赤十字奉仕団	猪 石 悦 男	5	5	10						
九戸村赤十字奉仕団	山 口 忠 一	9	12	21	○	○	○			
計 30 団		190	757	947						

③ 青年赤十字奉仕団

(単位:人)

奉仕団名	委員長	団員数			活動内容					
		男	女	計	会員増強	災害救護・防災	老人・児童等福祉	献血推進	講習普及	その他
岩手大学学生赤十字奉仕団	(休 団)	0	0	0						
イーハトーブ学生赤十字奉仕団	佐 藤 碧	2	20	22			○	○		
岩手県立大学宮古短期大学部 赤十字奉仕団	及 川 七 海	15	39	54				○		
計 3団		17	59	76						

④ 特殊赤十字奉仕団

(単位:人)

奉仕団名称	委員長	団員数			主な活動内容
		男	女	計	
岩手県アマチュア無線赤十字奉仕団	中村 昌司	17	0	17	無線設備点検、通信訓練
岩手県赤十字安全奉仕団	木村 学	60	60	120	各種講習指導協力
岩手県青少年赤十字賛助奉仕団	小向 和秀	68	13	81	JRC 加盟校登録式へのメッセージ 送付、JRC 指導者育成協力
日赤釜石市地区赤十字安全奉仕団	佐々 隆裕	4	5	9	救急法講習会指導協力
久慈ライフセービング赤十字奉仕団	柗谷 祐希	16	2	18	着衣泳指導、海水浴場監視
むろね山岳赤十字奉仕団	小山 一成	14	0	14	山開き行事参加
大船渡ライフセービング赤十字奉仕団	(休 団)	0	0	0	
岩手県赤十字バイク奉仕団	田中 清也	24	1	25	災害を想定した走行訓練
岩手県赤十字ライフセービング奉仕団	伊藤 真悟	10	6	16	海水浴場監視
山田アマチュア無線ネット赤十字奉仕団	武藤 隆雄	10	4	14	通信訓練、炊き出し勉強会、防災 訓練
岩手県柔道整復師会赤十字奉仕団	藤原 秀明	149	2	151	スポーツ競技大会における救護員 派遣
岩手県ノルディックウォーキング [®] 赤十字奉仕団	(欠)	5	3	8	ノルディックウォーキング [®] 活用によ る健康生活支援活動
計 12 団		377	96	473	

⑤ モデル赤十字奉仕団

- 令和5年度指定 九戸村赤十字奉仕団
 令和6年度指定 花巻市大迫地区赤十字奉仕団
 令和7年度指定 宮古市赤十字奉仕団

(3)会議、研修、訓練

① 本社主催

名 称	期 日	会 場	内 容	参加者
青年赤十字奉仕団全国協議会	5/17	オンライン開催	各青年赤十字奉仕団からの講義事項、活動スローガンの検討など	イーハトーブ奉仕団 佐藤 碧
赤十字奉仕団中央委員会	7/3～4	日本赤十字社 本社	役員改選、各ブロック委員長会議等の報告について、日本赤十字社創立 150 周年に向けて など	支部委員会委員長 中村 和司
赤十字ボランティア・リーダー研修	8/23～25	日本赤十字社 本社	赤十字の基本方針、赤十字について、赤十字奉仕団とリーダーシップ、ボランティア概論、ニーズの重要性など	陸前高田市 泉 進

② ブロック主催、ブロック内支部主催

名 称	期 日	会 場	内 容	参加者
青年赤十字奉仕団第 1 ブロック協議会	6/7～8	アイーナ	各支部青年赤十字奉仕団の活動発表、協議・照会事項についての議論、防災セミナー体験	イーハトーブ奉仕団 佐藤 碧 小笠原 真愛
赤十字奉仕団第 1 ブロック委員長会議	9/18～19	アイーナ	各支部から提出の協議・照会事項について議論	支部委員会 委員長 中村 和司 副委員長 柴崎 一恵
赤十字奉仕団リーダーシップ研修(秋田県)	10/21～22	秋田温泉さとみ	「地域包括ケアシステムへの貢献」について、「赤十字奉仕団活動について考える」、グループワーク「防災・減災について、社会活動について」 など	釜石市 中川 カヨ子 千葉 裕子 花巻市大迫地区 佐藤 格 梅津 みよ 一関市一関 吉川 眞理子 高橋 鈴枝
青年赤十字奉仕団第 1 ブロック協議会統一キャンペーン	11/1～2	日本赤十字社 岩手県支部	赤十字防災キャンプ(災害救助犬訓練展示、避難所設営訓練、炊き出し訓練など)	イーハトーブ奉仕団 佐藤 碧 多田 唯愛 宮古短大奉仕団 女鹿 優月 神先 咲良 及川 七海

③ 支部主催

名 称	期 日	会 場	内 容	参加者
赤十字奉仕団員の集い	10/29	アイーナ	本社職員からの講演、地域包括ケア推進のための奉仕団活動及び災害時における連絡について、意見交換会	地域・特殊奉仕団員 29 名
赤十字奉仕団岩手県支部委員会	R8 3/10	アイーナ	委員の委嘱・選任について、令和 8 年度指定モデル奉仕団についてなど	支部委員会委員 9 名
赤十字奉仕団委員長・事務担当者会議	R8 3/10	アイーナ	中央委員会等出席報告、支部事業報告及び令和 8 年度計画、モデル奉仕団活動報告 など	奉仕団委員長 29 名 事務担当者 13 名 指導講師 1 名

4 青少年赤十字

将来を担う青少年が赤十字の精神を正しく理解し、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、学校教育活動の中で青少年赤十字の活動を促進した。令和7年度は6年度末に発生した大規模林野火災への対応に始まったが、地元高校生のボランティア活動等、JRC加盟校の活躍が光った一年でもあった。

近年は少子化による閉校が続き、加盟校数は減少傾向にあるが、登録式の実施校や一円玉募金への募金額を見ると、いずれも増加傾向にあり、各加盟校では積極的な活動が展開されている。

青少年赤十字事業内容

(1) 本社主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
青少年赤十字 リーダーシップ・ トレーニング・センター 指導者養成講習会	5月30日 ～ 6月1日	オリンピック 記念青少年 総合センター	本県の小学校を牽引する松島教諭が参加。全国の指導者との交流を通じてセンター長としてのスキルアップを図っていただいた。その成果が夏のトレセンに活かされている。	滝沢市立滝沢中央小学校 教諭 松島元樹 氏
指導主事対象 青少年赤十字研究会	8月6日	日本赤十字社 本社	今年度より夏の時期での開催となった。本県からは中部教育事務所より1名を派遣した。三井寺主任指導主事は前年度までJRC加盟校で勤務しており、さらに理解を深める機会となった。	岩手県教育委員会 中部教育事務所 主任指導主事 三井寺美緒佳 氏
青少年赤十字 スタディー・センター	3月22日 ～ 3月26日	東照館 (山梨県 河口湖町)	例年各支部には2名の参加が求められているが、今年度は希望が3名となり、高校生の意欲を感じた。非常に充実した研修機会となったようで、帰校後の活躍が期待される。	専修大学北上高等学校 2年 高橋ひなた 2年 菊池紗奈 岩手県立大船渡高等学校 2年 三浦新



小学校班のセンター長として、トレセンを運営する松島教諭



全国の指導主事が真剣に協議
(写真左奥が三井寺主任)



全国から参集した高校生と意見
交換する高橋さん(写真右奥)

(2) ブロック主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者
第1ブロック支部 青少年赤十字 指導者研修会	10月23日 ～ 10月24日	山形県 南山形小 他	今年度は山形市で開催。防災教育の公開授業を参観する機会に恵まれた。本県参加者の高い意識と経験が研修会でも活かされていた。	二戸市立福岡小学校 土屋優奈 教諭 八幡平市立西根中学校 安保秀美 教諭

(3) 支部主催事業

名 称	期 日	会 場	内 容	参 加 者 等
高校生を対象とした赤十字インターンシップ	6月14日 6月21日	日赤岩手県支部	青少年赤十字加盟校の高校生に対し進路選択の視野を広げてもらうために、赤十字について学ぶ機会を提供し、体験的なプログラムを実施した。	14日-2校6名 21日-6校17名
青少年赤十字賛助奉仕団 団体表彰	6月18日	キオクシア アイーナ	本県のJRC活動の応援団ともいえる「岩手県青少年赤十字賛助奉仕団」が、永年の功績が認められ、岩手県青少年育成県民会議から表彰を受けた。小向委員長が出席、表彰状を受領した。今年度の団体表彰は当団のみであった。	小向委員長参加
高文連 JRC委員会	7月3日	盛岡赤十字病院 記念講堂	最近始まった一円玉募金によるルワンダ支援について解説し、それを受ける形でポスターコンクールを実施した。八幡平市との関わりもあることから、意欲的な作成風景が見られた。	参加者51名
リーダーシップ・トレーニング・センター	7月30日 ～31日	国立岩手山青少年交流の家	中高生のグループでは、鎮静化に向かわぬ各地の戦争の背景について講義し、解決の難しさと共に赤十字の精神の意味を改めて考える機会を設けた。小学生は主体性を重視したプログラムを展開、大きな成果を得た。	小学生-43名 中学生-26名 高校生-20名 指導スタッフ-20名
高文連 JRC委員会	10月16日	盛岡赤十字病院 記念講堂	各校から普段のボランティア活動報告や、義援金の募集の仕方等を共有した。各学校の活動を称えあい、交流することで、今後のボランティア活動に向けて、活動の輪を広げていく機会となった。	参加者35名
活動事例発表 研究会	11月14日	サンセール盛岡	研究推進校の取組への評価が高く、各校のJRC活動に刺激を与える内容であった。講演会には大船渡高校の校長先生を招聘し、2月末に発生した大規模火災における高校生の活躍を紹介いただいたが、参加者からは当校の日常の教育活動や、探究プログラム「大船渡学」、本県の復興教育の蓄積、気仙地区の協同性にも関心が集まった。	参加者83名



傑作ぞろいのポスターコンクール
(高文連 JRC委員会)



トレセンならではの
野外活動に子ども達も夢中



例年になく参加者が集まり
熱気に満ちた活動事例発表研究会

(4) 研究推進指定校

指定年度	学 校 名	研 究 主 題
令和6年～7年度	遠野市立土淵小学校	自らの未来を切り拓く主体的・創造的な子どもの育成 ～[気づき][考え][実行する]心豊かな児童の育成を目指して～
令和7年～8年度	滝沢市立滝沢第二中学校	主体的に活動する心豊かな生徒の育成 ～自分たちの地域・人々とのかかわりを通して～
令和7年～8年度	岩手県立大船渡高等学校	赤十字の理解、校内・地域での相互自助活動の関わり方・進め方 ～校内でのニーズ、校内での働きかけ～

令和7年度 青少年赤十字加盟状況

☆新規加盟校

※令和8年3月31日現在

地区区分	校数	メンバー数	校 種	校 数	メンバー数	加 盟 校 (園・所)			
盛岡市	64	11,532	幼稚園	2	15	太田好摩			
			こども園	8	330	盛岡☆聖光	水道橋くるみ☆とりょう	なでしこ☆盛南ひまわり	都南天昌寺
			保育所	12	469	くりやがわ	見前	手代森	乙部あべたて
						太田きたくり	さくらがおか下田	ぎんがの里	くろいしの青山
						青山好摩	太田桜城	太田東山王	河北民城南
			小学校	28	8,683	仙北杜陵	大慈寺中野	月が丘東松園	手代森都南東
						緑が丘山岸	見前玉山	見前飯岡	向中野本宮
						下橋玉山	城東☆盛岡中央附属	仙北	見前米内
						岩手女子	盛岡第二		
			高等学校	2	37	盛岡聴覚支援	盛岡青松	岩大附属支援	盛岡視覚支援
宮古市	2	210	特別支援	5	187	宮古重茂			盛岡となん支援
			小学校	1	183				
大船渡市	15	1,761	中学校	1	27	あかさき	末崎		
			こども園	2	89	明和			
			保育所	1	17	猪川末崎	大船渡吉浜	大船渡北綾里	盛立根
			小学校	8	1,020	大船渡第一中			
			中学校	2	589	大船渡大船渡定時			
花巻市	6	549	高等学校	2	46	大迫花巻北	矢沢		
			中学校	3	508	大迫花巻東	花巻南		
北上市	10	754	高等学校	3	41	江釣子南	大通り口内	鳩岡崎	二子
			保育所	6	386	和賀東飯豊			
			中学校	2	312	北上翔南	専大北上		
久慈市	2	435	高等学校	2	56	大川目			
			小学校	1	57	久慈			
遠野市	14	1,423	中学校	1	378	青笹綾織	小友	上郷	附馬牛
			小学校	11	889	土淵遠野	遠野北	宮守	鱒沢
			中学校	3	534	達曾部			
一関市	4	241	中学校	3		遠野西	遠野東		
			こども園	2	71	千厩小羊	花泉		
			中学校	1	147	藤沢			
陸前高田市	6	277	高等学校	1	23	一関第二			
			保育所	2	79	小友気仙			
			小学校	3	196	小友竹駒	広田		
釜石市	2	249	高等学校	1	2	高田			
			小学校	1	249	小佐野			
二戸市	9	1,331	高等学校	1	0	釜石商工			
			小学校	6	808	石切所岡	金田一	浄法寺	中央仁左平
			中学校	3	523	福岡	金田一		
八幡平市	16	1,390	保育所	1	20	畑			
			小学校	10	804	安寺代田	大更頭	柏台平笠	平舘野田山
			中学校	4	457	安代西	根	西根第一	松尾
奥州市	7	818	高等学校	1	109	平舘			
			こども園	3	70	駒形	稲瀬わかば	もみじ	
			保育所	2	36	江刺ひがし	田原		
			高等学校	2	712	前沢	水沢		

地区区分	校数	メンバー数	校 種	校 数	メンバー数	加 盟 校 (園・所)				
滝 沢 市	26	5,256	こども園	2	380	ふじなでこ	つばめ			
			保 育 所	9	295	巣 子 南 巣 子 大 沢	ふ ー り ん	元 村		
			小 学 校	9	2,970	鵜 飼 一 本 木	柳 沢	川 前		
						一 本 木 鵜 飼 篠 木	滝 沢	滝 沢 第 二		
			中 学 校	6	1,611	滝 沢 中 央 滝 沢 東 柳 沢	姥 屋 敷			
雫 石 町	2	359	小 学 校	2	359	滝 沢 第 二 一 本 木	滝 沢 南	柳 沢	姥 屋 敷	
葛 巻 町	7	223	小 学 校	4	136	御 所 雫 石				
			中 学 校	3	87	葛 巻 江 刈 小 屋 瀬	五 日 市			
岩 手 町	4	548	小 学 校	3	415	葛 巻 江 刈 小 屋 瀬				
			中 学 校	1	133	一 方 井 川 口 沼 宮 内				
紫 波 町	3	837	こども園	1	82	沼 宮 内				
			保 育 園	1	120	あ づ ま				
			中 学 校	1	635	虹 の				
矢 巾 町	16	2,511	こども園	5	208	紫 波 第 一				
			保 育 所	3	98	矢 巾 中 央	ふ ー ど う	や は ば	こ ず か た	北 高 田
			小 学 校	4	1,355	北 川	煙 山	徳 田		
			中 学 校	2	694	煙 山	徳 田	不 動	矢 巾 東	
			高 等 学 校	1	38	矢 巾	矢 巾 北			
			特 別 支 援	1	118	☆ 南 昌 み ら い				
住 田 町	2	134	小 学 校	2	134	と な ん 支 援				
山 田 町	1	279	中 学 校	1	279	有 住	世 田 米			
岩 泉 町	1	95	中 学 校	1	95	山 田				
軽 米 町	2	324	小 学 校	1	155	岩 泉				
			中 学 校	1	169	軽 米				
九 戸 村	1	110	中 学 校	1	110	軽 米				
一 戸 町	2	323	小 学 校	1	165	九 戸				
			中 学 校	1	158	一 戸				
総 計	224	31,969	幼 稚 園	2	15					
			こども園	23	1,230					
			保 育 所	37	1,520					
			小 学 校	95	18,578					
			中 学 校	45	9,257					
			高 等 学 校	16	1,064					
			特 別 支 援	6	305					

<加盟学校を有していない町村>

・西和賀町 ・金ヶ崎町 ・平泉町 ・大槌町 ・田野畑村 ・普代村 ・野田村 ・洋野町

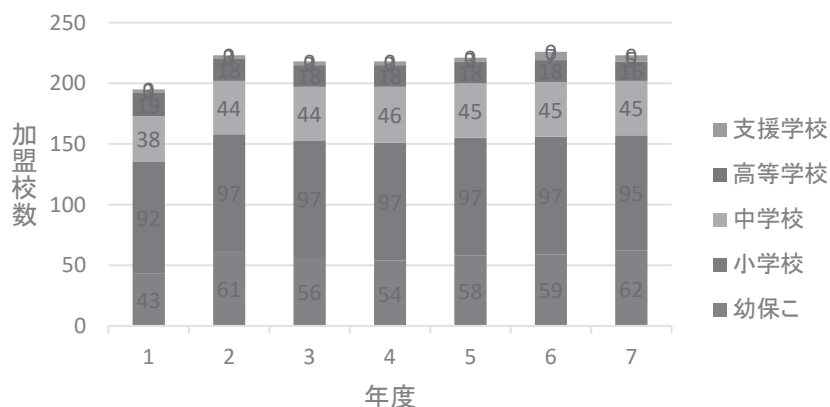
<新規加盟校・園>

- ・聖光こども園
- ・盛岡市立とりょう保育園
- ・盛南ひまわりこども園
- ・盛岡中央高等学校附属中学校
- ・岩手県立南昌みらい高等学校

<加盟辞退校>

- ・盛岡市立玉山小学校 (R8.3.31閉校)
- ・盛岡市立玉山中学校 (R8.3.31閉校)
- ・岩手県立盛岡聴覚支援学校小・中学部 (脱退)

岩手県内の青少年赤十字加盟状況



- ・少子化に伴う学校統合や閉校が相次ぎ、メンバーの実数は長期的な減少局面に入っている。
- ・毎年、新規加盟はあり、加盟率は下降していない。
- ・数年来、高校の新規加盟が見られず、部員数の減少による脱退がある。

一円玉募金(青少年赤十字活動資金)協力校

合 計 377,851円

(令和8年3月31日現在)

保育所・幼稚園	小学校	中学校	高校・支援学校
盛岡市立太田幼稚園	盛岡市立城南小学校	盛岡市立見前中学校	岩手県立南昌みらい高等学校
盛岡市立好摩幼稚園	盛岡市立厨川小学校	滝沢市立滝沢南中学校	専修大学北上高等学校
陸前高田市立気仙保育所	盛岡市立仙北小学校	滝沢市立姥屋敷小中学校	岩手県立一関第二高等学校
陸前高田市立小友保育所	盛岡市立大慈寺小学校	滝沢市立柳沢小中学校	岩手県立高田高等学校
北上市立江釣子保育園	盛岡市立中野小学校	岩手町立沼宮内中学校	岩手県立釜石商工高等学校
北上市立大通り保育園	盛岡市立本宮小学校	紫波町立紫波第一中学校	岩手県立盛岡青松支援学校
北上市立口内保育園	盛岡市立河北小学校	九戸村立九戸中学校	岩手県立盛岡聴覚支援学校
北上市立鳩岡崎保育園	盛岡市立緑が丘小学校		
北上市立二子保育園	盛岡市立飯岡小学校	青少年赤十字 海外支援事業 青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」の取組の一環として、青少年赤十字メンバーが集めた青少年赤十字活動資金（通称「一円玉募金」）を財源として実施される支援事業。 令和2年度からネパールとバヌアツを対象国として支援してきたが、ネパールについては令和6年度をもっていったん終了し、令和7年度からはルワンダを対象国として取組を継続する。	
北上市立南保育園	盛岡市立向中野小学校		
虹の保育園	大船渡市立大船渡小学校		
南巣子保育園	大船渡市立猪川小学校		
川前保育園	遠野市立青笹小学校		
盛岡市立乙部保育園	八幡平市立松野小学校		
盛岡市立さくらがおか保育園	滝沢市立篠木小学校		
水道橋くるみ幼稚園	滝沢市立鶴飼小学校		
なでしここども園	滝沢市立滝沢中央小学校		
都南幼稚園	滝沢市立一本木小学校		
ふじなでしここども園	雫石町立雫石小学校		
天昌寺保育園	葛巻町立小屋瀬小学校		
あかさきこども園	葛巻町立江刈小学校		
あづま幼稚園	岩手町立沼宮内小学校		
	矢巾町立矢巾東小学校		
	軽米町立軽米小学校		
22	24	7	7

5 国際活動

今日の国際情勢をみると、依然として、戦争や民族・宗教等の対立による武力紛争が生じており、多くの難民や避難民が発生している。また、気候の変動や環境破壊が及ぼす自然災害による被災者も多く発生している。

このような国際情勢に迅速に対応するため、日本赤十字社では人道危機に対する緊急救援から復旧・再建、開発協力までの中・長期的な取り組みを展開している。

本県支部としても、毎年NHKと共催で実施している「NHK海外たすけあい」の募金や海外救援金の募金を受け付け、また、支部国際活動参加事業に活動資金支援や指導員派遣などの支援を行っている。

(1) 全社の活動概要

① 令和7年度支部国際活動参加事業

	事業対象国	事業名
1	バングラデシュ	南部避難民保健医療支援事業
2	ラオス	救急法普及支援事業
3	バヌアツ	青少年赤十字海外支援事業
4	インドネシア	防災強化事業
5	レバノン	プライマリーヘルス・スケールアップ事業
6	アジア・大洋州	給水・衛生災害対応キット整備事業
7	南スーダン共和国	紛争犠牲者支援事業
8	南部アフリカ地域	感染症対策事業
9	ルワンダ	気候変動等レジリエンス強化事業
10	アフガニスタン	気候変動対策事業
11	モンゴル	保健支援事業
12	ルワンダ	青少年赤十字海外支援事業

② 令和7年度 当支部負担額

令和7年度支部国際活動参加事業のうち、「救急法普及支援事業」「青少年赤十字海外支援事業」「気候変動等レジリエンス強化事業」「気候変動対策事業」について、第1ブロック支部として600万円(各県支部社資実績額に応じて按分)の支援を行った。

国名	支援事業	支援金額	備考
ラオス	救急法普及支援事業	152,000 円	
バヌアツ	青少年赤十字海外支援事業	151,000 円	
ルワンダ	気候変動等レジリエンス強化事業	151,000 円	
アフガニスタン	気候変動対策事業	151,000 円	
合 計		605,000 円	

■救急法普及支援事業

ラオスは、医療水準は近隣諸国と比べても極めて低い状況である。2015 年時点の人口 1,000 人当たりの医師数は 0.272 人であり、世界平均の 1.804 人を大きく下回っている。地域住民が自分たちで応急手当を実施できるようにすることが非常に重要となる。日赤は、2019 年 10 月からラオス赤が行う救急法普及事業に対して、財政支援や資機材整備支援等をはじめ、指導者のスキルアップのための技術指導の支援等を行っている。

■青少年赤十字海外支援事業

バヌアツは、自然災害リスクの最も高い国(World Risk Repot 2021)で、オーストラリアの北東に位置する島国で 83 の島からなり、面積は新潟県とほぼ同じ大きさ、人口は 30 万人である。

バヌアツ赤十字社(以下、バヌアツ赤)は防災への意識が高いことから、日赤は 2017 年度から支援を行っている。この防災教育事業に関してバヌアツ赤とバヌアツ教育研修省との連携も積極的に行われている。

■ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業

ルワンダ赤十字社と連携し、気候変動の影響と考えられる災害、感染症や貧困などの社会課題に対し、住民が課題に取り組む「モデルビレッジアプローチ」を普及させ、レジリエンスを強化させるため、財政支援を行った。

■アフガニスタン気候変動対策事業

アフガニスタン赤新月社が主体となっていく、気候変動による自然災害へ対応するための「村落や学校での防災・減災活動」、「生活支援活動」に対し、財政支援を行った。



高校で実施した救急法講習でアドバイスする日赤指導員（ラオス赤）



モバイルラジオがコミュニティを巡回し、様々な情報を提供。©ルワンダ赤

(2)海外救援金等受付状況（令和7年度実績 岩手県支部扱い分のみ掲載）

①NHK海外たすけあい

NHK と協働して実施する募金キャンペーンで、昭和 58 年から毎年 12 月に継続して実施している。世界各地での紛争、災害、病気に苦しんでいる人びとを支援する活動に役立てられている。

救援金名	受付期間	件 数	金 額
NHK海外たすけあい	毎年 12.1～12.25	608 件	847,653 円



令和7年度
NHK 海外たすけあいポスター



NHK 盛岡放送局内の様子

②海外救援金(令和7年度実績 岩手県支部扱い分のみ掲載)

絶え間なく起こる災害や紛争—それらは人びとの尊い命や財産を一瞬にして奪い去ります。世界の各地で自然災害や武力紛争等による被害が発生しており、被災者の状況は一層深刻なものになっています。こうした状況の中で苦しむ人々のために、日本赤十字社と世界の赤十字・赤新月社が行う緊急支援や開発協力活動の資金として、救援金は活用されています。

救援金名	金 額
ウクライナ人道危機救援金	10,000円
2025 年ミャンマー地震救援金	10,000円
合 計	20,000円

6 医療事業、血液事業、社会福祉事業

(1) 医療事業

令和7年度は、厳しい経営環境を踏まえ、持続可能な病院運営を目指し、具体的な体制整備と経営改善施策に取り組んだ。

まず、令和7年4月より病床の適正化を図るため、54床を休床とするダウンサイジングを実施した。これにより、病床稼働状況に即した効率的な運営体制の構築を進め、医業費用の抑制と医療資源の最適配分に努めた。

診療体制の強化としては、同年10月に糖尿病・代謝内科を新設し、糖尿病をはじめとする生活習慣病に対する専門的かつ継続的な診療体制を整備した。地域住民の健康ニーズに即した診療機能の充実を図ることで、地域医療への貢献と外来医療の質向上を推進した。

また、11月には岩手医科大学と連携協定を締結した。本連携は、紹介患者の円滑な受入れを目的とし、大学病院との役割分担を明確化することで、地域完結型医療の推進および医業収益の確保に努めている。

経営面では、グループ重点支援病院の指定を受け、本社指導のもと経営改善を推進した。多職種によるSWOT分析を実施し、重点課題を明確化した。その結果、「救急患者の受入充実」「地域医療連携の強化」「職員の改善意識の醸成」を最優先課題と位置付け、救急対応体制の整備、開業医訪問による紹介・逆紹介の促進、病院幹部による各部署への方針共有など、経営改善に向けた取組を実施した。

さらに、3月には病院機能評価機構による訪問審査を受審した。訪問審査においては、感染制御体制や医療安全管理体制、多職種連携による診療・看護の取組が全体として高く評価され、安全で質の高い医療を提供する体制が確認された。

今後もこれらの取り組みを着実に推進し、地域に信頼される中核病院としての役割を果たすとともに、経営基盤の強化と医療の質の向上に継続して取り組んでいく。



(医療連携協定締結式)



(病院機能評価訪問受審)

年度別患者数調べ

()内は一日平均

区 分 科 別 年度	入 院 患 者 数			外 来 患 者 数			外来新患延べ数(再掲)			健康診断受診数		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
総合診療科	(4.5) 1,664	(8.1) 2,950	(7.7) 2,816	(13.3) 3,225	(13.5) 3,272	(15.7) 3,013	(1.1) 276	(1.4) 339	(2.0) 389			
糖尿病・代謝内科			(2.5) 457			(7.8) 921			(0.7) 78			
精神科	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0	(1.8) 438	(9.2) 388	(9.9) 415	(0.0) 1	(0.0) 2	(0.0) 1			
脳神経内科	(4.6) 1,675	(4.6) 1,665	(3.0) 1,080	(11.5) 2,772	(11.5) 2,772	(13.3) 3,213	(0.9) 206	(0.8) 186	(0.8) 187			
血液内科	(32.8) 11,989	(32.6) 11,885	(30.0) 10,966	(17.7) 4,282	(20.1) 3,932	(19.7) 3,772	(1.0) 242	(1.1) 219	(1.1) 219			
呼吸器内科	(5.0) 1,820	(2.8) 1,027	(2.0) 721	(4.5) 1,099	(7.1) 1,008	(5.5) 774	(1.4) 206	(1.3) 178	(1.5) 206			
消化器内科	(15.5) 5,666	(15.3) 5,572	(17.6) 6,436	(28.6) 6,916	(29.6) 7,155	(31.4) 7,566	(4.8) 1,168	(4.3) 1,046	(5.0) 1,209			
循環器内科	(13.6) 4,969	(14.5) 5,297	(12.7) 4,624	(25.5) 6,181	(26.4) 6,326	(27.2) 6,561	(1.7) 416	(1.5) 369	(1.8) 432			
小児科	(11.8) 4,331	(14.5) 5,294	(14.3) 5,233	(27.8) 6,738	(26.9) 6,501	(23.4) 5,648	(7.6) 1,841	(7.2) 1,753	(6.0) 1,438	(3.9) 939	(3.2) 772	(3.3) 788
外科	(13.5) 4,938	(13.3) 4,841	(12.7) 4,643	(30.7) 7,432	(27.4) 6,630	(25.2) 6,078	(2.3) 549	(1.9) 448	(1.7) 412	(2.6) 637	(2.7) 646	(2.5) 611
小児外科	(0.2) 72	(0.1) 52	(0.1) 42	(1.4) 331	(6.0) 299	(5.8) 289	(2.4) 114	(1.4) 68	(1.3) 66			
整形外科	(23.1) 8,469	(27.6) 10,072	(31.9) 11,640	(27.6) 6,683	(31.7) 6,089	(36.3) 6,926	(5.4) 1,036	(4.9) 944	(6.0) 1,152			
脳神経外科	(9.5) 3,475	(8.6) 3,128	(7.4) 2,702	(12.5) 3,035	(11.4) 2,747	(11.4) 2,742	(2.6) 630	(2.3) 548	(1.9) 466	(0.8) 196	(0.9) 209	(0.9) 206
皮膚科	(0.5) 169	(0.7) 271	(0.3) 98	(22.3) 5,401	(25.4) 6,149	(24.5) 5,906	(1.6) 379	(1.7) 401	(1.1) 271			
泌尿器科	(12.8) 4,677	(12.8) 4,683	(13.9) 5,056	(62.7) 15,169	(65.1) 15,760	(69.7) 16,795	(2.9) 692	(3.0) 726	(3.2) 778			
産婦人科	(24.8) 9,084	(24.6) 8,996	(20.2) 7,361	(83.3) 20,168	(81.9) 19,826	(78.1) 18,824	(5.5) 1,329	(5.7) 1,374	(4.7) 1,129	(2.9) 693	(3.1) 747	(2.8) 684
眼科	(0.0) 15	(0.4) 151	(0.3) 127	(7.6) 1,838	(11.6) 2,222	(13.6) 2,591	(0.4) 70	(0.3) 67	(0.6) 118			
耳鼻咽喉科	(3.9) 1,443	(4.2) 1,519	(5.1) 1,869	(11.3) 2,739	(12.5) 3,017	(14.3) 3,438	(2.8) 678	(3.0) 717	(3.0) 712			
放射線科	(0.1) 24	(0.0) 0	(0.0) 0	(38.9) 9,419	(40.7) 9,841	(41.5) 10,004	(2.0) 493	(2.4) 590	(2.8) 675			
麻酔科	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0	(2.3) 564	(4.2) 418	(5.4) 534	(0.2) 19	(0.1) 14	(0.1) 12			
リハビリテーション科	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0	(10.0) 2,411	(8.7) 2107	(10.1) 2,435	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0			
緩和ケア科	(13.5) 4,936	(11.4) 4,174	(11.2) 4,089	(0.5) 109	(0.7) 104	(10.2) 112	(0.2) 33	(0.3) 38	(5.4) 59			
健診部										(5.4) 1,318	(5.7) 1,380	(5.4) 1,309
合 計	(189.7) 69,416	(196.1) 71,577	(191.7) 69,960	(441.9) 106,950	(440.3) 106,563	(450.4) 108,557	(42.9) 10,378	(41.4) 10,027	(41.5) 10,009	(15.6) 3,783	(15.6) 3,764	14.9 3,600

健診部業務内容年度別実績表

健診部活動	(単位:人)	令和5年度	令和6年度	令和7年度
子宮がん検診	受診者数	693	747	684
	要精検者数	55	64	58
	精検受診者数	34	19	12
	がん発見者数	0	0	0
乳がん・甲状腺がん検診	受診者数	637	646	611
	要精検者数	44	28	21
	精検受診者数	23	16	9
	がん発見者数	1	1	1
1泊人間ドック	受診者数	344	318	345
	要精検者数	147	127	153
	がん発見者数	2	1	1
1日人間ドック	受診者数	264	309	274
	要精検者数	116	125	107
	がん発見者数	0	1	0
脳ドック	受診者数	196	209	206
	要精検者数	47	43	0
成人病健診(協会けんぽ)	受診者数	671	675	624
	要精検者数	174	182	174
	がん発見者数	1	0	2
一般健康診断 職域健康診断	受診者数	389	396	413
	がん発見者数	0	86	0
肺がんCT検診	受診者数	0	0	0
	がん発見者数	0	0	0
集団健診(学校等)	受診者数	4,022	3,877	4,812
乳児健診(受診券)	受診者数	939	772	788
妊産婦健診(受診券)	受診者数	3,088	2,730	2,863
肺がん検診(喀痰検査)	受診者数	579	584	42
	要精検者数	0	0	0

医療社会事業部業務内容実績表

(令和7年度 相談援護関係実施状況)

1 入退院支援部門の人員配置

社会福祉士	実人員	4	人
	換算人員	4	人
看護師	実人員	6	人
	換算人員	5.4	人

2 相談救護関係の実施状況

区分			実件数
取扱件数	年度実件数		4,453
	継続実件数		87
	新規実件数	入院	3,774
		外来	679
年度延件数	年度延件数		10,798
新規ケースの紹介経路	医師		28
	看護職		3,800
	リハビリ職		2
	その他院内職員		30
	本人		47
	家族・親戚縁者		63
	院外関係機関		268
	近隣者・知人		0
	医療チーム		7
	ソーシャルワーカー		208
介入の時期	受診前		44
	外 来		424
	入院前		80
	入院中		3,771
	その他		134
社会的背景	独居		323
	経済困窮		50
	家族疎遠・身寄りなし		43
	ハイリスク妊産婦		4
	精神疾患		40
	認知症		134
	家庭内暴力・虐待		11
	自殺企図		0
	無保険		0
	身元不明		0
	ホームレス		0
	外国人		4
	MSW(再掲:社会福祉士)		3
相談担当者職種および人数	精神保健福祉士(PSW)		1
	看護師		0
	その他		2

区分			実件数	延件数
援助内容		受診・受療	190	506
		経済的問題	23	56
		制度活用	263	602
		入院療養生活	9	15
		退院支援	2,775	8,063
		在宅療養・介護	219	647
		医療者との関係	2	3
		家族関係	10	32
		日常生活	11	40
		就労・就学	8	17
		身元保証・権利擁護	3	5
		死後対応	0	0
		その他	139	336
援助方法	面談	本人	635	
		家族	598	
		友人・知人	5	
	電話	本人	102	
		家族	812	
		友人・知人	6	
	訪問	家庭	1	
		その他	0	
	同行・同伴・代行		5	
	連絡調整・院内		1,490	
	連絡調整・院外:面会		46	
	連絡調整・院外:電話		3,584	
	連絡調整・院外:その他		710	
	カンファレンス (院内職種のみ)		859	
	カンファレンス (院外職種含む)		33	
	合同カンファレンス (院内職種のみ)		41	
	合同カンファレンス (院外職種含む)		70	
チーム医療	退院支援チーム		4,698	
	認知症ケアチーム		166	
	患者サポートチーム		2	
	リエゾンチーム		0	
	緩和ケアチーム		80	
	虐待対応チーム		1	
	倫理コンサルテーションチーム		0	
	その他		47	

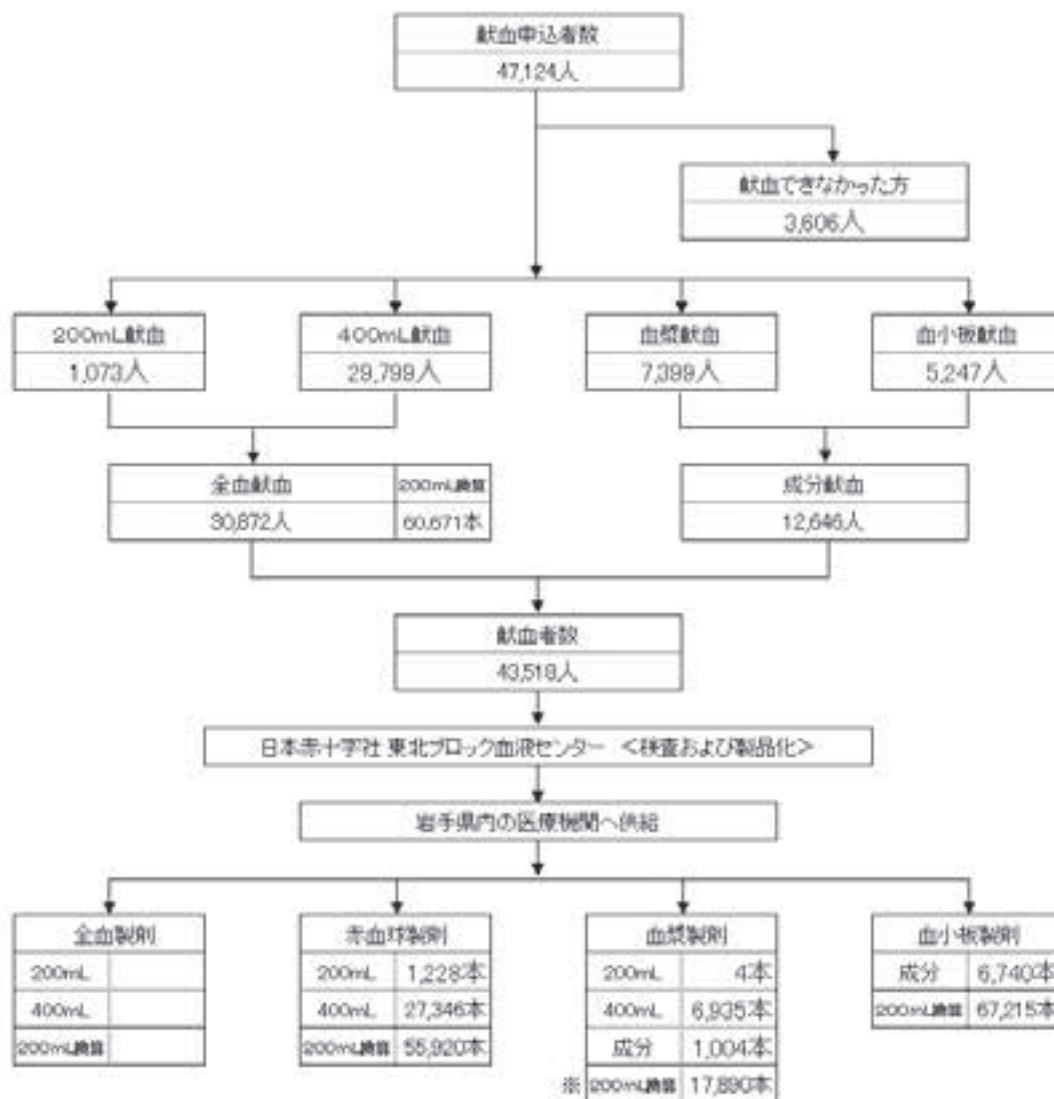
(2) 血液事業

日本赤十字社は病気やけがで苦しみ、血液製剤を必要としている方の尊い命を救うため需要に応じた献血血液を安定的に確保し、安全性・品質向上に取り組み、献血者の皆様の思いをお届けするという使命を担い、血液事業に取り組んでいる。

○令和7年度の県内における血液事業の状況

医療機関の需要に見合った血液の確保に努め、令和7年度は全血献血30,872人（前年度比96.5%）、成分献血12,646人（前年度比102.0%）、合計43,518人（前年度比98.1%）の方々から献血のご協力をいただいた。

また、全血献血の400mL献血率は96.5%と目標の97.9%を下回ったものの、医療機関が必要とする輸血用血液製剤は安定して供給することができた。



① 献血協力者への新たなアプローチ

ア 輸血を必要とする患者さんへ安定的に輸血用血液製剤をお届けできるよう、継続的に献血に協力いただける方を募集するため献血カードを廃止し、より利便性の高い献血Web会員サービス「ラブラッド」のスマホアプリへの移行促進を図り、予約率の向上にも努めた。その結果、アプリ会員登録は東北ブロックセンターから示された目標数5,360人を超え、6,294人（達成率117.4%）の登録者が得られた。（累計21,664人）

イ 効果的に献血協力依頼を行う仕組みの確立

日々の必要献血者数を予約によって事前に確保できる体制の構築を目指している。東北ブロックセンターから示された予約率の目標は70%であったが、実績は59.1%にとどまり目標を達成することができなかった。今後もさらに事業所献血における予約を推進し予約数の増加に取り組んでいく。

② 献血思想の普及啓発

ア 献血キャンペーンの実施

広く県民に対し献血思想の普及啓発を図り、献血血液による血液製剤の医療機関への安定供給を図るため、県、市町村、血液センターが相互に連携し、また、医療機関での需要が増加している400mL及び成分献血由来の血液製剤の確保を目的に各種献血キャンペーンを実施した。

キャンペーン内容	期間	期間中の献血者数（人）			
		成分	400mL	200mL	合計
愛の血液助け合い運動 	R7. 7.1～7.31	1,027	2,370	101	3,498

クリスマス献血キャンペーン 	R7. 12. 6～12. 25	723	992	39	1, 754
はたちの献血キャンペーン 	R8. 1. 1～2. 28	2, 071	4, 917	162	7, 150
バレンタイン献血キャンペーン 	R8. 2. 1～2. 14	548	1, 711	52	2, 311

イ 若年層を対象とした普及啓発

(ア) 小学生への普及啓発

日本赤十字社作成の小学生向け小冊子「みんなで学ぼう血液のこと」を用い、献血ルームで小学生を対象とした献血セミナーを開催し啓発を図った。

(イ) 高校生への普及啓発

高校生対象の献血セミナーを12回実施し、1, 103人の生徒に参加いただいた。令和7年度も校内放送を活用した全校生徒対象のセミナー（通称：献血DJ）を実施し、その後の献血協力者が昨年度より増加している。また、文化祭等におけるパネル展示は16校で実施、高校献血は延べ10校で実施し、高校生125名から献血協力をいただいた。（全会場での高校生は642名）

ウ 献血会場の告知

新聞、ラジオにおいて翌日又は当日の献血会場の告知を行い、また、市町村広報誌及び血液センターホームページで当月の告知を行った。

新聞	・(株) 岩手日報社 ・(株) 東海新報社
ラジオ	・(株) I B C 岩手放送 ・(株) ラヂオもりおか ・特定非営利活動法人カシオペア市民情報ネットワーク ・えふえむ花巻 (株) ・奥州エフエム放送 (株) ・一関コミュニティFM (株)
その他	・各市町村の広報誌 ・血液センターホームページ

エ 報道各社への献血啓発依頼

本社作成の献血啓発CMを、民放テレビ局4社、民放ラジオ局6社において冬期間を中心に放送していただいた。また、NHK盛岡放送局においては、毎週金曜日に献血情報の放送をしていただいた。

テレビ	・(株) I B C 岩手放送 ・(株) 岩手朝日テレビ ・(株) 岩手めんこいテレビ ・(株) テレビ岩手
ラジオ	・NHK盛岡放送局 ・(株) I B C 岩手放送 ・(株) エフエム岩手 ・(株) ラヂオもりおか ・えふえむ花巻 (株) ・奥州エフエム放送 (株) ・宮古エフエム放送 (株)

オ 各種リーフレットを活用した献血推進と健康啓発

血液センター作成の各種パンフレットを献血者や各企業に配布し、健康増進や献血推進に活用した。(献血リピーターブック、団体献血パンフレットは県庁で作成)

④ 複数回献血協力確保事業の普及

献血バス及び献血ルームにおいては、メール、LINE、はがき、電話等の各種手段を活用し献血協力者の確保に努めた。また、献血バスでの主な協力先となる事業所献血の継続的な実施を目的として、協力事業所へ年間2回の献血実施への働きかけを行った。また、献血ルームでは次回予約キャンペーンを実施し、来所者に対して年に複数回の献血への継続協力を呼びかけた。

⑤ ボランティアの育成と活動

献血制度の啓発や献血ボランティア団体の育成（研修）について活動を行った。

各種ボランティア団体等の献血研修会

団体名	開催日	場所	参加人数 (人)
イーハトーブ学生赤十字奉仕団	6/21～6/22	東北ブロック血液センター	1
	8/21～8/22	北海道自治労会館	1
	9/27	Web 会議	2
	2/28～3/1	東北ブロック血液センター及びイオンモール新利府	1

各種献血キャンペーン参加団体

キャンペーン名	実施期間	協力団体
クリスマス献血 キャンペーン	R7. 12. 6～12. 25	大船渡ライオンズクラブ 大船渡五葉ライオンズクラブ 大船渡市赤十字奉仕団 岩手県立大船渡東高等学校 前沢ライオンズクラブ 岩手県立前沢高等学校 一関ライオンズクラブ 一関市一関赤十字奉仕団 釜石ライオンズクラブ 釜石リアスライオンズクラブ 釜石市赤十字奉仕団 江釣子ライオンズクラブ

		北上市赤十字奉仕団 花巻東ライオンズクラブ 花巻市花巻地区赤十字奉仕団 北上ライオンズクラブ 和賀ライオンズクラブ 北上国見ライオンズクラブ 北上ロータリークラブ 北上西ロータリークラブ 北上和賀ロータリークラブ 盛岡南ライオンズクラブ イーハートーブ学生赤十字奉仕団 盛岡市保健推進員協議会 盛岡不来方ライオンズクラブ 岩手教区献血たすけあいの会 岩手女子高等学校 JRC 部
バレンタイン献血 キャンペーン	R8. 2. 1～2. 14	盛岡中津川ライオンズクラブ 岩手教区献血たすけあいの会 イーハートーブ学生赤十字奉仕団 岩手女子高等学校 JRC 部 西根ライオンズクラブ 盛岡市保健推進員協議会 花巻ライオンズクラブ 花巻東ライオンズクラブ 石鳥谷ライオンズクラブ 花巻市花巻地区赤十字奉仕団 一関中央ライオンズクラブ 一関修紅高等学校 宮古岩手ライオンズクラブ 陸中宮古ライオンズクラブ 宮古市赤十字奉仕団 岩手県立大学宮古短期大学部学生赤十字 奉仕団 二戸ライオンズクラブ 二戸市赤十字奉仕団

		釜石市赤十字奉仕団 金ケ崎ライオンズクラブ 金ケ崎町赤十字奉仕団 江釣子ライオンズクラブ 専修大学北上高等学校 北上市赤十字奉仕団 八幡平市赤十字奉仕団 陸全高田ライオンズクラブ
--	--	--

⑦ 医薬情報活動充実・強化

各医療機関へ、訪問、メール、オンラインツールなどを状況に応じ効率的に使い分け、情報提供、遡及調査、苦情品調査報告を行うとともに、電話での問い合わせにも対応した。

県内主要医療機関の院内輸血療法委員会には、可能な限り出席し情報収集に努めた。

12月には県内医療機関の輸血検査を担当する臨床検査技師を対象とし、オンラインツールによる研修会を実施。内容は東北ブロック血液センター品質部職員による「HLA関連依頼検査の状況」、「赤血球関連依頼検査の状況」、「ABO血液型判定で遭遇する異常反応の解釈」の講演を行い、参加者32名の研修会終了後アンケートでは「勉強になった、オンラインの開催がよかった」など良好な回答が多かった。

1月には例年開催している岩手県合同輸血療法委員会を県健康国保課との共同事務局で岩手医科大学創立60周年記念館にて行い、輸血医療に関わっている各職種の先生方にご講演をいただいた。



(岩手県合同輸血療法委員会)

活動件数

	令和 7 年度		令和 6 年度	
	人数	構成比 (%)	人数	構成比 (%)
検査技師	403	81.6	372	73.5
医師	55	11.1	56	12.0
薬剤師	28	5.7	26	5.5
看護師	6	1.2	8	1.7
事務	2	0.4	3	0.6
その他	0	0	0	0.0
合計	494		465	

活動内容

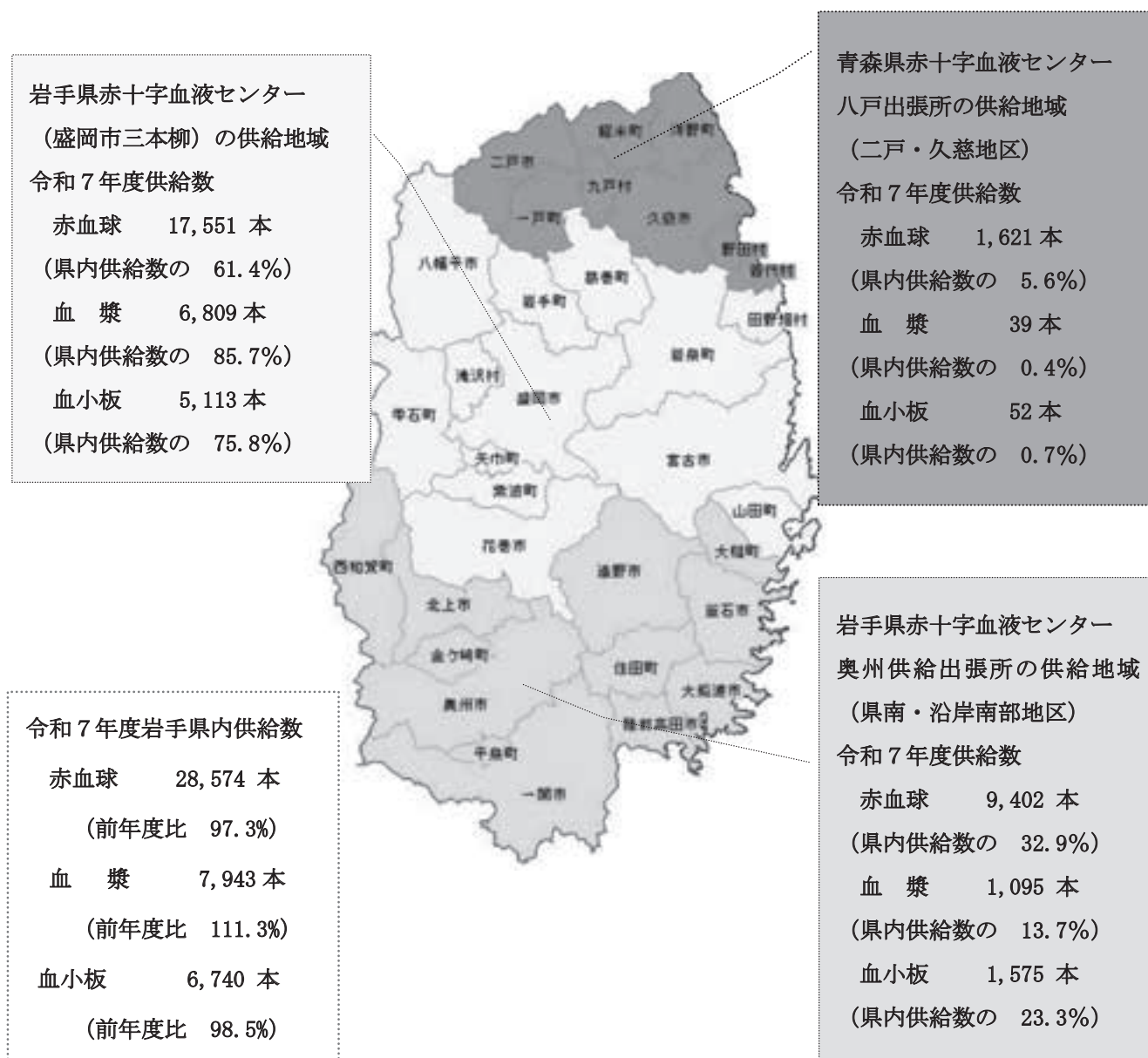
	令和 7 年度		令和 6 年度	
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
情報収集	207	21.0	224	25.0
遡及調査	27	2.7	27	3.0
情報提供	334	33.8	219	24.5
院内輸血療法委員会参加	45	4.6	57	6.4
配送支援	94	9.5	42	4.7
WEB 発注システム	2	0.2	3	0.3
使用動向情報の入手	148	15.0	167	18.7
問い合わせ処理	41	4.1	41	4.6
副作用処理	29	2.9	27	3.0
依頼検査関連	15	1.5	38	4.2
説明会・研修会等	4	0.4	4	0.4
苦情対応	45	15.0	13	1.5
血液事業広報	3	0.3	8	0.9
合同輸血療法委員会関連	5	0.5	6	0.7
技術協力	1	0.1	1	0.1
回収処理	3	0.3	0	0.0
その他活動	11	1.1	18	2.0
合計	988		895	

※複数項目にまたがる活動もあることから、活動内容の合計は活動件数の合計より多い。

⑧ 輸血用血液の医療機関への供給状況

安全性の高い血液を安定的に医療機関に供給するため、平成24年度から新たに実施している血液事業広域事業運営体制（全国7ブロックでの運営体制）により、北上地区以南・沿岸南部・西和賀地区医療圏は奥州供給出張所から、県北医療圏（二戸・久慈地区）は青森県赤十字血液センター八戸出張所からの供給体制を整えたことにより迅速な供給が可能となり、令和6年度は岩手県内93の医療機関に下図のとおり血液製剤の供給をした。

定時発注率については、目標値90.0%に対して90.0%と目標を達成した。



輸血用血液の岩手県内供給状況（単位：本）

区 分	供給数		比較増減	
	令和 7 年度	令和 6 年度	本数	前年度対比
全 血	0	0	—	—
赤血球	28,574	29,343	△769	97.4%
血 漿	7,943	7,134	809	111.3%
血小板	6,740	6,816	△76	98.9%
合 計	43,257	43,293	△36	99.9%

⑨ 献血表彰

献血運動の推進に関し積極的に協力し、他の模範となる実績を示した献血推進団体及び献血団体に対して、厚生労働大臣表彰等の贈呈を行った。

【厚生労働大臣表彰状：2 団体】

団 体 名	所在地
株式会社北日本銀行	盛岡市
ライオンズクラブ国際協会 332－B 地区 第 2 R・第 2 Z 江釣子ライオンズクラブ	北上市

【厚生労働大臣感謝状：8 団体】

団 体 名	所在地
岩手県農業共済組合	花巻市
岩手県盛岡西警察署	盛岡市
岩手開発鉄道株式会社	大船渡市
一般社団法人葛巻町畜産開発公社	葛巻町
岩手県立二戸病院	二戸市
東北電力ネットワーク株式会社 盛岡電力センター	盛岡市
盛岡市立高等学校	盛岡市
千厩ショッピングモール エスピア	盛岡市

【知事及び日赤岩手県支部長感謝状：11 団体】

団 体 名	所在地
東里工業株式会社	一関市

ニチコン岩手株式会社	岩手町
盛岡赤十字病院	盛岡市
株式会社YDKテクノロジーズ盛岡事業所	盛岡市
国際医療福祉専門学校一関校	一関市
富士善工業株式会社	北上市
双葉精密株式会社	釜石市
学校法人健康科学大学一関修紅高等学校	一関市
株式会社エフエム岩手	盛岡市
二戸市シビックセンター	二戸市
一般社団法人岩手県建設業協会北上支部	北上市

【日本赤十字社血液事業本部長賞：1団体】

団 体 名	所在地
東里工業株式会社	一関市

⑩ 骨髄ドナー登録事業

法に基づく造血幹細胞提供支援機関である日本赤十字社の事業所として、次の指定業務を行った。

○ドナー登録手続き（献血併行型ドナー登録会も含む）

骨髄登録者の状況

	岩 手 県		全 国	
	登録者数(人)	対前年度比(%)	登録者数(人)	対前年度比(%)
令和3年度末	3,174	100.1	537,820	101.3
令和4年度末	3,084	97.2	544,305	101.2
令和5年度末	3,069	99.5	554,123	101.8
令和6年度末	3,053	99.5	562,452	101.5
令和7年度末	3,020	98.9	564,145	100.3

（３）社会福祉事業

①日赤岩手乳児院

令和 7 年度の乳児院入退所状況は、年度当初（前年度からの繰越）16 名、入所 4 名、退所 7 名により年度末在籍は 13 名であった。入所理由は虐待が 3 名、養育困難 1 名であった。退所理由は、家庭引取が 3 名、養護施設等への措置変更が 1 名、里親委託 2 名であった。参考までに、昭和 9 年創設以来の総養育乳児数は 2,008 名となっている。

近年、少子化や核家族化、離婚増加など子どもを取り巻く環境が大きく変化し、社会的養護を必要とする子どもが増加傾向にある中、当院では全クラスの小規模グループケアを実施するとともに、家庭的な養育を目的とした担当養育制を実施している。

施設定数にかかわる職員配置のほか、小規模グループケア担当職員や心理判定員、里親支援専門相談員の設置、家庭支援専門相談員の追加設置を実施し高い養育機能を保持するとともに、よりきめ細かな養育を必要とする病虚弱児童も積極的に受け入れている。

児童虐待や DV（ドメスティックバイオレンス：保護者や交際相手からの暴力）は、乳幼児の養育とともに保護者への支援も重要であることから、家庭支援専門相談員を中心に児童相談所と密接に連携を行い、家族への相談支援を行っている。

また、入所児のより家庭的な生活を実現するための里親制度への支援として、里親支援専門相談員による里親同士や里親と職員との交流を実施し、マッチングへの支援とともに専門機関との連携に努めている。

さらに、地域貢献として、18 市町からの「子育て短期支援事業」を受託、保護者・家族を対象とした「もぐもぐ食育体験教室（個別対応）」や「赤ちゃん食堂（集団対応）」を実施、個人や赤十字有功会などボランティアとの活動や看護師・保育士を目指す学生の実習の受け入れなど、地域に貢献する施設として専門機能の提供に努めている。



わあ〜。

ア 日赤岩手乳児院入退所状況

(単位：人)

児童相談所 (市町村名)	6年度末現在					入 所 児					退 所 児					7年度末現在				
	男		女		計	男		女		計	男		女		計	男		女		計
	措置	一時	措置	一時		措置	一時	措置	一時		措置	一時	措置	一時		措置	一時	措置	一時	
福祉総合相談センター	4	0	7	2	13	1	4	3	4	12	0	3	5	5	13	5	1	5	1	12
盛岡市	1		5		6	1	1	1	3	6		1	3	2	6	2		3	1	6
花巻市	1				1					0					0	1				1
北上市	1		2	1	4			2	1	3			2	2	4	1		2		3
矢巾町				1	1		1			1		1		1	2					0
野田村							1			1							1			1
宮古市	1				1											1				1
大槌町							1			1		1			1					0
一関児童相談所	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	2
奥州市			2		2													2		2
平泉町	1				1						1				1					0
宮古児童相談所	1	0	1	0	2	0	1	0	1	2	1	0	0	0	1	0	1	1	1	3
宮古市	1				1		1		1	2	1				1	0	1	0	1	2
大槌町			1		1													1		1
他県委託																				
合計	6	0	10	2	18	1	5	3	5	14	2	3	5	5	15	5	2	8	2	17

イ 初日在籍児数及び延べ人数の状況

(入所定員 20 人)

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度比
初日在籍児数	16	16	15	14	14	13	13	13	13	14	13	13	167	-35
延べ人数	486	491	445	434	430	390	403	390	424	432	372	397	5,094	-1,073

② 特別養護老人ホーム日赤鷺鳴荘

ア 施設入所

日赤鷺鳴荘では、1ユニット10名の完全個室・小規模グループとしたユニットケアを実施し、プライバシーの配慮、入居者一人ひとりの個性や生活リズムに応じて暮らしていけるように介護支援を行い、また、要介護度の重度化や認知症者の増加傾向にある中、利用者の安心と安全で笑顔あふれる生活が送れるよう入居者どうしの関係や職員との信頼関係・なじみの関係が構築できるよう努めている。潤いのある施設生活を送っていただくため、本年においては様々な感染予防に努めながら、近隣の小中学校、地域住民・ボランティア等との交流を行い園内行事やユニット毎の季節行事などを開催した。



(地元小学校との交流会)



(外部講師による講演会「終活について」)

長期入所における令和7年度の新規入居者は29人、退居者32人、年度末在籍者は76人で、開設以来の入居者は986人、また、短期入所の利用者数は延べ4,709人（1日平均12.9人）となっている。

なお、長期入所の要介護度別入居者数は下記のとおりである。（単位：人）

要介護度別	6年度末			入 居			退 居			7年度末		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
要介護度1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護度2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護度3	2	16	18	1	3	4	1	5	6	3	6	9
要介護度4	10	23	33	1	11	12	6	6	12	5	30	35
要介護度5	4	24	28	4	9	13	4	10	14	4	28	32
計	16	63	79	6	23	29	11	21	32	12	64	76

イ 日赤鷺鳴荘デイサービスセンター

平成30年4月から雫石町の指定を受け、単独事業として地域密着型通所介護を行っている。介護保険法に規定する在宅の要介護者等に対し、通所の方法により各種のサービスを提供することによって、要介護者等の自立的な生活の助長、社会的孤立感の解消及び心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族介護者の身体的、精神的な負担の軽減を図ることを目的に実施した。

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用者実数（人）	29	32	35	36	39	44	46	50	50	51	50	50	512
利用者延数（人）	258	261	269	305	285	323	358	317	330	343	304	375	3,728
実施日数（日）	25	24	25	26	25	24	26	23	24	23	22	25	292

ウ 指定居宅介護支援事業所

在宅の要援護高齢者若しくは要援護となるおそれのある高齢者、また、その家族に対し、在宅介護等に関する総合的相談に応じ、地域の要援護高齢者及びその家族等の福祉の向上を図ることを目的としたサービスを提供した。

なお、令和7年度の相談件数は3,397件、介護保険法に規定された在宅要介護者に対するケアプランの作成件数は、延べ1,019件（うち在宅要支援者106件）であった。

（単位：件）

区 分	本 人	家 族	関係機関	相談協力員 （民生委員）	その他	合 計
電 話	11	556	768	0	2	1,337
訪 問	933	687	185	0	0	1,805
来 所	11	40	10	0	1	62
そ の 他	48	50	93	0	2	193
合 計	1,003	1,333	1,056	0	5	3,397

エ 「日本赤十字社長期ビジョン（第二次中期事業計画（R5～R7）」）における取組み

地域への福祉サービスの向上として、当施設が「超少子高齢社会における地域の健康・安全な生活の追求」の一助となるために、利用者からも介護を志す人からも選ばれる施設となって安定的に施設運営を継続するとともに、施設運営以外の部分における地域の福祉ニーズにも応えていく必要がある。

そのため、効果的な人材確保対策及び充実した教育環境の整備を通じて優れた人材を確保・育成するとともに、ボランティアが事業運営に積極的にに関わり、職員が自らの専門スキルを最大限に生かせる環境を整えることにより、福祉サービスの質を向上させ、また、地域貢献活動を積極的に実施する。「日本赤十字社長期ビジョン（第二次中期事業計画）」における当施設の取組みについて、次のとおり実施した。

(1)介護職員の確保・教育環境の充実

施 策 内 容				備 考
・超少子高齢化社会を踏まえ、介護等職員の人材確保に当たっては、介護等実習生の受入れ、就職説明会等の人材確保対策に継続して取り組むとともに、地域住民等を対象に介護現場説明会を実施した。 また、介護・看護等の直接処遇職員のスキルアップのため、職務内容及び経験年数に応じ、職場内研修の実施や各種研修会に積極的に参加した。				※介護現場説明会 1. 小学校 0回 2. 中学校 0回 3. 介護希望者 2回
活動指標	R 6 実績／計画	R 7 実績／計画	R 8 計画	
①介護等実習生の受入れ	2回／2回	0回／2回	1回	
②介護現場説明会	2回／3回	3回／3回	3回	
③介護職員初任者研修参加	0人／2人	0人／2人	1人	
④実務者研修会等受講助成	1人／2人	0人／2人	1人	

(2) ボランティア等による施設運営への参画促進

施 策 内 容				備 考
・これまで職員に限定されてきた業務の一部に積極的にボランティアが関わるにより、職員の専門スキルを最大限に生かせる環境を整えることを目指し、ボランティアが担える活動範囲について地域住民等を対象とした説明会を計画。介護業務ボランティアを積極的に受け入れた。				※ボランティア説明会は開催できなかったが、関係者等へは適宜説明
活動指標	R 6 実績／計画	R 7 実績／計画	R 8 計画	
①ボランティア説明会	0回／3回	1回／3回	1回	
②介護業務ボランティア受入数	28／3人	30／3人	30人	

(3) 地域貢献活動の推進

施 策 内 容				備 考
・地域における福祉の拠点として機能している状態を目指し、地域ニーズを再確認するとともに、地域貢献活動を行った。				
活動指標	R 6 実績／計画	R 7 実績／計画	R 8 計画	
①医療・介護に関するシンポジウムの開催	1回／1回	1回／1回	1回	
②近隣小中高生等の学習体験受入	2回／2回	2回／2回	2回	

7 赤十字思想の普及・広報

(1) 赤十字事業の普及啓発

赤十字に対する理解を深め、社業発展の基盤を確立するために、さまざまな機会や媒体を活用した積極的な情報の発信が必要であることから、次のような赤十字思想の普及啓発に努めた。

ア 支部における広報活動

(ア) 広く県民に対して赤十字事業への理解と協力を求める必要があることから「赤十字ふれあいフェスティバル」を開催し、赤十字事業に対する県民の認識を高め、赤十字思想の普及を図ることを目的としている。令和7年度は盛岡市、一関市の2カ所で開催した。

また、その他、関係団体の依頼により同様のイベントを盛岡市内で2回、遠野市内で1回実施し広報活動に努めた。



盛岡市（令和7年5月10日）、一関市（10月25日）で開催したフェスティバルの様子

(イ) 広報紙「赤十字いわて」の発行及び赤十字 NEWS 等の配付

- ・ 赤十字いわて 年2回各7,500部（会員約3,500件への送付を含む）
- ・ 赤十字 NEWS（新聞） 毎月1回各1,500部
- ・ 赤十字いわて特別号 年1回全世帯配布 417,000部



「赤十字いわて」
（左 夏季・秋季号 ・ 右 冬季・春季号）



「赤十字いわて」特別号（各戸配布用）

- (ウ) 赤十字運動月間に新聞広告（全地区・分区の協賛を含む）と民放各社の協力を得て、テレビ・ラジオCMスポット放送による広報を行い、県民に運動の周知を行った。また、テレビスポットについては、通年でのCMスポット（15秒）放送を民放放送局（4社）に依頼した。



岩手日報誌面での広告(5月1日)

各地区分区と協賛各社の協力により
全面広告を行った



令和7年度日本赤十字社テレビCMスポット

民放4社の協力を得て5月を中心に通年放送した

- (エ) ラジオ媒体を使って通年にわたり、県民へ各赤十字施設の事業内容を周知した。
IBC 岩手放送ワイドステーション内の「身近な赤十字」(月1回 第一月曜日 15時15分～放送)を実施した。



- (オ) 令和7年度は、ホームページの他インスタグラム、X、フェイスブックでの広報活動を行い、特に若年層へのアプローチを強化するなど、積極的に県民に発信した。



令和7年度投稿数 114件
フォロワー 1,882人
(令和8年3月31日現在)



Facebook



(カ) 岩手日報社主催の「いわてワンプロ」への協賛を行い、毎月1回岩手日報に掲載されるワンプロ特集紙面に日赤岩手県支部のロゴが掲載された。

(キ) 日本赤十字社のマスコットキャラクター「ハートラちゃん」のノベルティグッズや、岩手県支部独自で作成した広報用グッズをイベントで配布したほか、赤十字会員など法人へのCSR・SDGs活動の推進に向けて積極的に活用した。

令和7年度作成 ハートラちゃんを活用したノベルティグッズ

① クリアファイル



② ハートラちゃんシール



(ク) 広報活動の評価・検証を管内施設の広報業務連絡調整会議広報委員会（3月）で行った。

イ 地区・分区における広報活動

地区・分区を通じ、赤十字運動月間用チラシの全戸配布とポスターの掲出依頼を行ったほか、市町村広報紙を活用した広報活動を促進した。

また、産業まつり等の地域イベントに赤十字活動紹介ブースを出展し、救急法ミニ講習や災害救援物資の展示など地域に密着した広報活動を可能な限り展開した。



令和7年度運動月間ポスター

各自治会・町内会の掲示板に掲出された。

ウ 本社主催の広報活動

(ア) 防災・減災プロジェクト

東日本大震災から15年が経過したが、毎年のように甚大で広域な災害が発生している。日本赤十字では、令和2年度から災害や感染症からいのちを守り、家族や地域で多くの方々に災害の備えに取り組む行動のきっかけとなることを目的に、3月1日からの1か月間、趣旨に賛同する企業に寄付の協力等を依頼している。

岩手県支部として、各企業にキャンペーンの理解促進と協賛金の募集を行った。

令和7年度 日赤岩手県支部協賛企業実績数 12社



防災・減災プロジェクトシンボルマーク



令和7年度防災・減災ポスター

8 会員・活動資金

(1) 会員・活動資金概要

赤十字活動の財政基盤をより強固にするため、毎年5月を赤十字会員増強運動月間として、地区・分区役職員や協賛委員・地域奉仕団・有功会などの赤十字関係者の理解と協力を得て、活動資金の募集活動を実施するとともに赤十字思想の普及を図った。

令和7年度においては、ここ数年並みの高額寄付が無かったことや、都市部を中心に一般活動資金が減少し、目標額を下回った。

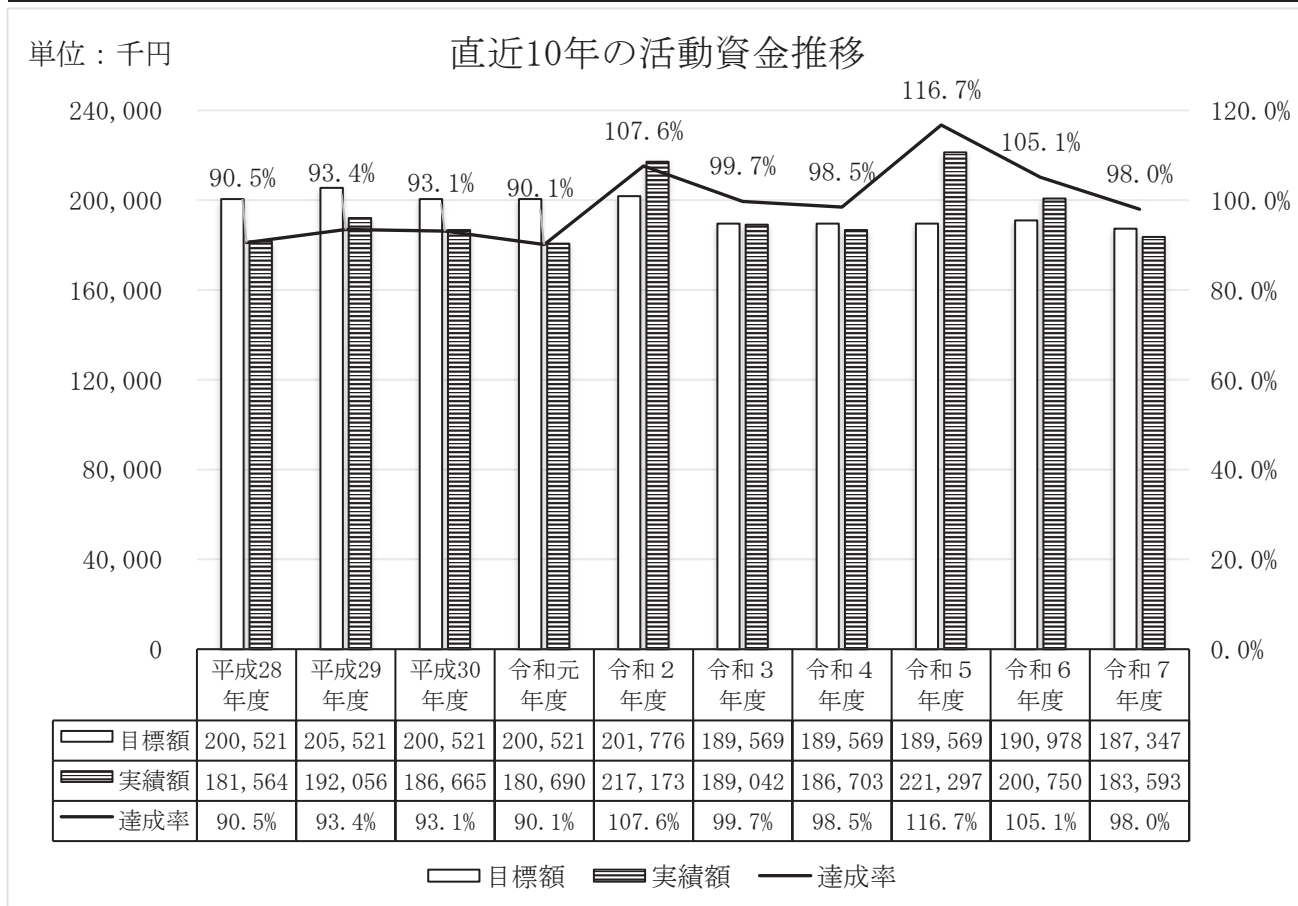
日赤岩手県支部 会員数（会費2,000円以上の納入）

令和8年3月31日現在

会 員 数	一 般 会 員	法 人 会 員
	1,748 人	2,622 社

令和7年度 活動資金募集実施結果

区 分	目 標 額 (円)	実 績 額 (円)	達 成 率 (%)
一般活動資金	165,001,000	161,075,206	97.6
法人活動資金	22,346,000	22,517,397	100.8
合 計	187,347,000	183,592,603	98.0



※平成29年度は日赤鶯鳴荘新築移転特別寄付金の募集があったため、目標額が増加していること。

令和 7 年度活動資金収納状況一覧表

令和 8 年 3 月 31 日時点

地区・分区	一 般 活 動 資 金			法 人 活 動 資 金			総 額			前年度 実績額	対前年 度比
	目標額	実績額	達成率	目標額	実績額	達成率	目標額	実績額	達成率		
盛岡市	41,097,000	16,555,006	40.3%	3,696,000	4,554,773	123.2%	44,793,000	21,109,779	47.1%	20,720,641	101.9%
宮古市	6,675,000	6,301,804	94.4%	646,000	120,500	18.7%	7,321,000	6,422,304	87.7%	6,783,400	94.7%
大船渡市	4,445,000	4,368,500	98.3%	569,000	321,000	56.4%	5,014,000	4,689,500	93.5%	5,297,042	88.5%
花巻市	11,706,000	11,878,660	101.5%	1,301,000	1,428,000	109.8%	13,007,000	13,306,660	102.3%	13,126,696	101.4%
北上市	12,603,000	10,308,166	81.8%	2,178,000	2,715,897	124.7%	14,781,000	13,024,063	88.1%	12,735,997	102.3%
久慈市	4,593,000	4,763,825	103.7%	509,000	532,000	104.5%	5,102,000	5,295,825	103.8%	5,344,900	99.1%
遠野市	3,201,000	3,986,500	124.5%	332,000	308,500	92.9%	3,533,000	4,295,000	121.6%	4,318,100	99.5%
一関市	13,904,000	16,443,520	118.3%	1,307,000	1,094,000	83.7%	15,211,000	17,537,520	115.3%	19,033,062	92.1%
陸前高田市	2,287,000	2,562,300	112.0%	187,000	0	0.0%	2,474,000	2,562,300	103.6%	2,806,800	91.3%
釜石市	4,635,000	2,634,335	56.8%	448,000	343,500	76.7%	5,083,000	2,977,835	58.6%	3,298,342	90.3%
二戸市	3,487,000	3,926,400	112.6%	859,000	1,245,000	144.9%	4,346,000	5,171,400	119.0%	5,117,130	101.1%
八幡平市	3,215,000	3,453,500	107.4%	289,000	159,000	55.0%	3,504,000	3,612,500	103.1%	3,541,000	102.0%
奥州市	13,936,000	15,007,230	107.7%	1,352,000	870,000	64.3%	15,288,000	15,877,230	103.9%	16,344,611	97.1%
滝沢市	7,290,000	4,708,953	64.6%	381,000	105,400	27.7%	7,671,000	4,814,353	62.8%	4,932,435	97.6%
地区計	133,074,000	106,898,699	80.3%	14,054,000	13,797,570	98.2%	147,128,000	120,696,269	82.0%	123,400,156	97.8%
雫石町	1,917,000	2,193,550	114.4%	182,000	5,000	2.7%	2,099,000	2,198,550	104.7%	2,234,750	98.4%
葛巻町	782,000	1,108,500	141.8%	118,000	140,000	118.6%	900,000	1,248,500	138.7%	1,262,000	98.9%
岩手町	1,602,000	1,969,500	122.9%	183,000	153,425	83.8%	1,785,000	2,122,925	118.9%	2,167,000	98.0%
紫波町	3,933,000	4,616,401	117.4%	291,000	85,000	29.2%	4,224,000	4,701,401	111.3%	4,649,900	101.1%
矢巾町	3,385,000	3,077,800	90.9%	354,000	185,000	52.3%	3,739,000	3,262,800	87.3%	3,012,100	108.3%
盛岡地区	11,619,000	12,965,751	111.6%	1,128,000	568,425	50.4%	12,747,000	13,534,176	106.2%	13,325,750	101.6%
西和賀町（北上）	661,000	865,000	130.9%	233,000	257,000	110.3%	894,000	1,122,000	125.5%	1,160,500	96.7%
金ヶ崎町（水沢）	1,959,000	1,980,500	101.1%	251,000	235,000	93.6%	2,210,000	2,215,500	100.2%	2,239,000	99.0%
平泉町（一関）	785,000	1,006,000	128.2%	156,000	101,000	64.7%	941,000	1,107,000	117.6%	1,139,000	97.2%
住田町（大船渡）	618,000	783,475	126.8%	56,000	30,000	53.6%	674,000	813,475	120.7%	788,700	103.1%
大槌町（釜石）	1,557,000	1,500,000	96.3%	117,000	0	0.0%	1,674,000	1,500,000	89.6%	1,562,100	96.0%
山田町	1,913,000	2,150,800	112.4%	154,000	500	0.3%	2,067,000	2,151,300	104.1%	2,121,500	101.4%
岩泉町	1,192,000	1,475,000	123.7%	275,000	316,500	115.1%	1,467,000	1,791,500	122.1%	1,823,200	98.3%
田野畑村	401,000	424,500	105.9%	35,000	0	0.0%	436,000	424,500	97.4%	442,000	96.0%
宮古地区	3,506,000	4,050,300	115.5%	464,000	317,000	68.3%	3,970,000	4,367,300	110.0%	4,386,700	99.6%
野田村	504,000	653,000	129.6%	60,000	56,000	93.3%	564,000	709,000	125.7%	710,000	99.9%
普代村	320,000	400,000	125.0%	35,000	31,000	88.6%	355,000	431,000	121.4%	438,700	98.2%
洋野町	2,023,000	2,395,200	118.4%	333,000	324,000	97.3%	2,356,000	2,719,200	115.4%	2,758,400	98.6%
久慈地区	2,847,000	3,448,200	121.1%	428,000	411,000	96.0%	3,275,000	3,859,200	117.8%	3,907,100	98.8%
軽米町	1,093,000	1,386,500	126.9%	254,000	325,000	128.0%	1,347,000	1,711,500	127.1%	2,203,500	77.7%
九戸村	658,000	902,500	137.2%	54,000	0	0.0%	712,000	902,500	126.8%	906,500	99.6%
一戸町	1,609,000	2,150,650	133.7%	133,000	47,600	35.8%	1,742,000	2,198,250	126.2%	2,323,100	94.6%
二戸地区	3,360,000	4,439,650	132.1%	441,000	372,600	84.5%	3,801,000	4,812,250	126.6%	5,433,100	88.6%
分区計	26,912,000	31,038,876	115.3%	3,274,000	2,292,025	70.0%	30,186,000	33,330,901	110.4%	33,941,950	98.2%
地区分区計	159,986,000	137,937,575	86.2%	17,328,000	16,089,595	92.9%	177,314,000	154,027,170	86.9%	157,342,106	97.9%
支部扱い	5,015,000	23,137,631	461.4%	5,018,000	6,427,802	128.1%	10,033,000	29,565,433	294.7%	43,408,088	68.1%
総 計	165,001,000	161,075,206	97.6%	22,346,000	22,517,397	100.8%	187,347,000	183,592,603	98.0%	200,750,194	91.5%

（単位：円、達成率：％）

※（ ）は郡地区

(2) 社業の振興

赤十字事業は、会員や篤志者など多くの奉仕者の協力によって支えられているが、赤十字事業を円滑に推進するためには、組織基盤を拡充・強化していくことが重要であるため、具体的取り組みを下記のとおりに行い、活動資金を増強した。

ア 法人への DM（ダイレクトメール）による依頼

県建設業協会等各種団体に加盟している法人への DM による活動資金の寄付依頼を継続する。令和 7 年度は、本社から提供された海外たすけあいや国内義援金、海外救援金寄付者データ及び法人データベース（サイドソナー）を活用し、DM による活動資金の寄付依頼を行った。

イ 赤十字と連携した企業の CSR・SDGs 活動の推進

新規開拓や有功章を受章した法人を中心に、赤十字事業への理解促進、活動資金募集を目的として、具体的には、赤十字支援マークの活用、赤十字支援マーク 寄付つき商品等導入、支部事業（救急法の講習や防災セミナー等）の活用等、CSR や SDGs の提案を取り入れながら、80 件の企業訪問を行った。

赤十字支援マーク



ウ 赤十字寄付金付き自動販売機の設置

法人会員を中心に**赤十字寄付金付き自動販売機**（飲料用）の設置が、累計 78 台となっており、着実に支援の輪が広がっている。赤十字マークがより県民の目に触れられる機会を増やし、活動資金の安定確保と支援の意識の醸成を図った。



エ 赤十字会員への活動資金の依頼

赤十字会員（年額 2,000 円以上の支援者）には、年 2 回、広報誌を発送するなど情報提供を行い、事業への理解促進を図るとともに、活動資金の振込用紙を同封して資金確保に努めた。

オ 遺贈・相続財産寄付の推進

近年、遺贈（遺言による寄付）、相続財産寄付（相続人が相続により取得した財産による寄付）により、「自分が築いた財産を社会に役立てたい」、「故人の遺産を社会に役立てて欲しい」という申し出が増えており、そのような申し出に迅速に対応できるよう令和 3 年 10 月 20 日に岩手県司法書士会と連携協定を締結した。その後、岩手県司法書士会との共催で遺贈、相続財産寄付に関するセミナーを次のとおり開催し、遺贈・相続財産寄付の獲得に向けた取り組みを実施した。

開催日	場所	参加人数	内容
12 月 7 日	キオクシアアイーナ（盛岡市）	36 名	司法書士による相続・遺言講座 日本赤十字社の活動について



社会貢献セミナー案内チラシ



セミナーの様子

カ 地区・分区事業の推進

(ア) 地区・分区における事業が円滑に推進されるよう地区分区交付金を交付するとともに、赤十字事業について、地域での理解を得るための助言を行った。

(イ) 地区・分区事務担当者会議を開催し、担当者及び担当課長レベルでの各事業説明と重要連絡事項の伝達、意見交換、施設見学などを行い、事業の推進を図った。

名称	日程	場所	主な内容
地区・分区担当課長 及び事務担当者説明会	4月16日	久慈地区合同庁舎	- 重点事業の説明 - 赤十字事業の概要 - 赤十字活動資金等募集 - 地区分区事務処理 - 表彰事務 - 義援金、救援金募集 - 災害救護活動 - 災害時の対応 - 赤十字奉仕団の活動 - 赤十字講習、防災セミナー
	4月18日	釜石地区合同庁舎	
	4月23日	奥州地区合同庁舎	
	4月25日	盛岡地区合同庁舎	

(ウ) 県民から寄付されている活動資金が、各地区・分区において適正に管理運用されているか、訪問による事務調査を行った。

名称	日程	対象（訪問順）
地区・分区 事務調査	11月25日	一戸町分区 二戸地区 久慈市地区
	11月26日	普代村分区 野田村分区
	11月27日	洋野町分区 久慈地区

(3) 表彰概要

有功章等贈与規則により表彰を実施し、寄付者及び功労者に感謝の意を伝達した。

ア 全国赤十字大会

赤十字事業の進展を図るため、寄付者及び功労者とともに全国赤十字大会に参会した。



イ 支部主催の表彰伝達式

寄付者及び功労者に感謝の意を表すため、令和7年度岩手県赤十字有功会の集い（10月21日開催）にて支部長より寄付者及び奉仕者の表彰を伝達した。



ウ 地区・分区主催の表彰伝達式

寄付者及び功労者に感謝の意を表すため、次のとおり地区・分区主催の表彰伝達式に参加した。

開催日	主催	場所
10月28日	釜石市地区	イオンタウン釜石 イオンタウンホール



有功章贈与規則による表彰一覧表

(単位:件)

地区区分名	社 資 功 労							業 務 功 労					献血功労	
	紺綬褒章	厚生労働大臣感謝状	社長感謝状	金 色 有功章	銀 色 有功章	支部長 感謝状	特別社員	社長感謝状	金 色 有功章	銀 色 有功章	支部長 感謝状金枠	支部長 感謝状銀枠	金 色 有功章	銀 色 有功章
盛岡市			1	2	2	9	26						22	43
宮古市						1	1		1	1	6	14		2
大船渡市			1	1			3		2	1			1	2
花巻市			1		2	1	4		2	6	16	3	7	10
北上市					6	9	15						7	3
久慈市				2		1	3		1	2	5	14		1
遠野市					2	1	3							2
一関市				1	2	7	14		2	14	26	45	1	3
陸前高田市										4	1	3	2	
釜石市						2	4		2			5	2	1
二戸市						1	7	2	2	7		10	1	2
八幡平市														2
奥州市			1	2	6	5	8				16	17	4	7
滝沢市													2	4
雫石町											1	9	3	3
葛巻町														
岩手町														1
紫波町													3	7
矢巾町													1	2
西和賀町						4								2
金ヶ崎町					1			3	2		10	9	1	
平泉町														1
住田町														
大槌町														
山田町													1	
岩泉町														1
田野畑村														
普代村														
野田村														
洋野町						1	2							
軽米町				1	1	1	1							1
九戸村														
一戸町										5	2	10	1	1
計	0	0	4	9	22	43	91	5	14	40	83	139	59	101
支部扱い	0	0	4	1	4	5	2	14	8	3	6	20	0	0
合計	0	0	8	10	26	48	93	19	22	43	89	159	59	101
総計	185							332					160	

9 有功会の活動

有功会は、日本赤十字社への活動資金協力、業務功労、献血功労による「有功章」を受章され、岩手県内において赤十字精神を広く普及する様々な活動を行う有志の方々による組織であり、日本赤十字社岩手県支部の強力な支援団体である。

かつては、県内で最大 24 地区に地区有功会が組織化され、2,600 人余りの会員数が存在した。昭和 63 年に地区有功会の連合体として日本赤十字社岩手県支部有功会連合会が組織されたが、会員の高齢化や新規会員数の減少等により地区有功会の休会・廃止が続いた。こうした状況から、県内どの地域の居住者でも有功章受章後に有功会に加入し活動ができるよう、令和 7 年 2 月 28 日に日本赤十字社岩手県支部有功会連合会を発展的に解消し、岩手県赤十字有功会（会長：齊藤洋美）が設立された。

（１）岩手県赤十字有功会

ア 県内の有功会会員や有功章受章者が一堂に会する「岩手県赤十字有功会の集い」を開催し、有功章受章者に対し表彰を行うとともに会員相互の情報交換や講演会を行った。



（10 月 21 日）

イ 宮城県赤十字有功会との交流を図り、有功会活動について情報交換を行った。



（11 月 11 日）

ウ 岩手県赤十字有功会視察研修として、大阪・関西万博を訪れ、赤十字パビリオンをはじめとした各国パビリオンを視察した。



（9 月 8 日～10 日）

エ 青少年赤十字（JRC）事業への支援活動として、JRC 行事の際、児童生徒に対し激励の言葉とともに記念品を贈呈した。



（7月30日～31日）



（7月3日）



（10月16日）

（2）地区有功会

令和7年度は、4地区の有功会が各地域で活動した。令和8年3月31日で盛岡市地区有功会が解散となり、令和8年度は3地区の有功会が活動する。

	地区有功会名	会長名	設立年月日
1	遠野市地区	佐々木 達郎	昭和51年4月19日
2	盛岡市地区	春山 一男	昭和62年10月26日
3	二戸市地区	國分 敏彦	平成10年11月6日
4	奥州市地区	鈴木 明夫	平成18年7月24日

10 評議員会の開催

令和7年度の評議員会は次のとおり開催され、支部並びに施設における事業、予算、決算等について審議した。

評議員会	期 日・場 所	審 議 等 事 項
第1回評議員会	令和7年6月9日（月） いわて県民情報交流 センターアイーナ 8階804会議室	協議事項 1 令和6年度事業報告 2 令和6年度一般会計歳入歳出決算 3 令和6年度医療施設特別会計歳入歳出決算 4 令和6年度社会福祉施設特別会計歳入歳出決算 5 令和7年度各施設重点事項 報告事項 大船渡市赤崎町林野火災災害対応
第2回評議員会	令和8年2月2日（月） エスポワールいわて 2階大中ホール	協議事項 1 令和7年度補正予算 2 令和8年度事業計画 3 令和8年度一般会計歳入歳出予算 4 令和8年度医療施設特別会計歳入歳出予算 5 令和8年度社会福祉施設特別会計歳入歳出予算 報告事項 北上地区、水沢地区及び一関地区の統合 その他 各施設の事業運営

日本赤十字社岩手県支部役員、評議員名簿

(令和8年5月15日現在)

役 員 名 等	氏 名	職 業 名 等	摘要(選出区分等)
支 部 長	達 増 拓 也	岩 手 県 知 事	
副 支 部 長	内 舘 茂	盛 岡 市 長	
〃	小 原 重 幸	岩手県保健福祉部長	
本社理事・代議員	齊 藤 洋 美		
代 議 員	石 川 健 正		
〃	長 沢 雅 彦		
〃	木 戸 口 敏 男		
監 査 委 員	十 文 字 悦 子		
〃	菅 原 直 徳		
〃	國 分 敏 彦		
参 与	草 木 秀 二	岩手県保健福祉部地域福祉課総括課長	
〃	村 上 昇	元日本赤十字社岩手県支部事務局長	
評 議 員	藤 原 哲	(株)岩手日報社常務取締役統括・労務・関連会社・150周年記念事業担当	支 部 長
〃	眞 下 卓 也	(株)アイビーシー岩手放送代表取締役社長	支 部 長
〃	石 川 健 正	(株)岩手銀行取締役専務執行役員	支 部 長
〃	四 戸 春 雄	盛岡市町内会連合会会長	盛 岡 市
〃	十 文 字 悦 子	盛岡市赤十字奉仕団員	盛 岡 市
〃	春 山 一 男	岩手県赤十字有功会監事	盛 岡 市
〃	長 沢 雅 彦	宮古市民生委員児童委員協議会会長	宮 古 市
〃	志 田 宏 美	岩手県南運輸(株)代表取締役	大船渡市
〃	齊 藤 洋 美	岩手県赤十字有功会会長	花 巻 市
〃	高 橋 克 史	協同組合江釣子ショッピングセンター理事長	北 上 市
〃	木 戸 口 敏 男	久慈市赤十字奉仕団事務局長	久 慈 市
〃	菅 原 直 徳	遠野市地区有功会理事	遠 野 市
〃	畠 山 博	一関市社会福祉協議会会長	一 関 市
〃	吉 川 眞 理 子	一関市一関赤十字奉仕団委員長	一 関 市
〃	泉 進	陸前高田市赤十字奉仕団委員長	陸前高田市
〃	佐々木 亨	釜石市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	釜 石 市
〃	國 分 敏 彦	二戸市地区有功会会長	二 戸 市
〃	佐々木 幸 雄	八幡平市赤十字奉仕団委員長	八幡平市
〃	菅 原 宏 幸	奥州市水沢赤十字奉仕団委員長	奥 州 市
〃	塚 本 康 雄	(株)カントリースペシャルプロダクト衣川代表取締役	奥 州 市
〃	熊 谷 一 見	元滝沢市職員	滝 沢 市
〃	佐々木 光 司	岩 手 町 長	盛 岡
〃	鎌 田 千 市	紫 波 町 長	盛 岡
〃	高 橋 昌 造	矢 巾 町 長	盛 岡
〃	内 記 和 彦	西 和 賀 町 長	北 上
〃	高 橋 文 浩	金 ケ 崎 町 長	水 沢
〃	青 木 幸 保	平 泉 町 長	一 関
〃	神 田 謙 一	住 田 町 長	大 船 渡
〃	平 野 公 三	大 槌 町 長	釜 石
〃	佐 藤 信 逸	山 田 町 長	宮 古
〃	桎 屋 伸 夫	普 代 村 長	久 慈
〃	小 野 寺 美 登	一 戸 町 長	二 戸

(評議員任期 令和7年2月14日～令和10年2月13日)

11 決算概要

(1) 一般会計歳入歳出決算報告(日本赤十字社岩手県支部)

一般会計 (歳入)	1 社資収入	183,907,103 円
	2 委託金等収入	785,611 円
	3 補助金及び交付金収入	4,179,556 円
	4 災害義援金預り金収入	288,021,453 円
	5 繰入金収入	414,482,479 円
	6 資産収入	1,000,000 円
	7 雑収入	4,076,907 円
	8 前年度繰越金	26,327,483 円

歳入合計	922,780,592 円
------	---------------

一般会計 (歳出)	1 災害救護事業費	災害義援金 災害救護訓練への参加 救護装備の整備 救援物資の整備	727,215,619 円
	2 社会活動費	救急法等講習の普及 講習資材の整備 青少年赤十字の普及	24,490,020 円
	3 国際活動費	国際救援活動、国際開発協力 海外救援金	919,500 円
	4 指定事業地方振興費	救護班関係装備品整備	2,814,500 円
	5 地区区分交付金支出	市町村での赤十字事業の促進	29,265,149 円
	6 社業振興費	広報活動の促進 活動資金募集及び会員管理	43,733,723 円
	7 積立金支出	資金積立金支出 事業準備積立金(次年度に義援金 配分委員会に送金予定の災害義援金)	7,743,956 円
	8 総務管理費		34,501,037 円
	9 資産取得及び資産管理費		3,168,541 円
	10 本社送納金支出		26,218,890 円
	11 翌年度繰越金		22,709,657 円

歳出合計	922,780,592 円
------	---------------

(2) 医療施設特別会計歳入歳出決算報告

盛岡赤十字病院

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
	円		円
医 業 収 益	7,621,893,118	医 業 費 用	6,968,233,113
医 業 外 収 益	240,219,341	医 業 外 費 用	46,701,562
医 療 社 会 事 業 収 益	32,212	医 療 奉 仕 費 用	66,527,829
特 別 収 益	4,621,950	特 別 損 失	309,756
		法 人 税 等	-61,535
		当 期 利 益 剰 余 金	785,055,896
歳 入 合 計	7,866,766,621	歳 出 合 計	7,866,766,621

(3) 社会福祉施設特別会計歳入歳出決算報告

日赤岩手乳児院・日赤鶯鳴荘

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
日赤岩手乳児院分	円		円
措 置 費 収 入	262,247,459	人 件 費 支 出	206,857,464
補 助 金 事 業 収 入	320,000	事 務 費	14,528,656
受 託 収 入	6,497,367	事 業 費	18,663,612
寄 付 金 収 入	908,000	固 定 資 産 取 得 支 出	1,963,700
他 会 計 繰 入 金 収 入	901,276	そ の 他 の 支 出	16,182,068
そ の 他 収 入	4,809,403		
前 年 度 繰 越 金	57,558,742		
小 計	333,242,247	小 計	258,195,500
日赤鶯鳴荘分	円		円
介 護 保 険 事 業 収 入	534,567,675	人 件 費 支 出	363,471,047
寄 付 金 収 入	0	事 務 費	82,717,095
受 取 利 息 配 当 金 収 入	181,649	事 業 費	32,306,366
そ の 他 の 収 入	145,200	利 用 者 負 担 軽 減 額	0
積 立 資 産 取 崩 収 入	40,000,000	支 払 利 息 支 出	1,630,214
他 会 計 繰 入 金 収 入	1,268,843	そ の 他 の 支 出	156,338
その他の活動による収入	22,509,080	設 備 資 金 借 入 金 元 金 償 還 支 出	27,826,000
前 年 度 繰 越 金	125,241,438	固 定 資 産 取 得 支 出	533,500
		フ ァ イ ナ ン ス ・ リ ー ス 債 務 返 済 支 出	2,512,908
		積 立 資 産 支 出	40,000,000
		その他の活動による支出	31,526,619
小 計	723,913,885	小 計	582,680,087
歳 入 合 計	1,057,156,132	歳 出 合 計	840,875,587

歳入歳出差引額 216,280,545円（翌年度繰越金）

日赤岩手乳児院 75,046,747円

日赤鶯鳴荘 141,233,798円

付 録

日本赤十字社岩手県支部現勢

日本赤十字社スローガン
人間を救うのは、人間だ。

◎赤十字の基本原則
・人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

◎ジュネーブ条約締結国 196カ国
○国際赤十字・赤新月社 191社

1. 沿革
明治20年(1887)11月12日・・・日本赤十字社岩手委員部創立
明治29年(1896) 5月20日・・・日本赤十字社岩手支部に改称
昭和27年(1952) 8月14日・・・日本赤十字社岩手県支部に改称

2. 会員 個人 1,748人
法人 2,622社

3. 評議員 32人 (定員32人)

4. 役員 (令和8年4月1日現在)
支部長 達増拓也
副支部長 内舘 茂、小原 重幸
本社理事 齊藤洋美
本社代議員 石川健正、長沢雅彦、木戸口敏男
支部監査委員 十文字悦子、菅原直徳、國分敏彦
支部参与 草木秀二、村上 昇

5. 青少年赤十字 (令和8年4月1日現在)		
幼稚園・保育所	62校	2,765人
小 学 校	95校	18,578人
中 学 校	45校	9,257人
高 等 学 校	16校	1,064人
特別支援学校	6校	305人
計	224校	31,969人

6. 赤十字ボランティア (令和8年4月1日現在)		
地域赤十字奉仕団	30団	947人
青年赤十字奉仕団	3団	76人
特殊赤十字奉仕団	12団	473人
計	45団	1,496人

7. 有功会 (令和8年4月1日現在)		
組 織	会 員	数
岩手県赤十字有功会		101人

8. 講習普及活動		
区 分	指 導 員 登 録 者 数	
救 急 法		93人
水 上 安 全 法		15人
雪 上 安 全 法		0人
健康生活支援		25人
幼児安全法		33人
計		166人

9. 国際活動		
NHK海外たすけあいキャンペーン		
	608件	847,653円
海外救援金		20,000円

10. 災害等救援		
救 護 班	8班	48人
無 線 局	基地局 2、移動局 33	
救 護 車 両	9台	
R7年度取扱義援金額	4災害	27,114,176円
配布救援物資(令和7年度)	289個	(毛布、緊急セット、バスタオル)

11. 医療事業		
施 設 数		
病 院		1
病床総数(令和7年度)		354床
総患者数(令和7年度)		
入 院	69,960人	(191.7人/日)
外 来	108,557人	(450.4人/日)

12. 血液事業		
施設数	車両台数	
血液センター	1	献血バス 4台
献血ルーム	1	血液運搬車 10台
奥州供給出張所	1	その他車両 12台
献血者数(令和7年度)	供給本数(令和7年度)	
成分献血 12,646人	赤血球	55,920本
400mL献血 29,799人	血漿	17,890本
200mL献血 1,073人	血小板	67,215本
合計 43,518人	合計	141,025本

13. 社会福祉施設 (令和8年4月1日現在)		
事業の区分	施設の種類の	入所定員
児童福祉施設	乳 児 院	20人
老人福祉施設	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設) (ショートステイ) (デイサービス)	80人 10人 18人

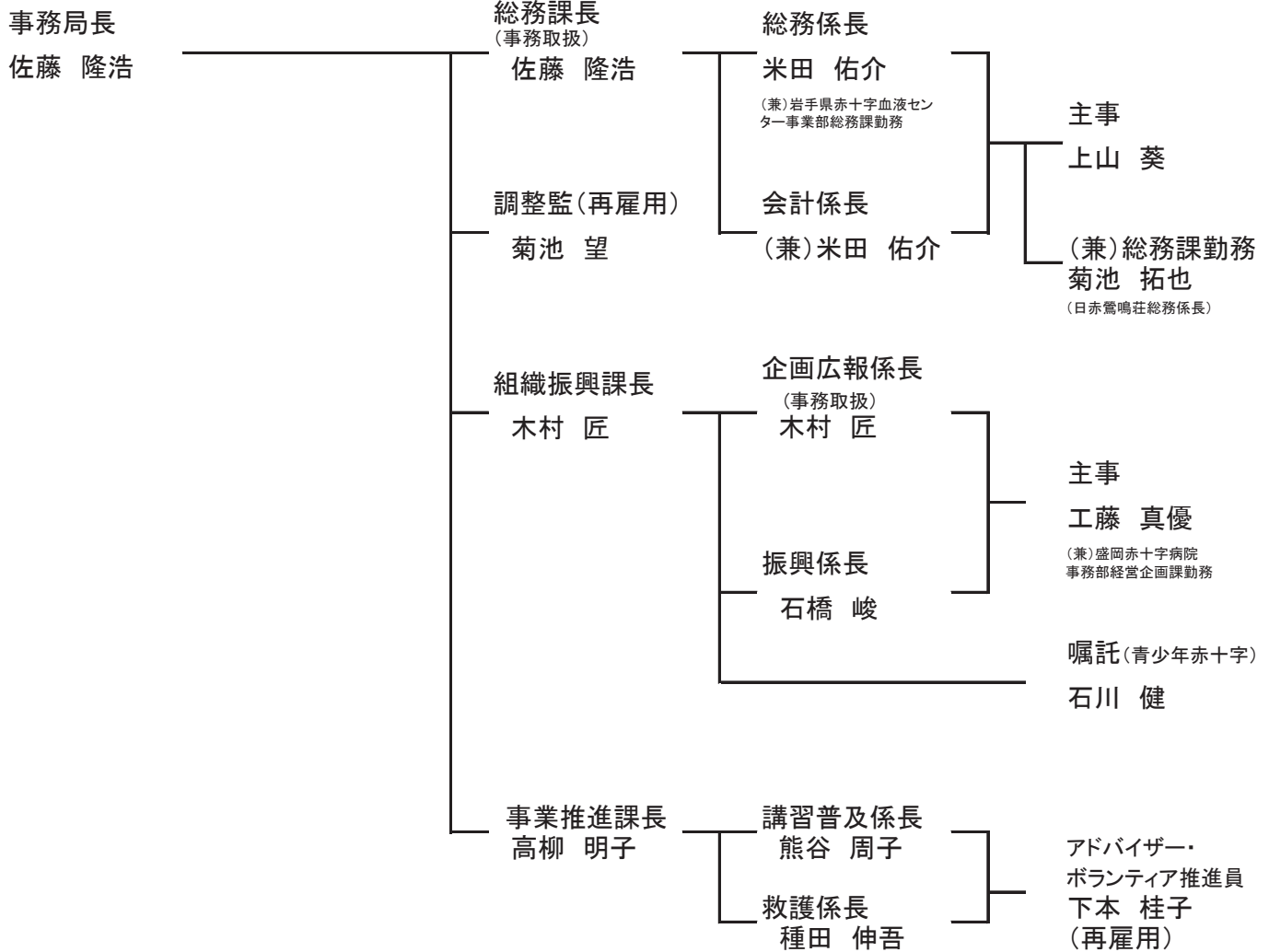
14. 施設及び職員数 (令和8年4月1日現在)		
区 分	施設数	職員数
支 部	1	12人
病 院	1	518人
血 液 セ ン タ ー	1	86人
乳 児 院	1	35人
特別養護老人ホーム	1	81人
合計	5	732人

15. 会計 (令和8年度当初予算)		
一般会計 (支部)	211,620千円	
社会福祉特別会計	1,041,173千円	
医療事業特別会計	8,702,135千円	

※血液事業特別会計は、ブロック化に伴い岩手センター単独での計上はなし

日本赤十字社岩手県支部組織図

令和8年4月1日現在



各施設等の職員数

施設等名	正職員	嘱託	臨時職員等	計
日本赤十字社岩手県支部	9人	3人	0人	12人
盛岡赤十字病院	414人	22人	82人	518人
岩手県赤十字血液センター	51人	32人	3人	86人
岩手県赤十字血液センター盛岡大通り出張所	(10人)	(6人)	(0人)	(16人)
岩手県赤十字血液センター奥州供給出張所	(2人)	(3人)	(3人)	(8人)
日赤岩手乳児院	30人	5人	0人	35人
特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘	31人	38人	12人	81人
合　　計	535人	100人	97人	732人

各施設の幹部職員

「盛岡赤十字病院」

(令和8年4月1日現在)

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
病 院 長		藤 原 純	第一泌尿器科部長		瀬 尾 崇
副 院 長		一 戸 克 明	第二泌尿器科部長		欠
副 院 長		藤 原 隆 雄	第一産婦人科部長		本 田 達 也
副 院 長		西 嶋 茂 樹	第二産婦人科部長		畑 山 伸 弥
総合診療科部長		欠	眼 科 部 長		欠
第一血液内科部長		峯 貴 浩	耳鼻咽喉科部長		佐 藤 尚 徳
第二血液内科部長		泉 田 亘	放射線科部長		欠
精神科部長		欠	第一麻酔科部長	兼	西 嶋 茂 樹
脳神経内科部長		欠	第二麻酔科部長		永 田 博 文
呼吸器内科部長		田 村 伸 夫	ペインクリニック科部長		星 有 己 枝
第一消化器内科部長	兼	藤 原 隆 雄	リハビリテーション科部長		欠
第二消化器内科部長		及 川 隆 喜	健 診 部 長		欠
第一循環器内科部長		小 澤 真 人	病 理 部 長		欠
第二循環器内科部長		高 橋 祐 司	薬 剤 部 長		佐 々 木 栄 一
第一小児科部長		小 西 雄 華	医療技術部長	兼	西 嶋 茂 樹
第二小児科部長		梶 原 和 華	医療社会事業部長	兼	船 山 雅 之
消化器外科部長		欠	看 護 部 長		藤 根 美 知 子
第一外科部長		大 山 健 一	看 護 副 部 長		山 口 裕 子
第二外科部長		欠	看 護 副 部 長		斉 藤 美 香
小児外科部長		欠	看 護 副 部 長		赤 川 理 佳
緩和ケア科部長		欠	事 務 部 長		赤 平 寛 彦
第一整形外科部長	兼	一 戸 克 明	総 務 課 長		畠 山 誠 次
第二整形外科部長		欠	経 営 企 画 課 長		沼 田 佳 子
第一脳神経外科部長		船 山 雅 之	医 事 課 長		生 内 正 悦
第二脳神経外科部長		麻 生 謙 太	施設管理課長		砂 子 澤 誠 一
皮膚科部長		欠	医療社会事業課長		及 川 伸 之
			健 診 課 長		鷹 嘴 康 之

「岩手県赤十字血液センター」

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
所 業 部 長		佐 藤 孝	採 血 課 長		中 島 み どり
総 務 課 長		佐 藤 泉 悦	品質情報課長	兼	三 上 浩 二
献血推進課長		三 上 浩 二	医 務 課 長	兼	佐 藤 孝
学術情報・供給課長		乳 井 和 夫	盛岡大通り出張所長	兼	乳 井 和 夫
		田 口 剛	奥州供給出張所長		中 野 宏

「日赤岩手乳児院」

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
院 長	兼	梶 原 和 華	事 務 長		佐 々 木 孝 司

「特別養護老人ホーム鶯鳴荘」

役 職 名	兼 務	氏 名	役 職 名	兼 務	氏 名
園 長		佐 々 木 善 雅	事 務 長		欠

岩手県支部のあゆみ

()内は月

年 号	西 暦	あ ゆ み
明治10年	1877	博愛社創立
20年	1887	「博愛社」を「日本赤十字社」と改称(5月) 「日本赤十字社岩手委員会」を創立(11月)社員数14人
27年	1894	日清戦争が起こり救護活動開始(8月) 日清戦争の間、盛岡駅等主要駅に救護員を派遣し傷病兵の救護、各駅に休憩所を設け茶菓等を提供(27.10～28.5)
29年	1896	本社規則の改正により「岩手委員会」を「岩手支部」と改称(7月) 三陸大津波発生(6月)被災者救護のため医員、看護婦等延102人を派遣。救護人員3,542人 岩手、稗貫、和賀3郡の地震被災地に医員2人を救護のため派遣。現地に診療施設を仮設して25人を救護(8月)
30年	1897	本年度社員数5,239人
(10周年)		看護婦生徒養成細則を定め看護婦養成を開始。初年度入学10人
31年	1898	達曽部村の水害被災地に医員、看護婦4人を派遣し13人を救護 岩手、宮城、福島3支部共同で看護人教育を仙台陸軍衛戍病院に委託(岩手3人)
32年	1899	第1回岩手支部総会を盛岡中学校運動場で開催。参加人員3,244人。この総会の際第1回救護演習を盛岡城跡等の会場にて実施(12月)
33年	1900	北清事変の救護として、本社の召集により模範看護婦1人を広島予備病院に派遣 看護婦養成所を盛岡市内丸に移転。実務練習は私立盛岡病院に委託(10月)
35年	1902	沼宮内町火災の被災地に医員、看護婦等8人を派遣し20人を救護(5月)
36年	1903	第2回岩手支部社員総会を盛岡中学校運動場で開催。参加人員約3,500人。この総会の際第2回救護演習を盛岡城跡等の会場にて実施(11月)
37年	1904	日露戦争が起こり救護活動を開始(2月)本社及び各県支部で教護班149人派遣 第50救護班を大阪予備病院(のちに弘前予備病院)に派遣 第51救護班を姫路予備病院に派遣 同戦争中盛岡駅等に患者休憩所を設け、支部職員及び篤志看護婦人会員などによる傷病兵の救護、送迎等を実施
39年	1906	東北飢饉に米国から義援金を受ける
40年	1907	本年度社員数20,681人
(20周年)		過去10年間の看護婦養成実績入学80人卒業61人
41年	1908	支部本館等の建設敷地を盛岡市仁王内丸に取得。面積2,550.65坪、価格6,750円
42年	1909	支部本館、看護婦生徒寄宿舍等新築建坪188.5坪建築価格23,800円
43年	1910	支部に救護看護婦養成所を設け本年から養成開始

年 号	西 暦	あ ゆ み
明治45年	1912	看護人教育を盛岡衛生病院に委託
大正 2年	1913	岩手支部「結核予防撲滅規程」制定(2月)衛生劇、講演会等実施。診療取扱患者235人(大正11年までの延患者取扱数9,921人)
5年	1916	日本赤十字社岩手支部病院設立計画本社承認 青森県下田・古間木駅間で本県入営兵の搭乗列車が貨物列車と衝突。死亡29人重軽傷100人の事故が発生。医員13人を救護のため派遣(11月)
6年 (30周年)	1917	岩手支部病院工事着工(10月)
7年	1918	盛岡市内に流行性感冒大流行のため臨時救護班等により延309人救護(11月)
8年	1919	弘前第8師団各隊に流行性感冒大流行。同師団軍医部長の依頼により救護看護婦長等5人を派遣し553人を救護(12月)
9年	1920	岩手支部病院落成(4月)(内科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科98床工事費18万円余) 総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ開院式を挙(6月) 第3回岩手支部社員総会に総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ岩手公園で開催。参加入員4,800人(6月) 支部病院開院に看護婦養成を同病院で実施
12年	1923	支部病院に小児科設置、病床数132床に増床(6月) 関東地方大震災の救護のため、本社要請に応じて医員(4人)等27人の救護班を派遣し救護活動。篤志看護婦人会、学童の義援金、救援物資による救援も実施 岩手支部病院看護婦長峰谷カツ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
13年	1924	山田町大火にあたり、被災地に医員等3人を派遣11人救護(4月) 日本赤十字社岩手県支部少年赤十字結成(9月)
昭和 3年	1928	総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ御親授式を支部楼上において開催。さらに少年赤十字団御親閲式を岩手公園において挙(10月) 岩手支部病院看護婦長長谷川トミ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
4年	1929	岩手支部病院看護婦宿舎を改築(7月)
5年	1930	岩手支部病院附属産婆養成所開所(2月) 総裁閑院宮載仁親王殿下の御臨席を仰ぎ第4回社員総会、御親授式、支部病院創立10周年記念式及び少年赤十字団御親閲式を挙(9月)
6年	1931	満州事変派遣救護班鉄嶺衛戍病院(昭和7.8.20解散)に救護看護婦3人派遣
7年	1932	岩手支部病院看護婦長沢田キヌ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
8年	1933	秋田県尾去沢鉱山の沈殿池堤防決壊による被災救護に救護班を派遣(11月) 三陸大津波被災者救護のため4班(釜石町、山田町、小本村及び八木村各方面)の救護班を派遣し、臨時教護所を開設して延1,310人の患者を救護(3月)(東京支部、新潟支部からも救護班の派遣あり)

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和 9年	1934	岩手支部病院に乳幼児保育所(現日赤岩手乳児院)を開設(日本赤十字社の最初の児童福祉施設)
10年	1935	本年度少年赤十字結成状況366団体103,295人
11年	1936	秋田県尾去沢鉱山事故に救護班を派遣。17日間救護活動(11月) 日本赤十字社の社旨普及の映画開催19か所参観者23,600人
12年 (50周年)	1937	日華事変が起こり、救護活動を開始(7月) 赤十字病院の幫助制が実施され、支部病院が陸海軍の戦時衛生業務を幫助することとなる。(第1次昭14.1.10～15.5.15、第2次昭20.4.20～20.8.30、この間の収容治療延42,800人) 岩手支部病院看護婦菱川ハツ「ナイチンゲール石黒記念碑」受章
14年	1939	松尾鉱山の坑道が崩壊。生埋め者(246人)の救護のため医療班(医員3人、看護婦27人、書記1人)を派遣。救護患者数延1,397人
15年	1940	高松宮殿下より岩手保育所に対して500円を援助金として下賜(有栖川宮記念厚生資金)
16年	1941	青森県三本木町の大火に救護班を派遣(5月) 第2次世界大戦が起こり、救護活動開始(12月)
18年	1943	支部病院規則改正により、岩手支部病院を盛岡赤十字病院と改称(1月)
19年	1944	大戦救護に全力を傾注するため平時事業中止
20年	1945	第2次世界大戦終る(8月) 第2次世界大戦の救護本部廃止(11月) (日華事変(昭12.7)から大戦終結までに派遣した救護班17班657人)
21年	1946	引揚者救護のため派遣救護班岩手第1班を編成し浦賀検疫所に派遣(5月)
22年 (60周年)	1947	皇后陛下を日本赤十字社名誉総裁に推戴(1月) 日本国憲法施行(5月) キャサリン台風による被災地(一関市)に救護班を派遣、被災者救護の街頭募金を実施(9月) 盛岡駅に赤十字ハウスを開設し病弱な旅行者等を救護(9月) 社員の社費年額を10円以上と改正(1月) 社員の社費年額を30円以上と改正(10月)
23年	1948	アイオン台風による被災地(死亡393人、行方不明316人、被災者180,117人、被害総額127億円余)に対し、救護班9班を派遣延5,983人の患者を救護(9月) 日赤岩手乳児院が児童福祉法に基づく福祉施設として認可(11月) 岩手支部家庭看護法講習開始

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和25年	1950	共同募金と分離し赤十字単独で募金運動開始(白い羽根赤十字募金)(5月) 岩手県と日赤岩手支部共催で身体障害者巡回相談を開始 看護婦養成所を盛岡赤十字看護学院と改称(3月)。さらに11月盛岡赤十字高等看護学院と改称
27年	1952	「日本赤十字社法」制定。特殊法人となりこれを契機に募金運動より社員増強運動に移行(8月) 「日本赤十字社岩手支部」を「日本赤十字社岩手県支部」と改称
28年	1953	日本赤十字社「新定款」制定(3月) 社員の社費年額を100円以上と定款改正(4月) 岩手県支部事務局長が第5次帰国船興安丸の日本赤十字社代表として乗船(天津より1,192人帰国)(8月) 日本赤十字社「支部規則」制定(9月)
30年	1955	本年度社員数128,496人 本年度社費募集額13,233,881円 本年度末赤十字奉仕団の結団状況 地域奉仕団143団12,839人 学生奉仕団1団50人 職域奉仕団1団130人 計145団13,019人
31年	1956	岩手県支部創立70周年記念事業として盛岡市大志田地区に赤十字山林造成開始 盛岡赤十字病院血液銀行を開設し、開所式を挙行(1月) 名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ第5回社員大会並びに御親授式を県公会堂において開催(9月) 社員制度改正、法人社員を新設(有功章を金色、銀色の2種とする)(4月)
32年 (70周年)	1957	浄法寺町火災の被災16世帯に医療班を派遣(4月) 名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ親授式を支部において開催(11月) 和賀、胆沢地方の強風災害に災害救助法が適用され、被災世帯に救援金を贈る(12月)
33年	1958	21号及び22号台風の被災に対して盛岡地区及び久慈地区に災害救助法が適用され、日赤県支部は報道機関、岩手県社会福祉協議会とともに「水害義援金募集岩手県委員会」を設置して募集(支部扱い義援金5万円余、義援品1,720点) 盛岡赤十字病院附属藪川診療所開設(6月) 本社主催の日赤奉仕団中央指導者講習会を花巻市志戸平において開催(第1ブロック各支部から43人参加)
34年	1959	15号台風の被災地への救援のため「義援金募集岩手県委員会」を設置して募集。愛知県等に義援金品を分配 三陸村及び田老町の豪雨災害に災害救助法が適用され、救援品を送付。 イタリア赤十字から贈られたソルフェリーノの記念樹「糸杉」の種子の配布があり、小山苗圃で愛育管理(62年現在県内には育成していない)

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和35年	1960	チリ地震津波の被害が甚大なことから「義援金募集委員会」を設置して募集。県内外から多大の義援金品が寄せられ、配分委員会によって7,545万円余、2万5千余個の配分を決定し被災地に送付 赤十字による在日朝鮮人の帰還業務が開始され、岩手県支部に臨時帰還業務岩手県対策本部を設置。市地区、町村分区に日赤窓口を設置して帰還業務にあたる。第1回帰還30人
36年	1961	三陸沿岸大火強風災害による被災者(1,008世帯 5,211人 死者5人)に救護班(8班延169人 取扱い患者2,300余人)を派遣したほか、「義援金募集岩手県委員会」を設置して募集(義援金2,104万円余、義援品7,718個)(5月) 日赤、郵政省、NHK共催によるNHK夏季移動相談(医療等)を山田町において実施(8月)
37年	1962	第1回赤十字奉仕団及び青少年赤十字大会を盛岡市下ノ橋中学校において開催。参加者200人(5月)
38年	1963	盛岡赤十字病院第1期改築工事完成(1月) 国際赤十字百周年記念岩手県大会を県公会堂において開催(10月) 在日朝鮮人の帰還業務を日赤単独で実施。38年の帰還者11人 累計124世帯494人
39年	1964	東京オリンピック県内聖火リレーに救護班を派遣 協賛委員制度の充実を図るため、社業推進地区として5町村分区を指定 「岩手県献血推進協議会」設置(11月)
40年	1965	「岩手県赤十字血液センター」開所(3月) 名誉副総裁高松宮妃殿下の御臨席を仰ぎ有功章御親授式並びに社員大会を県公会堂において開催(9月) 本年度社員数192,025人 本年度社費募集総額28,349,416円 本年度献血者4,105人
41年	1966	県北・沿岸豪雨災害発生。久慈市に救護班を派遣。県内外から義援金品の送付。 地域代表協賛委員研究会を4地域で開催(初年度)
42年 (80周年)	1967	岩手県献血推進員制度発足。県内15保健所に駐在(9月) 盛岡赤十字病院第2期病棟改築工事完成(12月) 釜石地区に水上安全奉仕団(25人)結成
43年	1968	岩手県赤十字会館新築落成(鉄筋コンクリート造4階建延2,643㎡支部事務局、血液センター及び乳児院)(1月) 盛岡赤十字高等看護学院新築落成(鉄筋コンクリート造4階建1,554㎡)(1月) 赤十字会館、高等看護学院及び赤十字病院第2期工事の完成を祝して落成式を挙行(7月)

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和44年	1969	名誉副総裁秩父宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、岩手県赤十字社員大会を県公会堂において開催。参加約1,000人(10月)
45年	1970	山形、大野両村の林野火災の被災地に救護員を派遣し、義援金品を贈る
46年	1971	岩手アマチュア無線クラブに赤十字奉仕団結成(団員208人)
		社員の社費額を300円以上と定款改正(5か年間の経過措置を設ける)(4月)
		雫石町上空における全日空機墜落事故にあたり、赤十字病院医師、看護婦による死体処理作業班(4班72人)を派遣。アマチュア無線クラブ赤十字奉仕団は情報通信連絡等で救援活動(7月)
		北朝鮮帰還援助。第6次帰還船ですべての帰還業務終了
47年	1972	家庭看護法講習会に第3部(老人看護)を新設
		本県初の有功会結成(都南村分区)
48年	1973	青少年赤十字岩手県大会を県公会堂において開催。参加者800人(10月)
		和賀地方豪雪被災地に全国から食料品の援助
49年	1974	主要国道事故多発地帯に「交通事故救急連絡所」を4カ年計画で設置(62カ所のうち初年度15カ所)
50年	1975	本年度社員数216,020人
		本年度社費募集額81,460,873円
		本年度献血者46,629人
		本年度赤十字奉仕団状況7団689人
		本年度青少年赤十字加盟校64校13,998人
51年	1976	中国から永久帰国者に対する日本語習得のための講師派遣等の事業を県の委託で本年度から実施(本年3世帯)
		盛岡赤十字高等看護学院が看護専門課程の設置認可を受け、盛岡赤十字看護専門学校と改称(4月)
		遠野市地区有功会結成(4月)
52年	1977	日本赤十字社新社屋落成(4月)
(90周年)		日本赤十字社創立100周年記念事業を実施
		1.日赤100周年記念座談会を岩手日報社と共催で開催(4月)
		2.赤十字事業についての史実、現況等を収録した日赤100周年記念特集号の発行(5月)
		3.赤十字「岩手のつどい」開催。参加400余人(5月)
53年	1978	献血予約登録(現献血登録)制度発足(7月)
		宮城県沖地震により仙台赤十字病院の給食設備が被害を受け、岩手県支部は救援車によりパン(390食)牛乳(300本)を輸送して救援
		主要スキー場にスノーボードを配置(初年度6台)

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
昭和54年	1979	水沢市地区有功会結成(3月) 特別養護老人ホーム「日赤鶯鳴荘」開設(鉄筋コンクリート造平屋建2,314㎡工事費4億2,800万円余、入所定員80人)(5月)		
55年	1980	北上市地区有功会結成(2月) 紫波町同(6月) 日赤救護車を3市地区に配置(4カ年計画で全13市地区に配置する計画) 救護用天幕を20町村分区に配置(3カ年計画で全13市地区、62町村分区に配置する計画) 家庭看護法講習に幼児家庭看護法が追加		
56年	1981	台風15号本県縦断。被災者に本社を経て義援金の寄託があり、遠野市ほか4地区に配分 盛岡赤十字病院移転用地の売買契約締結		
57年	1982	「愛の血液助け合い運動月間」に県南地区を対象として献血キャラバン隊によるPR実施(7月) 岩手県Rh(一)友の会連合会結成。会員600人		
58年	1983	国際赤十字創設120周年並びにNHKテレビ放送30周年にあたり、NHKと日本赤十字社で「海外たすけあい」を実施(2月) フェーン現象のもとで林野等の火災が県内各地に発生(4月)。被害甚大な久慈市に医療救護班(7人)の派遣並びに救援物資配布(1,000人分)のほか義援金品の募集(18,243,000円、40,400個)		
59年	1984	陸前高田市芸能奉仕団結成(2月) 江刺市地域奉仕団結成(4月) 西磐井地区有功会結成(4月) 北部3県支部災害救護訓練。参加者450人(うち奉仕団250人)(10月) 東磐井地区有功会結成(11月) 「NHK海外たすけあい」キャンペーンを歳末たすけあいと同時に初めて実施(12月)		
60年	1985	県総合防災訓練に花巻市赤十字奉仕団非常炊き出し訓練に初めて参加(8月) 災害用移動炊飯器を地区分区に配置開始 矢巾町、大東町、紫波町、室根村の4地域奉仕団結成 二戸地区有功会結成(10月) 本年度社員数 303,958人 本年度社費募集額 178,721,869円 本年度有功会結成状況 9有功会 457人 本年度赤十字奉仕団状況 28団 1,082人 本年度青少年赤十字加盟校 116校 33,443人 本年度献血者 95,143人		

年 号	西 暦	あ ゆ み
昭和61年	1986	社員の社費年額を500円以上と定款改正(3ヵ年間の経過措置を設ける)(4月) 花巻地区有功会結成(3月) 盛岡赤十字病院移転工事着工(3月) 岩手県機構改革に関連し、日赤郡地区の名称及び所管区域変更(4月) 宮古地区有功会結成(8月) 陸前高田市、北上市に地域奉仕団結成
62年 (100周年)	1987	陸前高田市地区有功会結成(1月) 赤十字フェスティバル開催(5月) 盛岡市地区有功会結成(10月) 水沢地区有功会結成(11月) 盛岡赤十字病院、盛岡赤十字看護専門学校及び災害救援センター新築落成(11月) (病院) 鉄筋コンクリート5階 延29,244㎡ 61億円 (学校) 鉄筋コンクリート2階 1,998㎡ 3億2,000万円 (センター) 鉄筋平屋建 569㎡ 3,000万円 敷地90,573㎡
63年	1988	岩手県支部有功会連合会結成(3月) 名誉副総裁三笠宮寛仁親王妃殿下のご臨席を仰ぎ支部創立100周年記念岩手県赤十字大会を岩手県民会館において開催。参加者約2,000人 支部事務局組織改正(総務課、振興課、事業課)(7月) 大船渡市地区有功会結成(10月) 盛岡市大通りに血液センター献血ルーム開設(11月) 遠野市赤十字奉仕団(3月) 住田町アマ無線赤十字奉仕団結成(8月)
平成元年	1989	皇后陛下を名誉総裁に推戴(1月) 花巻市地区有功会結成(3月) 東山町赤十字奉仕団結成(3月) 赤十字フェスティバル開催(5月) 日赤鶯鳴荘創立10周年記念式挙行(9月)
2年	1990	北上地区有功会結成(1月) 江刺市地区有功会結成(3月) 日赤鶯鳴荘老人短期保護施設建設 岩泉町赤十字奉仕団(2月)、江刺市赤十字芸能奉仕団(3月)結成 血液センター移転新築工事着工(7月) 北部3県支部合同災害救護訓練。参加者700人(10月) 台風による被害甚大(9月18号 11月28号)救援物資等の救援活動 久慈地区有功会結成(11月)

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成3年	1991	田野畑村赤十字奉仕団結成(2月) 葛巻町分区有功会結成(3月) 北上市地区、和賀町分区、江釣子村分区合併(4月) 中村直支部長退任(4月)、工藤巖支部長就任(5月) 雫石町分区有功会結成(5月) 赤十字フェア大船渡市において初めての地方開催(5月) 新北上市地区有功会結成総会(7月) 血液センター新築落成(7月)。鉄筋コンクリート造5階 延4,495.09㎡ 10億5千万円余 赤十字会館改装成る(12月)		
4年	1992	九戸村赤十字奉仕団、一戸町アマチュア無線赤十字奉仕団結成(2月) 浄法寺町赤十字奉仕団結成(4月) 盛岡市地区と都南村分区合併(4月) 盛岡市地区有功会と都南村分区有功会合併(4月) 盛岡赤十字病院診療棟増築(リハビリ、透析)(4月) 盛岡赤十字病院が社団法人日本病院建築協会主催第1回病院建築賞受賞(4月) 支部が雫石町から受託し、デイサービス事業(D型)開始(7月) 二戸市赤十字奉仕団結成(7月) 「'92赤十字フェア」二戸市で開催(10月) 大韓赤十字代表団が来県(11月) 盛岡赤十字病院平成4年度都市景観賞受賞(11月)		
5年	1993	'93アルペンスキー世界選手権に積極支援 (救護、通訳、旗門審判、医療セット配備)(2月3日～4日) 大船渡地区有功会結成(3月) 金ヶ崎町赤十字奉仕団結成(3月) 支部事務局組織5年ぶりに改正(4月) 支部初の献血功労・金色功労楯表章者誕生(献血350回)(4月) 「'93赤十字フェア」(一関市)(5月 日) 第29回献血運動推進全国大会に全国から2,000名参加。成功裡に終了(7月) 皇太子、同妃両殿下岩手県血液センター、盛岡赤十字病院ご視察(7月) 北海道南西沖地震(7月12日地震発生)被災者救援に盛岡赤十字病院の医師、看護婦 及び支部職員を救護班として派遣。義援金1億2百万円余集まる 支部がデイサービスセンター(雫石町)の経営を受託し、地域との連携大きく前進(工事で 工8月、完成12月、業務開始6年2月)		

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成 5年	1993	北海道南西沖地震被災者に対する見舞金贈呈式(具志堅用高氏から工藤支部長に) (10月) 献血ルーム「メルシー」開設5周年(一日所長にグレートサスケを迎える)(11月4日) ネパール給水事業の現地確認と周辺赤十字の視察研修に支部職員派遣(12月13日～ 25日)
6年	1994	献血ルーム70,000人達成(1月7日) 千厩町赤十字奉仕団結成(3月) 種市町赤十字奉仕団、野田村赤十字奉仕団結成(3月) 支部受託の雫石町デイサービスセンター(B型)完成し、事業開始(4月1日) 盛岡赤十字病院診療棟増築工事完了(4月30日) 世界赤十字デー蘇生法普及全国統一イベント(盛岡市)(5月8日) 「'94赤十字フェア」(北上市)(5月) 血液事業全国統一システム導入(6月) 本社主催青少年赤十字ネパール派遣事業に全国10人の1人として岩手女子高生が選 出される(8月3日～17日) 献血ルーム成分献血の日キャンペーンに城南小学校生(JRC)が一日所長(9月) 宮城県豪雨災害に際し、救援物資(毛布1,000枚、日用品セット500個)贈る(9月) 北部3県支部合同災害救護訓練(青森)(9月) 第3回全国ボランティアフェスティバル岩手(10月) 三陸はるか沖地震発生(マグニチュード7.5 震度八戸6、盛岡、青森5)(12月28日)
7年	1995	三陸はるか沖地震義援金募集開始(1月4日) 兵庫県南部地震災害(阪神・淡路大震災)発生。直ちに義援金募集開始(1月17日) 兵庫県南部地震災害被害者救援として支部職員2名派遣(1月21日～1月27日) 兵庫県南部地震災害医療救護班第1陣(8名)現地派遣(1月28日～2月4日) 兵庫県南部地震災害医療救護班第2陣(5名)現地派遣(2月17日～2月21日) 雫石町赤十字奉仕団結成(2月) 川崎村赤十字奉仕団結成(2月) 釜石地区大槌町分区有功会結成(3月) 有功章社員章等贈与規則の一部改正(4月) 支部受託雫石町在宅介護支援センター事業開始(4月) 盛岡赤十字病院開院75周年記念式典(4月) 日本赤十字社岩手県支部工藤巖支部長退任(4月28日) 日本赤十字社岩手県支部増田寛也支部長就任(4月29日) 世界赤十字デー周知キャンペーンの一環として瀬戸内寂聴氏の講演会開催(5月)

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成 7年	1995	赤十字日韓職員交換研修のため支部職員を韓国に派遣(6月8日～6月17日) 病院問診項目の全国統一(7月) ボランティアによる在宅訪問サービス事業開始(一関市)(7月) 日赤同方会桐花会殉職会員等慰霊祭(9月) 岩手県赤十字血液センター創立30周年記念式典(9月) 本社主催海外視察研修(ヨーロッパ)のための支部職員派遣(9月24日～10月9日)		
8年	1996	遠野地区宮守村分区有功会結成(2月) 花泉町赤十字奉仕団結成(3月) 沢内村赤十字奉仕団結成(3月) 盛岡赤十字病院、岩手県における基幹災害拠点病院に指定(4月) 献血ルーム「メルシー」献血者10万人達成(4月) 秋山ちえ子講演会(赤十字運動月間広報キャンペーンの一環として)(5月) 北上川上流水防演習に医療救護班派遣(5月) 釜石市地区有功会結成(6月) 救護用エアーテント2張りを配置(8月) 阪神・淡路大震災被災者に対する支援活動に対し菅厚生大臣からの感謝状受賞(8月) 盛岡赤十字病院、血液センター主会場に第1ブロック合同災害救護訓練の実施(9月) 県支部特別企画「赤十字の創始者アンリー・デュナンの足跡を訪ねて」初の海外研修視察(10月5日～15日) 大槌町赤十字奉仕団結成(11月)		
9年 (110周年)	1997	日赤鶯鳴荘で、デンマーク介護専門職員招聘による介護技術研修開催(2月) 阪神・淡路大震災への支援活動続く 石鳥谷、紫波町山林火災に救援物資(炊き出し資材、毛布40枚、タオル40枚)支部職員4名派遣(5月) 海老名香葉子講演会(赤十字運動月間広報キャンペーン)の開催(5月) 県内献血協力者延べ200万人を達成(6月)(200万人達成謝恩キャンペーンを実施) 村上タマオさん(朝鮮民主主義人民共和国在住日本人配偶者)盛岡市へ帰郷(1月)		
10年	1998	岩手県赤十字大会(岩手県支部創立110周年・同有功会連合会結成10周年記念) 名誉副総裁高円宮妃殿下ご臨席宮妃殿下より有功章のご授与62名 盛岡赤十字病院、岩手県赤十字血液センターご視察(11月) 日赤岩手県支部広報業務連絡調整要綱制定。赤十字施設関係者による広報委員会発足(1月) 家庭に眠る善意で“世界の子供を救おう！”75.50全国統一バザーの開催(5～6月) 岩手県内20会場でバザー収益金 1,818,987円 (青少年赤十字創設75周年・赤十字奉仕団創設50周年記念行事として実施)		

年 号	西 暦	あ	ゆ	み
平成10年	1998	家族計画組織活動セミナー(12カ国13人)が盛岡赤十字病院を視察研修(5月) 岩手山西側の大地獄谷周辺で火山性地震が断続的に発生していることから岩手県では災害警戒本部を設置。支部においても災害警戒本部を設置。各施設においては防災体制を強化(6月) 盛岡赤十字病院が厚生省臨床研修病院に指定(8月) 東北地方に停滞した前線の影響で、岩手県南部と沿岸地域に洪水被害 一関市、川崎村、平泉町、東山町に毛布、日用品セット、バスタオル等を搬送。福島県支部には700枚の毛布を搬送(8月) 9月3日午後4時58分雫石町長山で震度6を記録。岩手山周辺で火山活動が活発化 赤十字講習(家庭看護法・救急法)専用室を設置し、普及活動の充実を図る(9月) 二戸市地区有功会結成(11月)		
11年	1999	献血推進専門員制度が発足。県内6ブロックに6名配置(4月) 沿岸地方の大雨災害で、陸前高田市、大船渡市、釜石市、遠野市、大槌町に毛布、日用品セット、バスタオルを搬送(7月) 日赤鶯鳴荘創立20周年記念式典(10月) 大雨により軽米町に災害救助法が適用されるなど、県北部に大きな被害が発生したため二戸市、久慈市、軽米町、山形村に毛布、日用品セット、バスタオルを搬送(10月) 軽米町大雨災害義援金の募集を開始。(10月) 274件 20,212,192円が集まり、義援金配分委員会の決定のもと、二戸市、久慈市、軽米町、山形村、九戸村、普代村に配分 水沢市地区有功会創立20周年記念式典(11月)		
12年	2000	支部初の青少年赤十字国際交流事業の準備として、シンガポール赤十字社を事前視察(3月) 北海道有珠山噴火(3月)。岩手県支部救護班(班長以下7名)伊達赤十字病院内赤十字現地対策本部へ派遣。避難所の巡回診療にあたる(4月) 盛岡市ふれあいランド岩手において「第1回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 台風3号の影響により、野田村、普代村地域の避難所へ毛布、日用品 セット、バスタオルの救援物資を緊急輸送(7月) 青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(8月) 住田町赤十字奉仕団結成(9月) 赤十字幼児安全法講習が開始され、救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法と併せて、5大講習となる		
13年	2001	久慈ライフセービング赤十字奉仕団結成(2月) 防災ボランティア地区リーダー養成研修会開催(3月) 盛岡市川徳デパート前広場において「第2回赤十字フェスティバル」を開催(5月)		

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成13年	2001	青少年赤十字国際交流事業実施。シンガポール国から青少年を迎え交流(6月) 種市町において支部初の水上安全法「海」講習開催(8月) 大船渡市地区と三陸町分区合併(11月)
14年	2002	江刺市赤十字芸能奉仕団解団(3月) 一関市地区赤十字奉仕団と一関市地区婦人赤十字奉仕団が一本化し、一関市赤十字奉仕団として再結成(5月)北上市江釣子ショッピングセンター・パルにおいて「第3回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 日本赤十字社法制定50周年・日本赤十字社創立125周年記念全国赤十字大会(東京都:明治神宮会館)に岩手県から25名が出席(5月) 台風6号大雨災害により東山町に災害救助法が適用(7月) 赤十字防災ボランティアリーダー1名を現地に派遣(7月19日～21日) 東山町大雨災害義援金の募集を開始(7月) 222件8,403,504円が集まり、義援金配分委員会の決定のもとに被災した29市町村に配分 青少年赤十字岩手県賛助会から岩手県青少年赤十字賛助奉仕団に移行(7月) 富士大学学生赤十字奉仕団結成(10月)
15年	2003	青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(1月8日～12日) 北上市江釣子ショッピングセンター・パルにおいて「第4回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 宮城県沖地震(三陸南地震)18時24分発生。県南部を中心に震度6弱を記録。19時10分盛岡赤十字病院医療救護班待機。同日21時20解散。被災者に対し、大船渡市地区から救援物資(毛布・日用品セット・バスタオル)配布(5月) 宮城県北部地震発生。宮城県支部に日用品セット(200セット)を送付(7月) 岩手県消防学校、盛岡赤十字病院を主会場に第1ブロック合同災害救護訓練を実施(10月)
16年	2004	盛岡赤十字看護専門学校閉校(3月) 盛岡赤十字看護専門学校学生奉仕団解団(3月) 遠野市ショッピングセンターとぴあにおいて、「第5回赤十字フェスティバル」を開催(5月) 地域高齢者生活支援の一環として、新たに「セラピューティック・ケア」講座を開始 青少年赤十字国際交流事業「シンガポール国」訪問(8月7日～12日) 青少年赤十字国際交流事業「パプアニューギニア国」RCYメンバー受入れ(11月13日～19日) 新潟県中越地震発生(10月23日 17:56 震度7) 小千谷市に2個班の救護班を派遣し、緊急仮設診療所(ERU)における医療活動、被災者のこころのケア等を行うとともに、日赤現地災害対策本部への要員と、救援物資搬送要員を派遣

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成 17 年	2005	愛知県で開催された愛・地球博(3月～9月)の「愛知万博赤十字パビリオン」の運営スタッフとして支部職員を派遣(4月10日～16日) 水沢グランドホテルライブラリーホールにおいて、水沢市商人まつりと併催し「第6回赤十字ふれあいフェスティバルを開催(6月) 青少年赤十字国際交流事業実施。シンガポール国から青少年を迎え交流(6月9日～14日) 第3回「献血スタンド・バイ・ミー」親と子の血液センター見学会を実施(7月) 支部、関係施設、防災ボランティア合同による災害救護訓練の実施(10月) いわぎん健康クラブから赤十字血液センターの血液運搬車の寄贈(購入経費の一部)(11月)
18 年	2006	「こころのケア」研修の実施(2月) バイク奉仕団の結成(2月) 第一ブロック事業国際活動対象国(ベトナム)視察事業に青少年賛助奉仕団副委員長参加(2月20日～25日) 支部国民保護計画の策定(3月)。保護計画に伴うNBC災害除染セット整備(3月) 岩手県ライフセービング赤十字奉仕団結成(7月) 「第7回赤十字ふれあいフェスティバル」を県立福祉の里センター(大船渡市)で開催(7月) 地区分区有功会の再編(解散有功会：江刺市地区、宮守村分区、水沢市地区、水沢地区、千厩地区、花巻地区)(結成有功会：奥州市地区) 山田アマチュア無線ネット赤十字奉仕団結成(10月)
19 年 (120 周年)	2007	AED(自動体外式除細動器)を旧市町村に58台配備(1月) 八幡平市赤十字奉仕団結成(3月) 救急法基礎講習始まる(4月) 日本赤十字社岩手県支部増田寛也支部長退任(4月29日) 日本赤十字社岩手県支部増達拓也支部長就任(4月30日) 新潟県中越沖地震発生(7月16日) 岩手県支部救護班(7名)を現地に派遣(7月20日～22日) 前線停滞の影響による大雨被害発生。盛岡市、紫波町、石鳥谷町に救援物資輸送(9月) 「第8回赤十字ふれあいフェスティバル」を浄法寺文化センターで開催(11月)

年 号	西 暦	あ ゆ み
平成 20 年	2008	岩手・宮城内陸地震発生（6月14日） 岩手県支部救護班（7名）を一関市に派遣（6月14日） こころのケア班（延べ15名）を奥州市に派遣（6月23日～27日） 岩手県沿岸北部を震源とする地震発生（7月24日） 岩手県支部救護班（7名）を洋野町に派遣（7月24日） 防災ボランティアのためのこころのケア研修開始（10月、12月、3月実施） A E D（自動体外式除細動器）を J R C 加盟の2高等学校に配備（11月） 柔道整復師会赤十字奉仕団結成（11月） 赤十字奉仕団基礎研修開催（二戸市、宮古市、釜石市、久慈市、岩泉町） 岩手県赤十字大会（岩手県支部創立120周年・同有功会連合会結成20周年記念（11月8日） 岩手県支部創立120周年記念事業国内交流派遣事業（本社・東京都支部へ7名高校生）
21 年	2009	「第9回赤十字ふれあいフェスティバル」を花巻市総合体育館で開催（5月） 盛岡赤十字病院緩和ケア病棟竣工記念式典（5月） 岩手大学学生赤十字奉仕団・イーハトーブ学生赤十字奉仕団合同結団式（7月） 岩手県議会議員連盟盛岡赤十字病院緩和ケア病棟視察（9月） 日赤鷺鳴荘創立30周年記念式典（9月）
22 年	2010	国内型緊急対応ユニット【dERU】盛岡赤十字病院へ配備（3月） 国内型緊急対応ユニット【dERU】実技研修 盛岡赤十字病院（4月） 社員増強運動月間街頭キャンペーン【カワトク前・クロステラス】（5月） NBC訓練【盛岡駅・盛岡赤十字病院】（7月） 「第10回赤十字ふれあいフェスティバル」を宮古市シートピアなあとで開催（8月） 「第1ブロック支部合同災害救護訓練」岩手産業文化センターアピオ（10月）
23 年	2011	東日本大震災発生（3月11日） 東日本大震災（3月11日）に対する義援金の受付（3月12日～） 「第11回赤十字ふれあいフェスティバル」を一関市総合体育館サブアリーナで開催（10月）
24 年	2012	東日本大震災復興支援事業「こころのケア」（平成23年9月～平成25年3月まで） 東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキング」（平成23年10月～） 東日本大震災復興支援事業「青空教室」（6月・9月・11月） 東日本大震災復興支援事業「炊き出し交流会」（5月～平成25年3月） 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催（11月）

平成 24 年	2012	「第12回赤十字ふれあいフェスティバル」を八幡平市さくら公園で開催(9月)
平成 25 年	2013	東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成25年4月～) 東日本大震災復興支援事業「ふれあい炊き出し交流会」(平成25年4月～平成26年3月) 東日本大震災復興支援事業「被災地の赤十字講習普及とこころのケア」(平成25年4月～平成26年3月) 岩手県赤十字血液センター奥州供給出張所業務開始(5月) 「第13回赤十字ふれあいフェスティバル」開催 盛岡市イオンモール盛岡 (5月) 「赤十字150年写真展」地方巡回展をいわて県民情報交流センターで開催(7月) 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(7月) 大雨災害に伴い盛岡市、花巻市、矢巾町、紫波町へ救援物資配送(8月9日～10日) 岩手県平成25年豪雨・大雨災害義援金の受付(8月14日～9月30日) 東日本大震災復興支援事業「赤十字キャリア教育支援」(8月) 台風18号に伴う大雨災害により盛岡市へ救援物資配送(9月) 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月)
26 年	2014	東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成26年4月～継続) 東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成26年4月～平成27年3月) 日赤岩手乳児院盛岡市三本柳へ移転新築(4月) 盛岡市林野火災に伴い盛岡市玉山区総合福祉センターへ救援物資配送(4月) 「第14回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。 盛岡市イオンモール盛岡(5月) 東日本大震災復興支援事業「JRC赤十字ふれあいコンサート」(6月) 東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2014inいわて」(7月29日～31日) 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月) 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月) 防災教育プログラムパイロット事業実施(1月) 防災ボランティア養成研修開催(2月) 日本赤十字社岩手県支部盛岡市三本柳へ移転新築(新社屋落成式2月20日、新社屋業務開始3月1日)
27 年	2015	東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成27年4月～) 東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成27年4月～平成28年3月)

平成 27 年	2015	「第15回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡（5月） 東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2015inいわて」（7月） 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」（8月） 日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修（8月） 東日本大震災復興支援事業「赤十字ふれあいコンサート」（8月） 東ティモール赤十字社救急法等普及支援事業支部職員派遣（10月17日～25日） 防災教育プログラムパイロット事業実施（10月） 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催（11月） カンボジア赤十字社救急法普及支援事業支部救急法ボランティア指導員派遣（11月6日～15日）
28 年	2016	日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修（1月） 東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」（平成28年4月～） 東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」（平成28年4月～平成29年3月） 熊本地震災害発生（4月） 岩手県支部第1救護班（7名）を現地に派遣（4月19日～24日） 盛岡赤十字病院医師1名を熊本赤十字病院支援に1名派遣（4月25日～5月1日） 盛岡赤十字病院看護師1名を熊本赤十字病院支援に1名派遣（4月29日～5月5日） 岩手県支部第2救護班（7名）を現地に派遣（5月1日～6日） 「第16回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡（5月） 盛岡赤十字病院看護師1名を熊本地震被災者健康支援事業に2名派遣（7月15日～22日） 東日本大震災復興支援事業「サマーキャンプ2016inいわて」（7月） 東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」（8月） 日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修（8月） 台風10号災害発生（8月） 岩手県支部救護班6班（33名）を矢巾消防学校SCUに派遣（8月31日～9月2日） 久慈市、宮古市、岩泉町、住田町に救援物資輸送（8月） 日赤災害医療コーディネーター（6名）を岩泉町に派遣（9月6日、9日） 第71回国民体育大会・第16回全国障害者スポーツ大会臨時救護に救護員45名を派遣（9月25日～10月24日） 日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催（11月）
29 年 (130周年)	2017	日本赤十字社定款の一部変更（4月1日） 年額2,000円以上の会費を納めるものを会員と定め、会員を社法上の社員と規定

平成 29 年 (130 周年)	2017	日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(平成29年4月～)
		東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(平成29年4月～平成30年3月)
		釜石市林野火災に伴い釜石市立平田小学校避難所及び旧県立釜石商業高校体育館避難所に救援物資配送(5月)
		「第17回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5月)
		赤十字奉仕団岩手県支部委員会増沢委員長が赤十字奉仕団中央委員会委員長に就任(6月)
		東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月)
		日本赤十字社岩手県支部防災ボランティア養成研修(8月)
平成 30 年	2018	日本赤十字社岩手県支部施設合同災害救護訓練開催(11月)
		東日本大震災支援国赤十字・赤新月社会議(2月)
		東日本大震災復興支援事業「ノルディックウォーキングとこころのケア」(4月～平成31年3月)
		東日本大震災復興支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」(4月～平成31年3月)
		「第18回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5月)
		特別養護老人ホーム日赤鶯鳴荘:雫石町南畑へ新築移転(落成式6月26日・業務開始7月1日)
		東日本大震災復興支援事業「盛岡赤十字病院職場体験」(8月)
平成 31 年 令和元年	2019	平成30年7月豪雨災害発生に伴い、こころのケア班(4名)を広島県呉市に派遣。(8月9日～16日)
		北海道胆振東部地震発生に伴い、盛岡赤十字病院DMAT班、救護班2班、こころのケア班1班、こころのケア調整班1班を現地に派遣。(9月6日～10月1日)
		岩手県赤十字大会(岩手県支部創立130周年・同有功会連合会結成30周年記念)(11月2日)
		赤十字レッドライトアッププロジェクト初参加 盛岡城跡公園の石垣の一部を赤くライトアップ。(5月)
		「第19回赤十字ふれあいフェスティバル」開催。盛岡市イオンモール盛岡 (5月)
		ラグビーワールドカップ2019釜石開催に係る岩手県国民保護共同訓練(7月11日)、7月27日、9月25日のラグビーワールドカップ試合にテロ災害等に備え救護班を派遣
		東日本大震災被災地支援事業「赤十字奉仕団ふれあい交流会」開催 (7月13日～12月17日まで のべ13回)

平成 31 年 令和元年	2019	令和元年東日本台風(台風第19号)災害発生(10月12日) 被災した市町村に救援物資配送(10月13日～11月8日) 宮城県丸森町に岩手県支部救護班1班(7名)を派遣(10月16日～19日) 宮城県支部支援のため岩手県支部職員2名を派遣(10月19日～23日) ボランティアセンターを開設し、沿岸被災地に防災ボランティア等26名を派遣(10月18日～11月17日) 12月下旬 新型コロナウイルスが中国湖北省武漢市で発生し、全世界に感染拡大。日本でも2020年1月に初の感染者が確認 2月末 今年度の救急法等の講習を全て中止 新型コロナウイルス感染症対応(ダイヤモンドプリンセス号の乗船者(PCR陰性2週間隔離対象者)の健康管理のため、税務大学校へ救護班(医師1名・看護師長1名・看護師1名・薬剤師1名)を派遣(2月28日～3月1日) 3月3日～4日開催予定の赤十字奉仕団委員長・事務担当者会議を中止
令和 2 年	2020	新型コロナウイルス感染症拡大のため、支部災害対策警戒本部を設置(4月17日) 職員を2班に分け隔日勤務とし、在宅勤務時にはリモートアクセスを利用 (4月20日～5月10日) 赤十字レッドライトアッププロジェクトに参加し、盛岡城跡公園の一部を赤くライトアップ(5月8日～5月28日) 6月から各種短期講習、11月から救急法基礎講習を再開 JRCリーダーシップ・トレーニング・センターが新型コロナウイルス感染症の影響で中止(2020年で70周年であったが初の中止) 第1回評議員会(6月10日予定)、第2回評議員会(2月10日予定)とも新型コロナウイルス感染症の影響により文書審議 第1ブロック支部合同災害救護訓練を盛岡市で実施(11月6日～7日) 災害救助犬のユキとサチに岩手県支部のロゴ入りハーネス用ワッペンを贈呈 災害救助犬のハーネスに赤十字マークのワッペンを付けるのは全国初(1月) 日本赤十字社が東日本大震災義援金の募集を3月31日で終了(約10年間募集)
令和 3 年	2021	青少年赤十字創設100周年記念岩手県ポスターコンクール実施(5月～11月) 全国赤十字大会(明治神宮会館:5月20日開催予定)が新型コロナウイルス感染症の影響で中止 第1回評議員会を盛岡市において開催(6月15日) 青少年赤十字スタート・プログラムを滝沢市において実施(7月29日～30日) 宮城県において実施予定の第1ブロック支部合同災害救護訓練(10月8日～9日)は、新型コロナウイルス感染症の影響で翌年度に延期

令和 3 年	2021	釜石市で開催された「防災推進国民」大会に出展(11月6日～7日) 復興支援事業として陸前高田市、釜石市、大槌町の地域住民を対象に、平泉町にてノルディックウォーキングと交流会を実施(11月17日) 第2回評議員会(2月10日予定)は新型コロナウイルス感染症の影響により文書審議「次世代へ繋ぐ社会貢献セミナー」(遺贈・相続財産寄付)を盛岡市にて開催(2月23日) ウクライナ人道危機救援金の募集を開始(3月2日～)
令和 4 年	2022	第1回評議員会を盛岡市において開催(6月20日) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター(滝沢市にて7月26日から7月28日実施予定)が新型コロナウイルス感染症の影響で中止 大雨災害で青森県支部に救援物資支援(8月10日・25日) 次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを北上市において実施(9月1日) 岩手県支部有功会感謝の集いを盛岡市において実施(9月9日) 赤十字ふれあいフェスティバルを北上市において実施(10月9日) 管内施設合同災害救護訓練を盛岡市において実施(10月14日) 赤十字ふれあいフェスティバルを盛岡市において実施(10月16日) 明治安田生命と連携協定締結(2月9日) 第2回評議員会を盛岡市において開催(2月13日) 次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを盛岡市において実施(2月1日) 第28回日本災害医学会総会・学術集会で演題発表:盛岡市(3月10日) いわて防災サミットに防災ブース出展:盛岡市(3月10日)
令和 5 年	2023	第1回評議員会を盛岡市において開催(6月6日) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターを滝沢市において実施(7月27日～28日) 秋田県大雨災害被害へこころのケア・避難所アセスメントチームを派遣予定だったが、ニーズ減少のため派遣中止(7月28日～31日) さんさ踊り参加(管内全施設:8月3日) 管内施設合同災害救護訓練を盛岡市において実施(9月22日) 盛岡市長選挙の結果により副支部長が交代することに伴い、評議員会文書審議を実施(9月上旬) 地域包括ケア推進に関する協定書締結(支部・盛岡赤十字病院)宮古市、陸前高田市(9月) 第1ブロック支部合同災害救護訓練を石巻市において実施(10月19日～21日)

令和 5 年	2023	次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを釜石市において開催(10月29日) 岩手県支部有功会感謝の集いを盛岡市において開催(12月14日) 第2回評議員会を盛岡市において開催(2月6日) 次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを盛岡市において開催(3月2日) R6年能登半島地震(1月1日)発災 救護班第1班派遣(1月10日～14日)、第5班(2月13日～17日)まで派遣 日赤災害医療コーディネートチーム派遣2班(1月24日～30日、2月13日～25日) こころのケア班1班派遣(3月18日～24日)
令和 6 年	2024	第1回評議員会を盛岡市において開催(6月10日) 赤十字ふれあいフェスティバルを盛岡市において実施(6月23日) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターを滝沢市において実施(7月30日～31日) さんさ踊り参加(管内全施設:8月3日) 管内施設合同災害救護訓練を盛岡市において実施(9月12日) 第1ブロック支部合同災害救護訓練を北海道北見市において実施(10月4日～5日) 次世代へ繋ぐ社会貢献セミナーを二戸市において開催(10月27日) 日赤紺綬・有功会会長協議会総会を盛岡市において開催(11月6日・鈴木副社長出席) 第2回評議員会を盛岡市において開催(2月3日) 大船渡市林野火災日赤岩手県支部災害対策本部設置(2月26日) 大船渡市林野火災救援物資配送(2月26日) 大船渡市林野火災コーディネートスタッフ派遣(2月27日～3月14日) 大船渡市林野火災アセスメントチーム派遣(2月28日) 大船渡市林野火災救援物資配送(3月3日) 大船渡市林野火災こころのケア班派遣(3月4日～7日) 遺贈、相続財産寄付に関するセミナーを盛岡市において開催(3月9日) 大船渡市林野火災日赤岩手県支部災害対策本部解散(3月17日) 任期満了に伴う支部長・副支部長選任にかかる評議員文書審議(3月下旬)
令和 7 年	2025	赤十字ふれあいフェスティバルを盛岡市において開催(5月10日) 第1回評議員会を盛岡市において開催(6月9日) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターを滝沢市において実施(7月30日～31日)

令和 7 年	2025	さんさ踊り参加(管内全施設:8月2日) 第1ブロック支部赤十字救護班研修を石巻市にて実施(8月9日～10日) 大阪・関西万博を支部職員及び赤十字奉仕団員等が視察(9月8日～10日) 第1ブロック支部合同災害救護訓練を男鹿市において実施(10月10日～11日) 岩手県赤十字有功会の集いを盛岡市において開催(10月21日) 遺贈、相続財産寄付に関するセミナーを盛岡市において開催(12月7日) 第2回評議員会を盛岡市において開催(2月2日) 支部災害救援センターをワックス清掃(3月9日)
--------	------	---

日本赤十字社現勢

日本赤十字社の使命				わたしたちは、 苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、 いかなる状況下でも、 人間のいのちと健康、尊厳を守ります。				日本赤十字スローガン 人間を救うのは、人間だ。				赤十字の基本原則 人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性			
1949年のジュネーブ四条約締結国				196カ国				世界の赤十字社・赤新月社等				191社			
1. 沿 革				明治10年(1877) 5月 1日 博愛社設立 明治20年(1887) 5月20日 日本赤十字社に改称 昭和27年(1952) 8月14日 日本赤十字社法制定				12. 国内災害救護							
2. 名誉総裁・名誉副総裁								救護員数				9,084人(常備救護班要員を含む)			
名 誉 総 裁 皇 后 陛 下								常備救護班				490班 6,226人			
名 誉 副 総 裁 秋篠宮皇嗣妃殿下								無線局				(令和7年3月31日現在) 3,089局			
常陸宮殿下・同妃華子殿下								救護車両				2,183台			
寛仁親王妃信子殿下								赤十字飛行隊(特殊奉仕団)				78人			
高円宮妃久子殿下								災害における救護員出動数(令和6年度)				905人			
								救護物資配分数(毛布・安眠セット・緊急セット)(令和6年度)				10,872個			
								令和6年度取扱災害義援金額(令和7年3月31日現在)				321億7,941万5,307円			
3. 会 員				個人 19.7万人 (令和7年3月31日現在) 法人 7.6万法人				13. 医 療 事 業							
4. 評 議 員				2,004人				施 設 数							
5. 代 議 員				223人				病 院				90			
6. 役 員(令和7年7月1日現在)								診 療 所				5			
社 長 清家 篤(常勤)								老人保健施設				4			
副 社 長 鈴木 俊彦(常勤) 筒井 義信(非常勤)								介護医療院				5			
理 事 61人(常勤5人、非常勤56人)								病 床 総 数				34,083床(令和7年3月31日現在)			
監 事 3人(常勤1人、非常勤2人)								総患者数(令和6年度)				1日平均			
								入 院				981万人 2.7万人			
								外 来				1,537万人 6.3万人			
7. 青少年赤十字(令和7年3月31日現在)								14. 血 液 事 業							
幼稚園・保育所等				1,778校 133,361人				施 設 数							
小 学 校				6,956校 1,868,411人				地域血液センター				47 7			
中 学 校				3,441校 936,117人				附属施設				168 4			
高 等 学 校				1,732校 343,608人				(献血ルーム115を含む)							
特 別 支 援 学 校				234校 24,560人				献血者数(令和6年度)				供給本数(令和6年度)			
そ の 他				163校 39,403人				成 分 献 血				155万人 輸 血 用 製 剤 1,737万本			
計				14,304校 3,345,460人				400mL 献 血				331万人 車両台数(令和7年3月31日現在)			
指 導 者				274,847人				200mL 献 血				12万人 献血 運 搬 車 767台			
								計				499万人 移 動 採 血 車 275台			
8. 赤十字ボランティア(令和7年3月31日現在)								15. 社会福祉事業							
地域赤十字奉仕団				2,048団 634,747人				児 童 福 祉 施 設 数(定員)							
青年赤十字奉仕団				149団 5,108人				乳児院				8(282) 医療型障害児入所施設 3(284)			
特殊赤十字奉仕団				603団 26,853人				保育所				3(329)			
個人ボランティア等				- 11,320人				児童養護施設				1(40)			
計				2,800団 678,028人				老 人 福 祉 施 設 数(定員)							
9. 救急法等の講習								特別養護老人ホーム(併設ケアハウス20人を含む)				8(773)			
資格登録者数(令和7年3月31日現在)				受講者数(令和6年度)				障 害 者 福 祉 施 設 数(定員)				複 合 型 施 設 1(定員)			
指 導 者				救 急 員 等				障害者支援施設				1(50) 特別養護老人ホーム (110)			
救 急 法				7,001人 61,390人 39,373人				視聴覚障害者情報提供施設				2 介護老人保健施設 (100)			
水 上 安 全 法				1,488人 4,989人 50,846人				補装具製作施設				1 高齢者グループホーム (18)			
雪 上 安 全 法				227人 773人 274人				障害者支援施設				(10)			
幼 児 安 全 法				2,270人 9,351人 63,679人											
健康生活支援講習				1,701人 5,691人 50,397人											
計				23,673人 220,591人 536,024人											
10. 看護師等の教育								16. 職員数(施設数)							
施設数				一 学 年 養 成 定 員				職 員 数							
大学(大学院併設)				6 看護師 15校 1,115人				本社(1)				562人			
短期大学				1 助産師 6校 88人				支部(47)				705人			
看護専門学校				9 保健師 6校 174人				医療事業(114)				59,881人			
助産師学校				1 幹部看護師 1校 120人				血液事業(226)				5,758人			
幹部看護師研修センター				1 介護福祉士 1校 30人				社会福祉事業(28)				1,209人			
計				18				計				68,115人			
11. 国際活動								17. 会 計(令和7年度当初予算)							
国際救援・開発要員派遣(令和6年度)				14カ国 のべ45人				一 般 会 計				本 社 170億8千万円			
国際赤十字・赤新月社連盟出向(令和6年度)				3人(スイス、マレーシア)				支 部				187億8千万円			
国際活動費(令和6年度)				68億6千万円				医 療 施 設 特 別 会 計				1兆2,509億9千万円			
								血 液 事 業 特 別 会 計				1,683億4千万円			
								社 会 福 祉 施 設 特 別 会 計				169億8千万円			

用 語 解 説

(令和8年4月1日現在)

代議員会

本社における議決機関。各支部の会員の中から選出された 223 人の代議員で構成されている。

評議員会

支部における審議機関。各地区・分区の会員の中から選出された 32 人の評議員で構成されている。

会員・協力会員

赤十字の理念や活動にご賛同いただき、毎年継続して 2,000 円以上ご支援(会費という)いただける方を「会員」、500 円以上 2,000 円未満のご支援(会費という)をいただける方を「協力会員」と呼んでいます。個人・法人を問わず、どなたでも「会員」、「協力会員」になることができます。

有功章

多額の会費を納めた個人・法人又は団体及び赤十字の業務について特別な功労があった個人・法人又は団体に対し、日本赤十字社有功章等贈与規則に基づき贈られる表彰。銀色(ぎんしょく)と金色(きんしょく)があり、金色有功章は最高の荣誉章とされている。

有功会

日本赤十字社の社旨に賛同し多額の金品を拠出し、あるいは功労により有功章を贈られた会員で構成する任意団体。

赤十字奉仕団

赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々によって結成されたボランティア組織。

青少年赤十字(Junior Red Cross : JRC)

将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら作り上げることを目的とした事業。

RCY(Red Cross Youth : 青年赤十字)とともに世界共通。

リーダーシップ・トレーニング・センター

合宿生活を通じ、青少年赤十字精神と奉仕活動を学ぶリーダー養成研修会。

国際赤十字

赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国赤十字社・赤新月社の総称。

赤十字国際委員会 (International Committee of the Red Cross : ICRC)

戦時救護事業の中心機関で、中立を保つことができるよう委員は永世中立国のスイス人で構成されている。ジュネーブに本部を置く。

国際赤十字・赤新月社連盟 (International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies : IFRC)

平時における赤十字事業の中心となる各国赤十字社の国際的連合体。最高議決機関は通常 2 年ごとに開催される総会。本社所在地ジュネーブ。

各国赤十字社・赤新月社

各々の国における人道的事業の実施機関。使用する標章の違いから、赤十字社と赤新月社の 2 種の呼称があるが、権利・義務、役割等は全く同じ。令和6年4月 1 日現在で 192 社。

赤十字・赤新月国際会議

国際赤十字・赤新月運動の最高議決機関。赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国の赤十字社及びジュネーブ条約加入国政府の代表によって構成され、原則として 4 年ごとに開催される。それぞれの国の赤十字社代表と政府代表等が一票ずつの投票権をもっている。

ジュネーブ条約

赤十字の目的を達成するには国家間の取り決めが必要で、戦場で負傷した兵士を敵、味方の区別なく救助することとし、救助する人たちの活動の安全保障をするために 1864 年成立した条約。赤十字条約とも国際人道法ともいわれる。

赤十字標語一覧

- 1982年（昭 57） あなたの身近に赤十字
1983年（昭 58） とっさの手当てが命を守る！ 覚えよう救急法
1984年（昭 59） 人道を通じて平和へ
1985年（昭 60） あなたの若さを一赤十字
1986年（昭 61） いのちを救う愛の献血一赤十字
1987年（昭 62） 幼い生命に愛の手を一赤十字
1988年（昭 63） 伝統を明日への力に一赤十字
1989年（平 元） 愛の手を世界に広げる赤十字
1990年（平 2） 守ろう！ 人のいのちと尊さを
1991年（平 3） 救おう！ 災禍にあえぐ人々を
1992年（平 4） 災害に備えて守る尊い生命一赤十字
1993年（平 5） すべての人々に人間の尊厳を
1994年（平 6） すべての人々に人間の尊厳を
1995年（平 7） すべての人々に人間の尊厳を
1996年（平 8） すべての人々に人間の尊厳を
1997年（平 9） すべての人々に人間の尊厳を
1998年（平 10） すべての人々に人間の尊厳を
1999年（平 11） すべての人々に人間の尊厳を
2000年（平 12） すべての人々に人間の尊厳を
2001年（平 13） 人道は限りない力
2002年（平 14） 人道は限りない力
2003年（平 15） 人道は限りない力
2004年（平 16） 守ろう人間の尊さを
2005年（平 17） 守ろう人間の尊さを
2006年（平 18） 守ろう人間の尊さを
2007年（平 19） 守ろう人間の尊さを
2008年（平 20） 人間を救うのは、人間だ。
2009年（平 21） 人間を救うのは、人間だ。
2010年（平 22） 人間を救うのは、人間だ。
2011年（平 23） 人間を救うのは、人間だ。
2012年（平 24） 人間を救うのは、人間だ。
2013年（平 25） 人間を救うのは、人間だ。
2014年（平 26） 人間を救うのは、人間だ。
2015年（平 27） 人間を救うのは、人間だ。
2016年（平 28） 人間を救うのは、人間だ。
2017年（平 29） 人間を救うのは、人間だ。
2018年（平 30） 人間を救うのは、人間だ。
2019年（平 31） 人間を救うのは、人間だ。
2020年（令 2） 人間を救うのは、人間だ。
2021年（令 3） 人間を救うのは、人間だ。
2022年（令 4） 人間を救うのは、人間だ。
2023年（令 5） 人間を救うのは、人間だ。
2024年（令 6） 人間を救うのは、人間だ。
2025年（令 7） 人間を救うのは、人間だ。
2026年（令 8） 人間を救うのは、人間だ。

施 設 一 覧

施 設 等 名	郵便番号	住 所	電話番号	FAX
日本赤十字社岩手県支部	020-0831	盛岡市三本柳6-1-10	019-638-3610	019-638-3619
盛岡赤十字病院	020-8560	盛岡市三本柳6-1-1	019-637-3111	019-637-3801
岩手県赤十字血液センター	020-0831	盛岡市三本柳6-1-6	019-637-7200	019-637-4371
岩手県赤十字血液センター 盛岡大通り出張所	020-0022	盛岡市大通二丁目3-7 〔「CT33」4F〕	019-653-6511	019-653-6558
岩手県赤十字血液センター 奥州供給出張所	023-0062	奥州市水沢字小石田66-4	0197-47-4827	0197-47-4874
日赤岩手乳児院	020-0831	盛岡市三本柳6-1-10	019-614-0821	019-907-3612
特別養護老人ホーム 日 赤 鷲 鳴 荘	020-0573	岩手郡雫石町南畑第32地割15-30	019-695-2131	019-695-2576
本 社	105-8521	東京都港区芝大門一丁目1-3	03-3438-1311	—